

東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う

鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

正 誤 表

訂 正 箇 所	誤	正
2頁 22行目	長原色土器	長原式土器
2頁 24行目	方形集溝墓	方形周溝墓
2頁 34行目	山麗部	山麓部

東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う
鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

2004. 3

東大阪市教育委員会

はしがき

国道308号線の拡幅、近鉄東大阪線・阪神高速道路東大阪線・第二阪奈有料道路の開通など東西交通網の整備は、今回の調査地を含む周辺地域の開発を誘導し、それまでの田園風景を一変させ、住宅・工場・会社などが建ち並ぶ都市化へと変容させました。

鬼虎川遺跡は、これまでの発掘調査によって弥生時代中期の代表的な拠点集落としてよく知られています。しかし、本遺跡は後期旧石器時代以降現在に至るまで、食物の獲得地・集落・生産域などとして、ほとんど人跡の途絶えたことはありません。今回の調査においては、とくに弥生時代の集落状況の一端を窺うことができました。本書の内容は地域史解明の一助になるものと思っていきます。

現地調査および遺物整理・報告書作成にあたってご協力・ご教示を賜った関係諸機関・諸氏に感謝するとともに、今後一層のご指導・ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成16年3月

東大阪市教育委員会

例　　言

1. 本書は、東大阪市立弥生学校給食センター建設工事に伴う鬼虎川遺跡第55次発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は東大阪市教育委員会学校給食課の依頼を受けて、同文化財課が実施した。
3. 調査にかかる費用は、全額東大阪市教育委員会学校給食課が負担・用意した。
4. 発掘調査は平成14年12月2日～平成15年2月13日まで実施した。ただし、平成14年10月9日から11月29日までの間、機械掘削と支保工の架設工事を行なった。
5. 現地調査は若松博恵が担当し、吉田綾子・松田留美の協力を得た。遺物整理は才原金弘・釜田有里恵が担当した。
6. 動物遺体の同定については大阪市立大学医学研究科分子生体医学大講座器完構築形態学の安部みき子氏に依頼し、報文を賜った。
7. 基本杭・調査杭の打設は株式会社昭和設計コンサルタント、写真測量は株式会社アコード、遺物写真是G F プロに委託して実施した。
8. 本書はI～III-1～3およびVを若松、III-4を才原、IVを安部が執筆し、若松が編集した。
9. 現地の土色および土器等の色調は農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人色彩研究所色票監修『新版 標準上色帖』(2000年版)に準拠し、記号表記もこれに従った。
10. 調査及び報告書作成にあたっては下記の方々にご協力・ご教示を賜った。記して謝意を表します（敬称略・順不同）。

東大阪市教育委員会学校給食課、東大阪市下水道部設計課、株式会社タナカコンストラクション、安西工業株式会社。

11. 現地調査及び遺物整理・報告書作成には下記の方々の参加を得た。

内田真吾、岩本圭祐、辰巳友邦、平田ジュニオル、荻野結実、西村優、利田忠美、西村慶子、川田純子、八田美代子、北口泰子、中野智香

本文 目 次

I. 調査に至る経過	1
II. 位置と環境	2
III. 調査の概要	5
1. 調査の方法	5
2. 層位と機械掘削層の概要	5
3. 造構	10
4. 遺物	33
IV. 動物遺体	66
V. まとめ	68

挿 図 目 次

第1図 調査地点およびトレーナ位置図	1
第2図 遺跡周辺図	3
第3図 各次調査位置図	4
第4図 調査地区割図	5
第5図 西壁断面図1	6
第6図 西壁断面図2	7
第7図 第14層上面造構平面図(折り込み)	11・12
第8図 第14層上面造構平面図—大土坑部分—	13
第9図 第14層上面柱・杭断ち割り断面図—主要形態—	14
第10図 第13上層・下層上面造構平面図(折り込み)	17・18
第11図 第13下層上面造構平面図—部分—	19
第12図 第13下層造構断面・断ち割り断面図	20
第13図 炉ビット断面図	20
第14図 自然流路2・流路内足跡平面実測図	21
第15図 第9下層上面造構・溝4・自然流路1平面実測図(折り込み)	23・24
第16図 大土坑出土上器実測図	34
第17図 大土坑出土土器実測図	35
第18図 土坑4・5・6・10・16・17・18出土土器実測図	36
第19図 大溝1出土土器実測図	38
第20図 大溝2、溝3・6・B・C・D、自然流路出土土器実測図	40
第21図 落ち込み出土土器尖測図	42
第22図 落ち込み出土土器尖測図	43
第23図 第13層出土土器実測図	44

第24図 第13層出土土器実測図	45
第25図 第13層出土土器実測図	46
第26図 第13層出土土器実測図	47
第27図 第13層川土土器実測図	49
第28図 第13層出土上土器実測図	50
第29図 第13層出土土器実測図	51
第30図 第13層出土土器実測図	52
第31図 第13層出土土器実測図	53
第32図 第13層出土土器実測図	54
第33図 第13層出土土器実測図	55
第34図 第13・14層出土上土器実測図	57
第35図 第9層出土上土器実測図	58
第36図 木製品実測図	59
第37図 木製品実測図	60
第38図 石器実測図	62
第39図 石器実測図	63
第40図 土製品・骨製品実測図	64

表 目 次

第1表 柱・杭一覧表	15
第2表 第9下・13下・14層上面遺構一覧表	25~32
第3表 川土動物遺体一覧表	66
第4表 出土イノシシ頻度表	67

図版目次

- 図版1 遺構 1. 調査地航空写真（1984年撮影）
2. 調査トレンチ全景（南から）
- 図版2 遺構 1. 西壁断面-6地区付近-1
2. 西壁断面-6地区付近-2
3. 西壁断面-6地区付近-3
- 図版3 遺構 1. 第14層上面遺構-7地区から9地区-（北から）
2. 第14層上面遺構-7地区-（東から）
- 図版4 遺構 1. 第14層上面遺構-8地区-（東から）
2. 第14層上面遺構-9地区-（東から）
- 図版5 遺構 1. 第14層上面遺構-10地区から12地区-（北から）
2. 第14層上面遺構-10地区-（東から）
- 図版6 遺構 1. 第14層上面遺構-11地区-（東から）
2. 第14層上面遺構-12地区-（南から）
- 図版7 遺構 1. 大溝A内木製品出土状況-2地区-（東から）
2. 大溝A北肩付近-1～3地区-（北から）
- 図版8 遺構 1. ピットa・b断ち割り状況-11・12地区-（南から）
2. 各柱・杭断ち割り状況1
- 図版9 遺構 各柱・杭断ち割り状況1
- 図版10 遺構 1. 炉跡および焼土散乱状況-7・8地区-（東から）
2. 第13下層上面遺構-10～12地区-（北から）
- 図版11 遺構 1. 第13下層上面遺構-12地区-（東から）
2. 第13下層上面遺構-11地区-（東から）
- 図版12 遺構 1. 自然流路2南肩付近と同内足跡-3・4地区-（南から）
2. 自然流路1～2～3地区-（西から）
- 図版13 遺構 1. 溝4-1・2地区-（西から）
2. 第9層内石斧出土状況-8地区-（東から）
- 図版14 遺構 1. 第9層上面遺構-溝3-（東から）
2. 第9層上面遺構2-溝1・2-（北から）
- 図版15 遺物 大土坑・土坑5・16出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋
- 図版16 遺物 大溝1・溝13・落ち込み出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋
- 図版17 遺物 落ち込み・第13層出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋
- 図版18 遺物 第13層出土弥生土器 細頸壺・無頸壺・高坏・鉢
- 図版19 遺物 第13層出土弥生土器 高坏・甕・壺蓋
- 図版20 遺物 第13・14層出土弥生土器 壺・甕・台付無頸壺、第9層出土須恵器 坏・蓋坏
- 図版21 遺物 1. 大土坑出土弥生土器 壺・細頸壺
2. 大土坑出土弥生土器 壺・甕
- 図版22 遺物 1. 大土坑出土弥生土器 甕

2. 大土坑出土弥生土器 豐・鉢
- 図版23 遺物 1. 大土坑出土弥生土器 鉢・甕蓋
2. 土坑4・5・6出土弥生土器 壺・甕・高坏・鉢
- 図版24 遺物 1. 上坑10・16・17・18出土弥生土器 鉢・壺・甕
2. 上坑16出土弥生土器 鉢・甕
- 図版25 遺物 1. 大溝1出土弥生土器 甕
2. 大溝1出土弥生土器 甕
- 図版26 遺物 1. 大溝1出土弥生土器 甕・甕蓋・細頸壺
2. 大溝1出土弥生土器 壺・鉢
- 図版27 遺物 1. 溝2出土弥生土器 壺・細頸壺・鉢
2. 溝2・3・6出土弥生土器 壺・甕・鉢
- 図版28 遺物 1. 溝B・C・D出土弥生土器 壺・甕・甕蓋
2. 自然流路出土弥生土器 甕・高坏
- 図版29 遺物 1. 落ち込み出土弥生土器 壺
2. 落ち込み出土弥生土器 壺・甕蓋・壺蓋・高坏
- 図版30 遺物 1. 落ち込み出土弥生土器 鉢・甕
2. 落ち込み出土弥生土器 甕
- 図版31 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺
2. 第13層出土弥生土器 壺
- 図版32 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺
2. 第13層出土弥生土器 壺
- 図版33 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺
2. 第13層出土弥生土器 壺
- 図版34 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺
2. 第13層出土弥生土器 壺
- 図版35 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺
2. 第13層出土弥生土器 壺
- 図版36 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺・細頸壺
2. 第13層出土弥生土器 細頸壺・水差形土器
- 図版37 遺物 1. 第13層出土弥生土器 甕蓋・台付無頸壺・鉢
2. 第13層出土弥生土器 鉢
- 図版38 遺物 1. 第13層出土弥生土器 鉢
2. 第13層出土弥生土器 鉢
- 図版39 遺物 1. 第13層出土弥生土器 鉢・高坏
2. 第13層出土弥生土器 高坏
- 図版40 遺物 1. 第13層出土弥生土器 高坏
2. 第13層出土弥生土器 高坏
- 図版41 遺物 1. 第13層出土弥生土器 壺蓋
2. 第13層出土弥生土器 甕
- 図版42 遺物 1. 第13層出土弥生土器 甕

2. 第13層出土弥生土器 豌
- 图版43 遗物 1. 第13層出土弥生土器 豌
2. 第13層出土弥生土器 豌
- 图版44 遗物 1. 第13層出土弥生土器 豌
2. 第13層出土弥生土器 豌
- 图版45 遗物 1. 第13層出土弥生土器 豌
2. 第13層出土弥生土器 豌
- 图版46 遗物 1. 第13層出土弥生土器 豌
2. 第13層出土弥生土器 豌
- 图版47 遗物 1. 第14層出土弥生土器 壺・甕
2. 第14層出土弥生土器 壺・高坏・甕
- 图版48 遗物 1. 第14層出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋
2. 第9層出土弥生土器 壺・鉢、須恵器 坏・蓋坏、上師器 高坏
- 图版49 遗物 1. 石器（表）
2. 同上（裏）
- 图版50 遗物 1. 石器（表）
2. 同上（裏）
- 图版51 遺物 1. 石器（表）
2. 同上（裏）
- 图版52 遺物 1. 石器（表）
2. 同上（裏）
- 图版53 遺物 1. 土製品
2. 土製品・骨製品
- 图版54 遺物 木製品
- 图版55 遺物 木製品
- 图版56 遺物 木製品
- 图版57 遺物 動物遺体

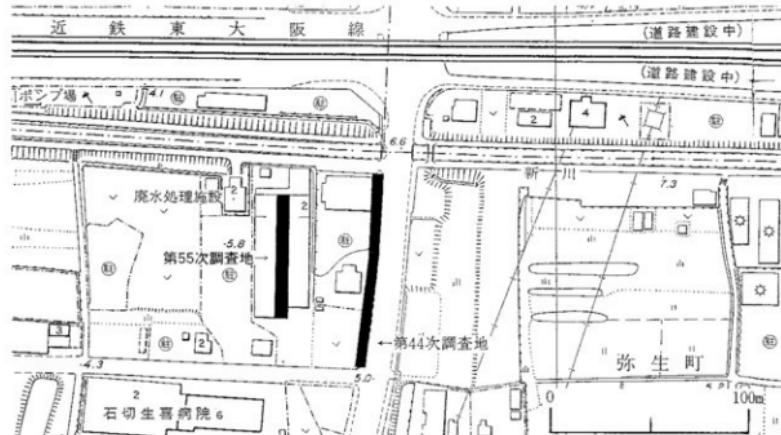
I. 調査に至る経過

東大阪市弥生町17番地にある東大阪市立弥生学校給食センターは、建物の老朽化に伴い全面的な建て替えを行なうことになった。当該地は弥生時代中期の拠点集落として周知されている鬼虎川遺跡の西北域に位置している。そのため建物解体直後の平成14年1月22日に試掘調査を実施し、地表下2.8mの床上内および5.4~5.9mの層から遺物を確認した。この試掘調査結果に基づき文化財課は学校給食課および下水道部設計課と協議を行ない、周辺建築物への影響、新川およびその南岸堤防状況（強度）などから残土の場外搬出は困難であり、調査範囲は建築予定建物の南北中央基礎杭列約292mに限定し（大阪府教育委員会文化財保護課とも調整）、調査深度も6mまでと確定された。

鬼虎川遺跡は1975年以降、58次におよぶ発掘調査が行なわれている。これまでの調査で遺跡東北部（とくに国道308号線付近の調査）で縄文時代前期の縄文海進による海食崖を検出し、その付近から前期から中期の上器・石器とともに魚介類などの動物遺体が出土した。弥生時代は前期から後期までの遺構・遺物を確認している。前期は遺跡北西部（国道308号線付近）に長原式土器と前期土器を伴う貝塚、ほぼ中央部に前期土器を多量に含む大溝（第40・46・45次など）などが見られるが、集落状況は不明である。遺跡北側には（北端部付近は希薄）とくに中期の大溝、井戸などの土坑、柱穴などのピット群、貝塚、そして方形周溝墓・土坑墓・土器棺墓などの造構と多量の弥生土器・石器・木製品などを検出しており、この時期には複数の大溝を伴う大集落（環濠集落）が形成されていた=拠点集落。後期になると集落は縮小化し、古墳時代前半にはその中心は南部へ（36次など）、後期には東北部に移行したようである（23次など）。飛鳥時代以降の遺構・遺物は希薄で西部域を中心に生産域と化す。平安時代前半には条里制に伴う造構が見られるようになり、中世にはその坪境などに溝が穿かれ、近世になると掘り上げ田に伴う井路が形成されていた。

今回の調査地は第4・5・7次調査の北、第14次調査の南東、第11・44次調査の西にあたり、試掘調査データーなどによっても弥生時代中期の遺構・遺物が検出されることが予想された。

平成14年10月9日から11月29日まで立会しながら機械掘削し、その間に3段目支保工までの架設工事を行ない、12月2日から平成15年2月13日まで人力掘削による調査を実施した。



第1図 調査地点およびトレーニング位置

II. 位置と環境

鬼虎川遺跡は生駒山の西麓、標高4～8mの扇状地末端部から沖積平野にかけて広がり、現在の東大阪市弥生町・西石切町・宝町・新町一帯に位置する旧石器時代から江戸時代にわたる複合遺跡である。北端中央部から南東部にかけて国道170号線（外環状線）がほぼ南北に走り、北部ではこれに直行するように東西方向の国道308号線が延びている。この中央分離帯には近畿日本鉄道東大阪線および阪神高速道路東大阪線と第二阪奈有料道路連絡道が内包されている。西部には南から北方向に流れる恩賀川があり、東からそれに注ぎ込む新川などの川がある。現在は住宅・工場・会社・病院などが建ち並び、水田・畑地はほとんど見ることはできない。しかし、4・50年前までは小集落が点在し、掘り上げ田などの田園が広がるのどかな地域であった。

本遺跡は弥生時代中期を中心とした大集落跡としてよく知られているが、人跡は後期旧石器時代にまで遡る。この時期の遺跡としては東接する西ノ辻遺跡をはじめ、千手寺山遺跡・正興寺山遺跡・山畠遺跡などがあり、ナイフ型石器・翼状剥片が出土している。

縄文時代の遺跡は山麓部から段丘・扇状地上に点在し、まずは有舌尖頭器が出土した草香山遺跡や貝花遺跡がある。早期には多くの押型文土器とともに石器・土偶とぬ跡・集石遺構を検出した神並遺跡があり、この土器は西ノ辻・日下・山畠遺跡からも出土している。前期は温暖化がピークに達し（縄文海進）、木造跡東部などからこの時期の海蝕崖が検出され、前期土器や魚介類などの動物遺体が出土している。中期の遺跡としては善根寺・縄手・馬場川遺跡があるが、それほど顕著ではない。しかし後期には、縄手遺跡から多くの土器・石器などとともに住居跡・配石遺構などがあり、日下・芝ヶ丘・神並・鬼塚・馬場川遺跡とともに木造跡からもこの時期の土器が出土されている。そして晩期になると貝塚・墓地や多量の土器・石器を確認している日下遺跡をはじめ、鬼塚・馬場川・宮ノ下などの遺跡で集落が営まれていた。

弥生時代になると集落形成は平野部に移り、本遺跡の西端に長原色上器と前期土器を包含した貝塚があり、中央部や植附・中垣内・山賀遺跡などから前期土器が出土している。中期には本遺跡において数条の大溝を伴う大集落が営まれ、土器・石器・木製品などの大量の遺物と方形集落跡や貝塚などを検出しており、これに近い状況は本市中央部の瓜生堂遺跡でも見られる。やや遅れて中期後半から後期前半には西ノ辻遺跡でも大集落が形成された。後期になると集落はやや小規模化するものの、本遺跡や段上・上六万寺・北烏池遺跡などの平野部の集落と、山畠・岩滝山遺跡などで高地性集落が営まれた。

古墳時代前期に本遺跡南部および丘合山・西岩田遺跡などから多くの土師器が出土し、集落が点在して形成されていた。中・後期になると植附・芝ヶ丘・神並・西ノ辻・山畠・市尻などとともに本遺跡北部でも集落が営まれていたが、いずれもそれほど大きくなかった。本市には前期の大型古墳は見られないが、塚山・えの木塚・客坊山1号墳など中期以降古墳は築かれるようになり、山畠古墳群・花草山古墳群・客坊山古墳群・神並古墳群・山雲井古墳群などの群集墳・植附・段上・巨摩庵寺などに小型低丘墳と、小規模ではあるが後期古墳が山麓部を中心に数多く築造された。

飛鳥から平安時代後半には仏教の受容を反映するかのように若江寺・河内寺・法通寺・石藏寺、やや後出する客坊庵寺などの寺院が建立された。本遺跡や西ノ辻・神並・鬼塚遺跡などからは掘立柱建物・井戸・溝、須恵器・土師器や墨書き土器などが出土し、この時期の集落・耕作関連の遺構を検出している。

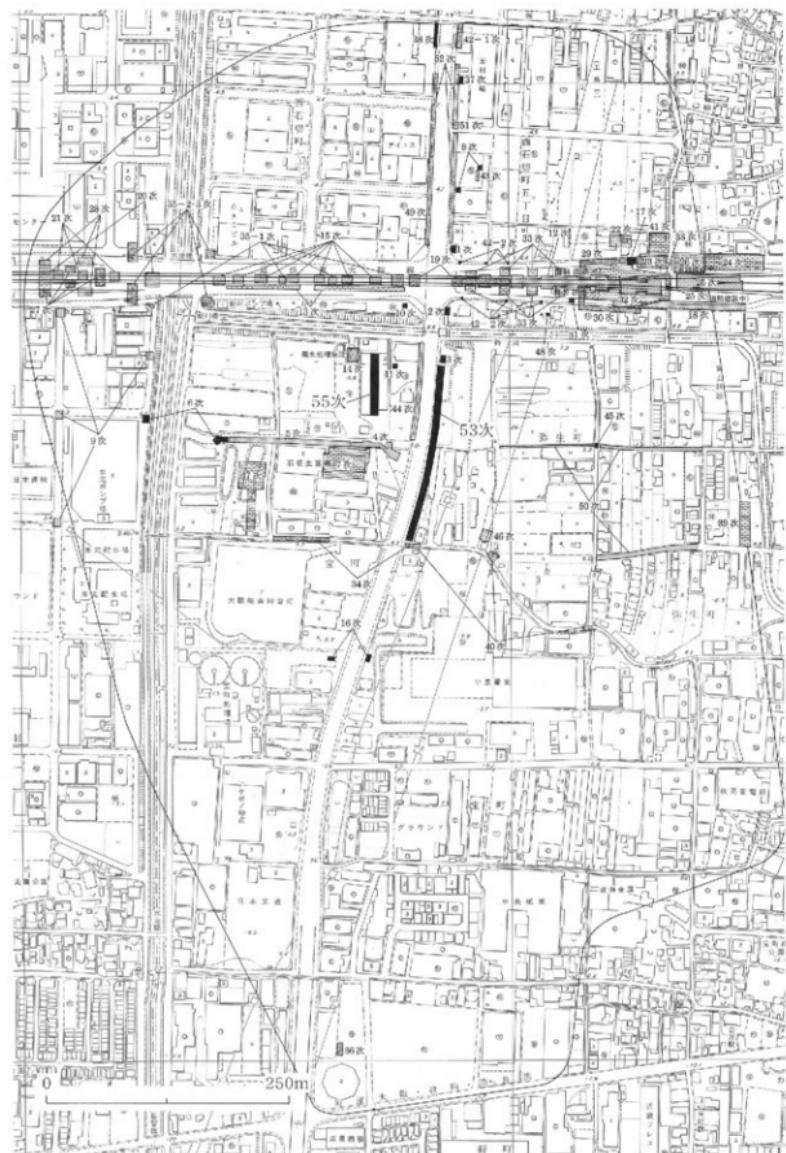
平安時代後期から鎌倉時代にかけては広い範囲にわたり整地活動がみられ、西ノ辻・神並などの遺

跡から掘立柱建物跡などの集落遺構とともに客土層や耕作跡を検出している。また、西接する水走遺跡ではこの時期に堰・堤防を設けるなど大掛かりな開発を行なうとともに、大溝を作り集落も形成された。南北朝期を含む室町時代には西ノ辻遺跡をはじめ、その他の暗峠越奈良街道・東高野街道などの道路沿いに数多く村落が営まれ、その状況はほとんど江戸時代以降まで存続していた。またこの時期、平野部の若江城を中心として客坊城・往生院城などの城が戦乱期に数多く築造されたが、安土・桃山時代までに廃絶または城としての機能をなくしてしまった。

江戸時代になると大和川の付け替え工事が行なわれ、平野部における生産域の状態を一変させた。旧の河川・池は埋め立てられてその周辺を含め田畠が整備され、本遺跡西部域ではいわゆる掘り上げ田が形成された。



第2図 遺跡周辺図 (1/25000)



第3図 各次数調査地位置図

III. 調査の概要

1. 調査方法

試掘調査結果と協議によって、調査範囲は東西5m、南北58.4mの約292m²、調査深度は6mまでと確定され、上部2.8mまでの機械掘削、2.8mから0.3mの人力掘削、3.1～5.4mまでの機械掘削、以下0.6mの人力掘削と、機械・人力併用の調査とされた。

現地調査の開始にあたり、調査は協議に基づく方法で実施するものの、床土付近からは西壁の断面調査＝写真および図作成＝を行なうことを前提とした。また、土留めの東西支保工（梁）により12に区分された区画を利用し、北から1・2～12地区として遺物の取り上げなどを行ない、遺構・断面図の製作にあたっても国家座標値と併行して用いた（第4図参照）。

調査は地表下約2.9mまで機械掘削し、遺物包含層とされる人力掘削の対象になっていた床土層を確認したところ、若干の土師器・須恵器の小細片とともに陶磁器片を検出し、近世後半ないし・近代の床土であることがわかった。このことから、この床上層を機械で掘削することにし、その人力掘削0.3m分は下部へ送ることとした。すなわち、地表下5.1mまでを機械掘削し、以下0.9m分を人力掘削する結果になった。

2. 層位と機械掘削層の概要

地表下5.1mまで－機械掘削層－の状況（第5・6図参照）現況面(GL)から-2.35～-2.50mは現代の盛土である。

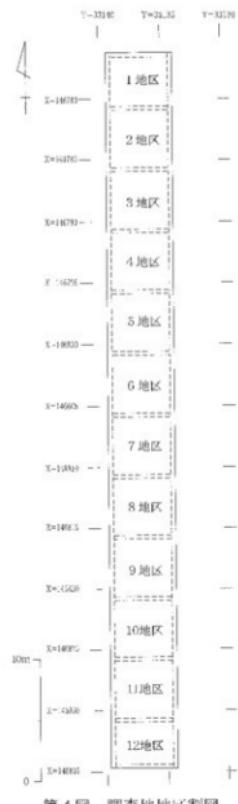
旧耕土（第1層）は約50cmを測り、近代から現代にわたる3～4面が見られた。土師器・磁器などの小細片が少量出土した。

その下には近世後半ないし近代前半の2～3層に分層できる床上（第2層）がほぼ全域に広がり、若干の須恵器・土師器などの小細片とともに陶磁器片が出土した。

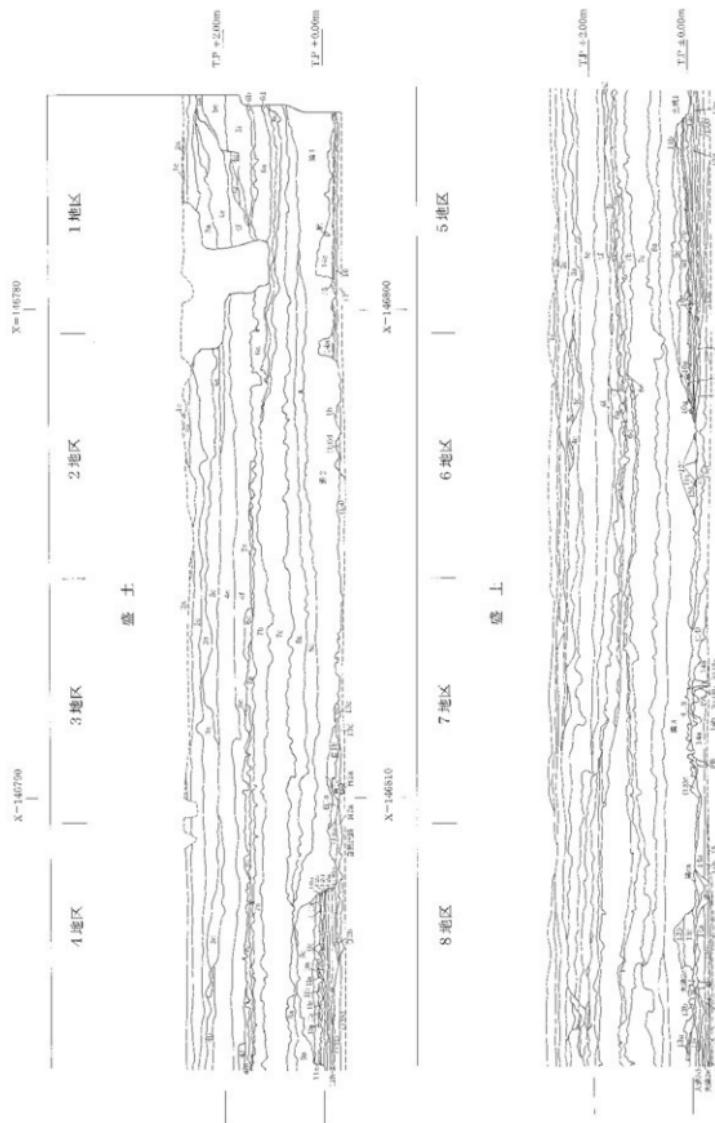
第3層は2～3層に分層される整地土で、弥生土器・須恵器・埴輪・瓦質土器・土師器・瓦器・磁器などの小・細片を包含しており、中世後半から近世前半にかけて客土である。8地区ではほぼ東西方向に延びる断面逆台形状の溝（溝A）を1条確認した。溝は幅1.1m、深さ0.4を測り、下層は灰色粘土質シルトと暗緑灰色シルト質砂の混じる活用時の堆積層、上部の3層に分かれる砂層で埋没層、最上部は緑灰色砂混じりシルト質土の埋土であった。遺物は検出できなかつたが江戸時代前半ごろのものと思われる。

第4層は自然流路Aの堆積砂・シルトなどである。流路は南端部および北端部に第3層が残存し、この層を切り込むように調査地内の大半の地域に広がり、東南東から西北西に向けて延びていた。南部の方が流れは強く瀬であったようであり、中層から下は中央部付近（7～9地区）で二段に分かれていた。堆積砂内からは、少量であるが摩滅した弥生土器・須恵器などとともに土師器・瓦器片などが出上り、鎌倉時代後半以降のものと考えられる。

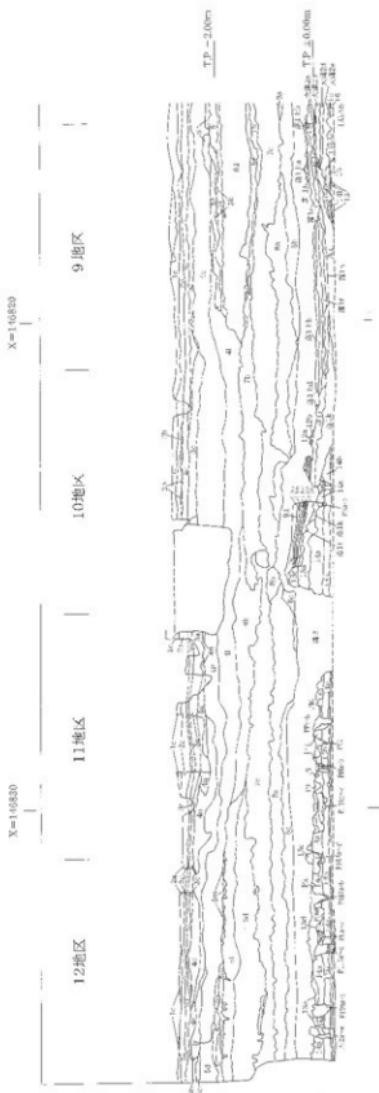
第5層は第6層（自然流路B）上面に形成された整地上である。13層に細分され、層内からは弥生



第4図 調査地区割図



第5图 西螺断面图1



4.1. 上・側に灰白色(12YN(1))～オリーブ灰白色(5GY(1))地・中粒砂、灰白色(7GY(1))～オリーブ灰白

- 4.2. (5GY(5))18厚シルト層～下部粗砂
- 4.3. 所産黒色(10G(1))層・細粒砂
- 4.4. 細砂(10G(5))1層・細粒砂、シルト
- 4.5. 所産黒色(10G(5))1層・細粒砂、シルト
- 4.6. (5GY(5))18厚シルト層、オリーブ灰白色(5GY(7))1地・中粒砂
- 4.7. (5GY(5))16厚シルト層、オリーブ灰白色(5GY(6))2地・中粒砂(5GY(7))2地、灰白色(5GY(5))5
などを含む)。
- 4.8. 壤(5.1～5.9m)を含む。所産オリーブ灰白色(5GY(6))2層・中粒砂
- 4.9. 壤(10Y(1))シルト・粗粒砂
- 4.10. 所産オリーブ灰白色(5GY(7))1層・粗粒砂
- 4.11. (5GY(3))3層～中地砂
- 4.12. (5GY(2))26厚シルト層、所産オリーブ灰白色(5Y(4))2シルト層、小礫～砂墨層
- 4.13. 所産灰白色(10G(6))1層・粗粒砂・鉄鉱石地盤に地盤(1)18厚あり
- 4.14. 壕(5.1～5.9m)を含む。所産オリーブ灰白色(5GY(7))1層・粗粒砂
- 4.15. 所産灰白色(7GY(1))1層・中地砂
- 4.16. (5GY(5))18厚シルト層・粗粒砂・沙質土質
- 4.17. (5GY(5))18厚シルト層・粗粒砂・沙質土質
- 4.18. (5GY(5))18厚シルト層・粗粒砂・沙質土質
- 4.19. (5GY(5))18厚シルト層・粗粒砂・沙質土質
- 4.20. (5GY(5))18厚シルト層・粗粒砂・沙質土質

第6図 西歐断面図

- 5 f. 鮎灰色(5G5/1)シルト質粘土、少し所々に細・極細粒砂混じる
- 5 g. 鮎灰色(7.5GY5/1)中・細粒砂シルト質粘土
- 5 h. 鮎灰色(5G5/1)シルト質粘土上、オリーブ色(2.5GY5/1)粗・細粒砂(重層)
- 5 i. 噴霧灰(10GY4/1)粘土(ややシルト質)
- 5 j. 噴霧灰(10GY4/1)粗・細粒砂粉、所々粗・中粒砂混じる
- 5 k. 青灰色(10GY5/1)中～細粒砂混じりシルト質粘土
- 5 l. 青灰色(10BG5/1)シルト質粘土、中・細粒砂混じる
- 5 m. 青灰色(5BG5/1)シルト質粘土(ややシルト質)、粗～細粒砂混じる(剥離)
- 6 a. オリーブ色(5GY5/1)粘土質シルトと灰白色(5Y7/2)細粒砂
- 6 b. 灰色(7.5Y7/1)麻灰色シルト上、下部は4b
- 6 c. 灰色(10Y4/1)粘土質シルト、鮎灰色(10G5/1)粘土ブロック間に混じる(1~3cm)
- 6 d. 灰白色(7.5Y7/1)、灰色(10Y6/1)細粒砂と下部、粗・中粒砂、噴霧灰(7.5GY4/1)シルト質粘土ブロック少し含む(1~5cm)
- 6 e. 灰色(5Y4/1)、灰(5/5/1)粘土質シルト、部分的に灰白色(7.5Y7/1)細粒砂含む
- 7 a. 鮎灰色(5G5/1)シルト質粘土、青灰色(5BG6/1)シルトブロック含む
- 7 b. 鮎灰色(7.5GY5/1)シルト質粘土(ややシルト質)
- 7 c. 噴霧灰(5H4/1)粗・細粒砂混じるシルト質粘土塊・袖オリーブ色(5GY4/1)シルト質粘土の混じる、オリーブ色(5Y5/4)シルト粒(1~3cm)の噴霧灰(5.5GY3/1)シルト粒(1~3cm大)含む、植物遺体(種子を含む)
- 8 a. 噴霧灰(10GY4/1)シルト質粘土(粘質やや強剛礫)少し混じる、植物遺体少し含む
- 8 b. 噴霧灰(5G4/1)粗・中粒砂含む、シルト質粘土(シルト質やや強)細粒砂少し含む
- 8 c. 噴霧灰(5BG4/1)沙質シルトと袖綠灰(5G4/1)シルト質粘土
- 9 a. 袖綠灰(10G4/1)中小塊～細粒砂混じりシルト質粘土(砂種分多い)(中塊・少し混じる)植物遺体も少し含む
- 9 b. 噴霧灰(10G4/1)シルト質粘土
- 9 c. 青灰色(10BG5/1)シルト質粘土、細粒・羅粒砂、植物遺体少し混じる
- 9 d. 灰色(10Y4/1)シルト質粘土、植物遺体含む、10.11.12層(特に10層)までは(層下に多い)
- 10 a. 噴霧灰(10GY4/1)シルト質粘土(ややシルト質強)
- 10 b. 黒色(2.5Y2/1)植物遺体
- 11 a. 袖綠灰(10GY3/1)シルト質粘土(シルト質やや強)
- 11 b. 黑褐色(2.5Y2/2)シルト質粘土、植物遺体ラミナ状に含む
- 11 c. オリーブ色(5Y5/2)粘土やシルト質、植物遺体少しだけ
- 12 a. 黑褐色(2.5Y2/1)粘土、植物遺体少し含む
- 12 b. 同上で強度性いか?
- 12 c. 灰色(7.5Y5/1)シルト質粘土、植物遺体と互層
- 12 d. 黄褐色(2.5Y4/1)シルト質粘土、植物遺体と互層
- 12 e. 黄褐色(2.5Y6/2)粗・中粒砂シルト、植物遺体多く含む
- 12 f. 黑褐色(2.5Y2/1)粗・中粒砂シルト、植物遺体多く含む
- 12 g. 噴霧灰(2.5Y4/2)シルト質粘土、やや粘質強い、植物遺体と互層
- 12 h. 灰色(5Y4/1)粘土やシルト質、植物遺体と互層
- 13 a. オリーブ色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、風化含む
- 13 b. 灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、風、植物遺体含む、オリーブ灰色(2.5GY6/1)粘土質シルト、小塊・粒含む、明黃褐色(2.5Y6/6)シルト粒少し含む
- 13 c. オリーブ色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(砂の混じり多い)、風、植物遺体含む
- 13 d. 黑褐色(2.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
- 13 e. オリーブ色(10T3/2)砂混じり粘土(1上に細粒砂、シルト層)
- 13 f. 黄灰色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体・風化含む
- 13 g. 黑褐色(2.5Y4/1)シルト質粘土、黑色(10Y2/1)風、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト粒混じる
- 13 h. 黑色(N2/1)風、オリーブ黑色(10Y3/1)シルト質粘土
- (13)a. 黒オリーブ色(5Y4/2)シルト質粘土、植物遺体含む、中～粗粒砂少し混じる
- (13)b. 黄褐色(10YR4/2)シルト質粘土、中～粗粒砂少し混じる
- (13)c. にぶい黄褐色(10YR4/3)粗・細粒砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
- (13)d. 緩オリーブ褐色(2.5Y3/3)粘土(ややシルト質)、植物遺体含む
- (14). 灰色(7.5Y4/1)中～細粒砂混じりシルト質粘土 上 砂含むや多い
- 14 a. 黑色(7.5Y2/1)粘土、植物遺体含む
- 14 b. 黑色(10Y2/1)粘土
15. 黑色(10Y2/1)粘土、鮎灰色(7.5GY6/1)粘土上層に含む
16. 黑色(N2/1)粘土、植物遺体含む
17. 鮎灰色(5G5/1)シルト質粘土、植物遺体含む、緩オリーブ灰色(2.5GY3/1)粘土重じる
- PA. 灰色(GY4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
- PB. 黑褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
- PC. オリーブ褐色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
- PD. 黄褐色(10Y4/1)砂混じり粘土、木机7件
- PE. オリーブ褐色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体・風化含む
- b. 黑褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土
- PF. a.=13
b. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土、風含む
- PG. a.=13
- PH. a.=13
b. 黑色(10Y4/1)シルト質粘土、風含む
- PI. a.=13
- PJ. a.=13
b. 黑褐色(2.5Y3/1)砂混じり粘土
- PK. =13
- PL. a. 黑褐色(10YR4/4)木片
b. オリーブ灰色(5Y3/2)粘土質シルト(やや粘質)
c. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土
- PM. =13
- PS2. a.=13
b. 黄褐色(5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
c. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト、植物遺体含む
d. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土、风含む
e. オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じり粘土質シルト
- PL15. a. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じり粘土質シルト、風、植物遺体含む
b. 黄褐色(5Y4/1)砂混じり粘土質シルト
c. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト
d. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土
e. 黑色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト
- PL13. a.=13
b. 黑褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト
- PL16. =13
- PL16. a.=13
b. 黑褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト
- PL16. b. 黑褐色(7.5Y4/1)シルト質上
a. オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じり粘土質シルト(やや粘質)
b. 黄褐色(7.5Y1/1)粘土、少し砂混じる
c. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、黄褐色(10YR5/6)木片
d. オリーブ黒色(5Y3/2)粘土、少しあげて
c. 黑色(5Y2/1)砂混じりシルト質粘土
- PL18. a. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土
b. オリーブ黒色(7.5Y3/1)粘土
- P199. a.=13
b. 木・上部褐色(10YR4/4)と同、黄褐色(10YR5/6)
- 演1. オリーブ灰色(5GY3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む下部に14層など巻き上げる
- 演2. 緩オリーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土、10~14層巻き上げている
- 演3. オリーブ灰色(5GY5/1)砂混じりシルト質粘土(根～細粒砂)、

- 下部に10~14層など巻き上げて、各ブロックが散乱
- 満a. 緑灰色(7.5GY3/1)稍~細粒砂混じりシルト質粘土(層厚)
- b. 暗オーリーブ色(5GY4/1)i・細粒砂混じりシルト質粘土
粒砂
- c. 暗オーリーブ色(5GY3/3)粗・中粒砂
- D. 墓塀灰色(10G4/1)i・細粒砂混じり、種種粒砂シルト
- E. 灰色(7.5Y4/1)粘土質シルト、暗緑灰色(7.5GY4/1)シルト
ト粒砂の混層
- 大満2. a. 灰色(5GY1/3)砂混じり粘土質シルト、植物遺体、炭含む、
にぶい黄色(2.5Y6/3)焼灰多く、屑をなす(14上層状面
の埴土)
- b. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭
含む
- c. 灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭含
む
- d. 黒褐色(10YRS/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体層
- e. 黑褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体含む
- 満C. a. 灰色(5Y4/1)砂混じり粘土、炭・植物遺体少し含む
- b. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、炭・植物
遺体少し含む、灰色(10Y6/1)粘土層じる
- 自然流路1 a. 灰褐色(7.5YR4/2)砂混じり粘土質シルト
b. にぶい黄色(2.5Y6/3)中・粒砂、褐灰色(10YR4/1)
砂混じりシルト、植物遺体混乱
- c. 灰色(7.5Y4/1)細・粗粒砂、シルト質粘土
- 自然流路2 a. 灰色(7.5YS/1)細粒砂と上部にオーリーブ色(5Y6/2)
中・粗粒砂
- b. 灰色(5Y6/1)シルト質粘土
- c. 緑灰色(7.5GY6/1)シルト質粘土

- 落ち込み1 h.a. =11a. 黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土、植物遺
体、炭化物混じり、砂混じる
- b. =12a. 細灰褐色(2.5Y5/2)粘土質シルト(平行
堆積)、灰黄褐色(10YR4/2)植物遺体層間帶あり
- c. =11c. 黒褐色(10YR4/1)砂混じりシルト質粘土、
植物遺体、炭化物混じる
- d=12b. 上部=b、下部=やや植物遺体多く含む
落ち込み1 (本来13cからの切り込み)
- e. 灰色(19Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭や多く
混じる、灰オーリーブ色(5Y6/2)シルト粒砂混じる
- f. 灰色(19Y4/1)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭やや少なめ
-
- g. オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土、オリーブ黄色(5Y6/3)
-
- シルト粒砂混じる
h. (=13c相当) オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、
-
- 植物遺体、炭含む
i. 細灰褐色(2.5Y5/2)砂混じり粘土質シルト、植物遺体、炭含む
j. オリーブ褐色(2.5Y4/3)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、
-
- 炭やや多く含む
k. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体、炭
-
- 多く含む
l. =(13d相当) オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、や
-
- や粘土質混入、植物遺体、炭含む
m. =(13e相当) オリーブ黒(7.5Y2/2)砂混じり粘土質シルト、
-
- 植物遺体含む
- 落ち込み2 灰黄褐色(10YR4/2)砂混じりシルト質粘土、植物遺体
多く含む
- 土坑A. (14b上面)
- a. 黒褐色(10YR3/1)シルト質粘土、植物遺体含む
- b. 黒色(2.5GY2/1)シルト質粘土、やや粘質、植物遺体含む
- c. 黑色(10Y2/1)粘土と緑灰色(7.5GY6/1)粘土の混層

上器・土師器・瓦器の小細片が出土し、平安時代後半から鎌倉時代前半にかけての客土層と考えられる。

第6層は、南側の一部で上層の自然流路A（第4層）によって削平されていたところもあるが、10・11地区を除く調査地全域をほぼ覆う、東南東から西北西方向に流れている自然流路Bの堆積層（主に砂およびシルト）である。堆積層は5層に分かれ、摩滅した弥生土器・須恵器と動物遺体ーウシ（資料番号7）－、土師器、黒色土器が出土した。平安時代中ごろの流路と思われる。

第7層は、第8層の砂屑の上に形成された調査地全域に広がる整地層で、弥生土器・土師器・須恵器・サヌカイトの小・細片および動物遺体—大型哺乳類（資料番号8）・種実などが出土した。平安時代中ごろのものと思われる。

第8層は、調査地全域に広がる自然流路の堆積層などでシルト・砂・シルト質粘土の3層に分かれ、土師器・須恵器の小・細片などが出土した。平安時代前半ごろの流路と思われる。

第9層の下層は奈良時代相当期の整地土で4層に分かれ、とくに下層部（c・d）は第10~13層を掘り上げて形成し、須恵器片とともに弥生土器・石器・サヌカイト片などの弥生時代の遺物を包含していた。上層（a・b）は暗緑灰色シルト質粘土で、上面から溝・土坑・ビットなどを検出した。

第10層は弥生時代後期相当期の植物遺体層。無遺物層。

第11層は3層に分かれる植物遺体を含む自然堆積のシルト質粘土層。無遺物層。

第12層は粘土およびシルト質粘土の8層に分かれた自然堆積層。弥生土器片少量出土。

第13層は、弥生時代中期中半の整地土でほぼ3層に分かれ、上層は灰色粘土質シルトの盛上で8地区から12地区で確認した。中層上面では炭ビット、落ち込み、大溝などを検出した。下層上面からは柱・杭ビット、土坑、井戸、落ち込み、大溝などの遺構を検出した。層内は多くの弥生土器をはじめ石器、土製品、角製品、動物遺体、サヌカイト片などを包含していた。

第13相当層は下記の第14層遺構および第13層各時期形成期に存した大溝A内の堆積層。a・b層は第13上・中層遺構期の堆積層。c層は第13下層遺構期の堆積層。d層は第14層遺構期の堆積層と考えられる。層内からは弥生土器・石器・木製品・動物遺体—シカの角と肩甲骨・イノシシ下顎骨—などが出土した。

第14層は2層に分かれる黒色粘土層で、若干弥生土器片を包含。中期前半の遺構面。

第15層は上部に緑灰色粘土を含む黒色粘土層。

第16層は植物遺体を若干含む黒色粘土層。

第17層は暗オリーブ灰色粘土の混じる緑灰色シルト質粘土。

第15層以下は無遺物層。

3. 遺構

弥生時代

この時代の遺構は第14層上面、第13下層上面、第13上層上面、第13相当層上面で検出した。

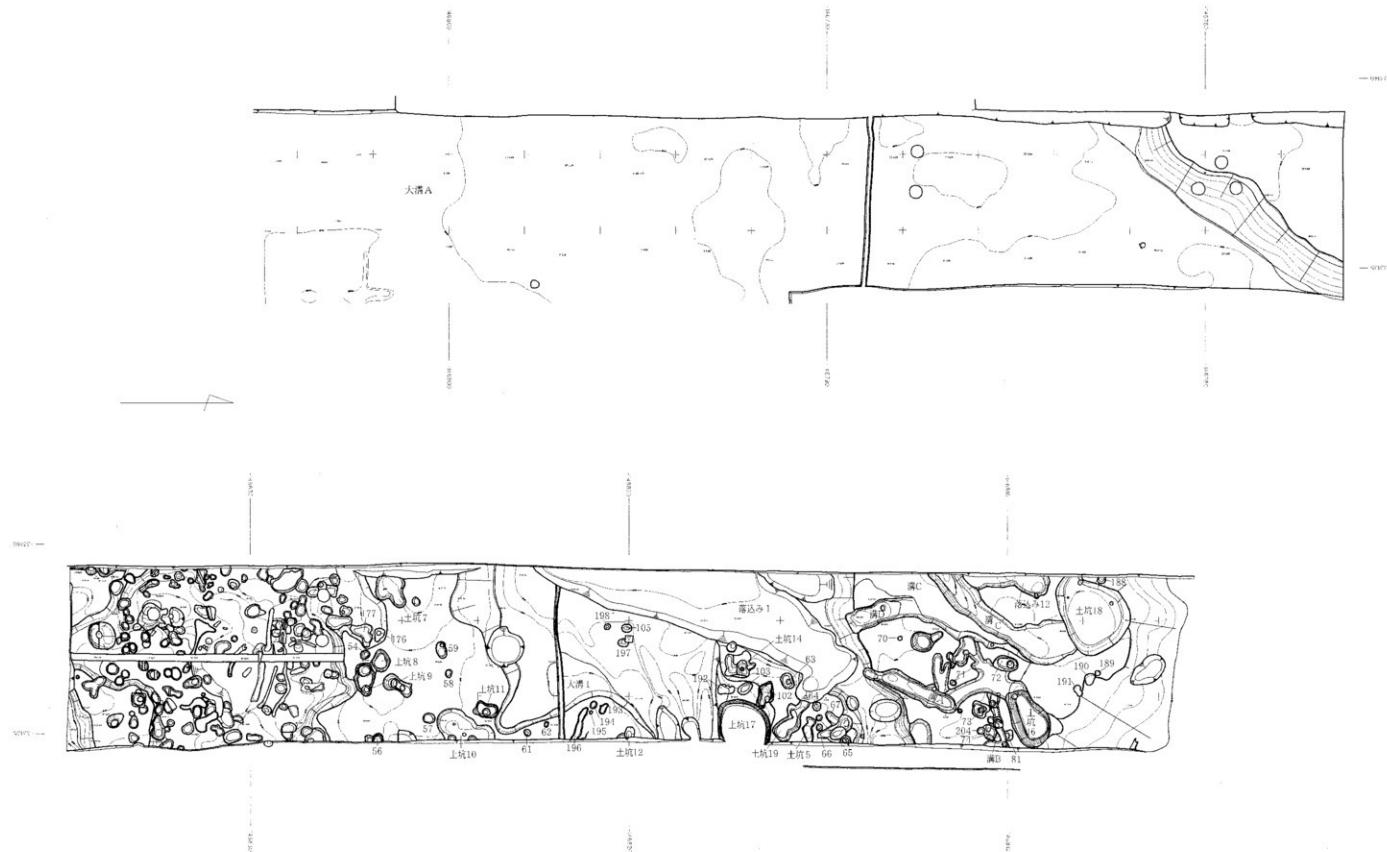
第14層上面遺構（第7・8図 図版3～9）

調査地南から中央部にかけて多量のビット（柱穴・柱根残存のものあり－など）と大土坑および12基の上坑（土坑6～12・14～18）、溝6条（大溝1・2、溝A～D）、と中央部から北にかけての大溝Aなどを検出した。

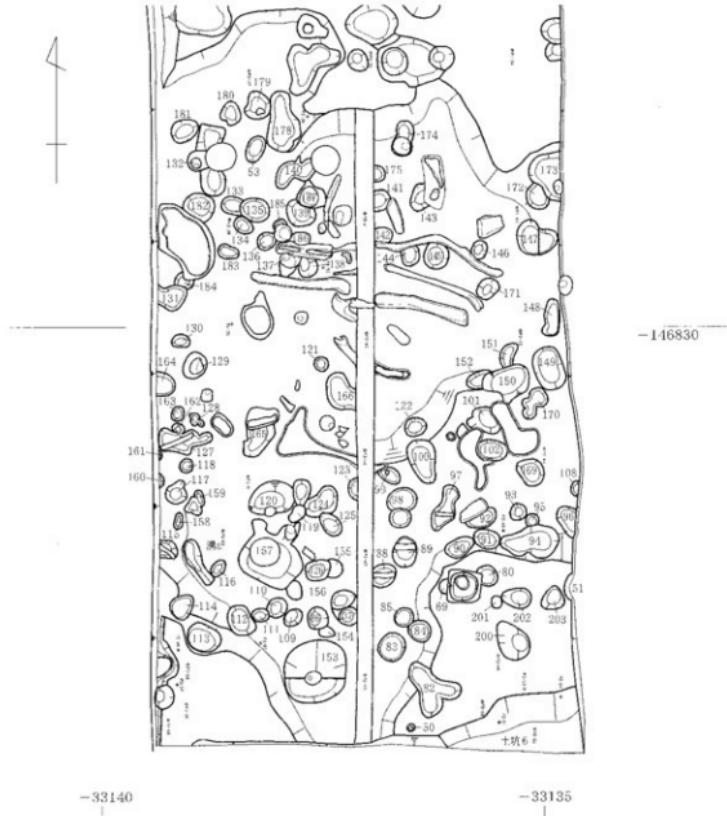
大土坑は11・12地区に存し、調査地内で東西5m以上、南北7m以上の平面形変形の帆立貝状を呈し、底面は西側へ上がっており深さは0.2～0.5mを測った。埋土は焼土塊・植物遺体を含む黒褐色（10YR3/1）砂混じりシルト質粘土で、多くの弥生土器とともに石器、木製品、動物遺体、自然木、サヌカイト片などを包含していた。焼土塊はとくに西側に多く見られ、ほぼ中央からは東西には横たえたように伐採された径7～10cm長さ1.5～2.5mの自然木が4～5本出土した。弥生土器は壺（1～11・13・14）、細頸壺（12）、甕（13～24）、鉢（25～31）、甕蓋（32・33）などがあり、石器は局部磨製石斧（430）、石剣（431）、石庖丁（444）などの磨製石器と砥石（446）、木製品は握手付容器（411）など、動物遺体はイノシシの前頭骨・側頭骨・上頸骨・下頸骨・胸椎・仙椎・肋骨・寛骨・大腿骨などと大型哺乳類の骨（資料番号2～5）であった。土器はII様式のものが大半をしめていた。

大土坑底・側面および周辺には柱・杭状根が残存するビット110以上と10本以上の杭が見られた（第8図）。ビットを穿って立てられた柱状木製品—第9図のw45・49・87・104・a・b—と直接打ち込んだ杭状のものとがあった。w45・49・87は穿ったビット底におがくずまたは樹皮を敷きつめたり、柱設置後の詰め物として同物を使用していた。w104は先端部両側にくさび状に円錐状の木を噛ましてあった。また、深皿状に穿ったビットの底に立ててさらに押し込んだと思われるwaのようなものも見られ、その他ビット底に細日の丸太木または板状の木を横たえていたものもあった。

大土坑外に7基の土坑を検出した。南東部に土坑6、北に土坑7・8・9・10・11・12である。各遺構については第1表に譲り、主要なものを記述しておく。土坑6は北肩付近のみを検出し、埋土は炭・焼土塊・植物遺体を含む黒色シルト質粘土で、鉢（40）、甕（41）などの弥生土器を包含していた。土坑10は東側溝などにより東側欠損。埋土は炭・植物遺体を含むオリーブ黑色砂混じりシルト質粘土で、鉢（42）、甕（43）などの弥生土器と石錐（459）が出土した。また、底面から杭を2本（w61・62）を検出した。



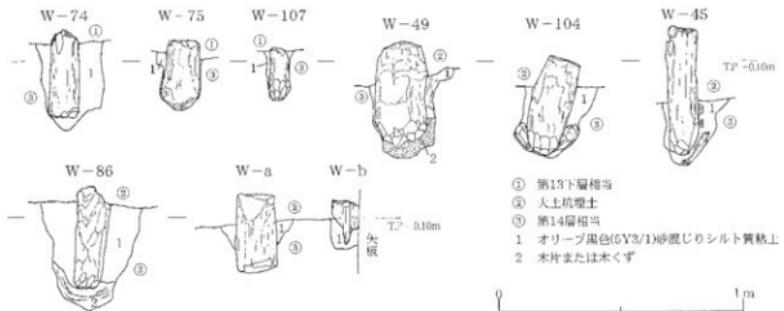
第7図 第14層上面遺構平面図



第8図 第14層上面造構平面図一大土坑部分

大溝1は9から10地区にかけて検出し、北肩はほぼ東西方向に走るが南肩は西南方向に走り、東から西南方向に延びる溝であるが、東南側は落ち込み1によって切断されていた。幅2~5m、深さ0.25mを測る。埋土は植物遺体・炭を含む灰色砂混じリシルト質粘土で、弥生土器・石器・木製品・サスカイト片などが出土した。弥生土器には甕(56~71)・壺(72~76)・細頸壺(77)・高坏(78)・甕蓋(79~81)・鉢(82)などで、石器には打製の削器や砥石・石皿状のものなど、木製品には板状木製品(420・423)・角材(421)などがあった。また、溝内から3ピットを検出し、p105からは杭が出土した。

大溝2は8地区付近で検出した東から西南西方向に延びる溝であるが、南西侧は落ち込み1によって切断されていた。幅1.6~1.1m、深さ0.35mを測る。埋土は植物遺体・炭・焼土を含む灰色砂混じリシルト質粘土で、弥生土器・石器・木製品・サスカイト片などが出土した。弥生土器には壺(83~85)・細頸壺(86)・甕(87)・鉢(88)など、石器には打製石器の石鎌(454)などがあった。また、



第9図 第14層上面柱・杭断ち割り断面図—主要形態—

底面西側で土坑Aを検出した。

土坑Aは下部が黒色・緑灰色の粘土の混層、中・上部も植物遺体を多く含む黒色または黒褐色のシルト質粘土で溜り状を呈していた。植物以外の遺物は出土していない。

大溝1と大溝2の間で土坑4基とピット10を検出した。土坑17はほぼ円形を呈していたと考えられる。埋土はオリーブ黒色砂・炭混じりシルト質粘土で、鉢(53)と壺(54)などの弥生土器、軽石、動物遺体小片などが出土した。また、ピットのうちの6つには柱根が残存し、打設された杭も2本検出した。

大溝2の東には4条の溝(溝A～D)と土坑3基(土坑16・18・A)、落ち込み1基(落ち込み3)と11のピットを検出した。

溝Aは西へ派生する溝を有する南北方向に延びる溝で、南は落ち込み1によって切断されていた。埋土は灰色砂混じりシルト質粘土で、弥生土器などが出土し、底・側部などから打設された杭5本を検出した。溝Bはほぼ東西方向に延び、西側は溝Aによって切断されていたが、溝のほぼ中央からは据えられたと思われる甕(94)を検出した。埋土は灰オリーブ色シルト粒・暗緑灰色粘土粒・炭・植物遺体などを含む灰色砂混じりシルト質粘土で甕(92・93)などの弥生土器が出土し、底面から打設された杭1本を検出した。溝Cは弧状を呈し、埋土は上部が炭・植物遺体を含む灰色砂混じりシルト質粘土、下部が砂を多く含む灰色シルト質粘土で甕(95)・壺(96)などの弥生土器が出土し、底面から打設された杭2本を検出した。溝Dはやや弧状を呈して南北方向に延びる溝で、東は溝C、西は落ち込み1によって切断されていた。埋土は上部が炭を含むオリーブ黒色砂混じりシルト質土、下部が砂をやや多く含む灰色シルト質粘土で甕(97)などの弥生土器が出土し、東部で打設された杭1本を検出した。

土坑16は南西-北東を長軸とする平面長楕円形を呈する。埋土は炭・植物遺体を含むオリーブ黒色砂混じりシルト質粘土で甕(44～50)・壺(51)・鉢(52)などの弥生土器が出土し、南西側部に打設された杭1本を検出した。土坑18は浅いすり鉢状を呈し、埋土は上部が明オリーブ灰色砂・土を含む灰色シルト質粘土、下部が灰色シルト質粘土まじり粘土で甕(55)などの弥生土器が出土し、底部から打設された杭3本を検出した。土坑Aは落ち込み1の東北部の底部付近で検出した。埋土は3層に分かれ、柱材と思われる加工木が出土した。

落ち込み3は西壁に沿って東側のみを検出したが、南側は溝Cにより切断されていた。埋土は植物遺体をやや多く含む灰黄褐色砂混じりシルト質粘土で、東側部付近から打設された杭2本を検出した。

第1表 柱・杭一覧表

第13下層上面

W番号	地区名	遺構	名称	残長 (長さ×幅cm)
11	12	P-21	柱	0.63×0.13
25	12	P-47	柱	0.24×0.13
37	11	P-40	柱	0.38×0.17
47	11	P-46	柱	0.30×0.15

第14層上面

W番号	地区名	遺構	名称	残長 (長さ×幅cm)
1	12	P-199	柱	0.29×0.12
2	12	P-113	杭	0.26×0.11
3	12	—	?	—
4	12	—	柱	0.27×0.11
5	12	P-153	柱	0.25×0.19
6	12	P-156	?	—
7	12	P-157	柱	0.12×0.15
8	12	—	木	0.16×0.06
9	12	P-125	?	—
10	12	P-157	柱	0.37×0.14
12	12	P-115	杭	0.34×0.05
13	12	P-117	杭	0.20×0.06
14	12	P-127	杭	0.40×0.05
15	11・12	—	柱	0.36×0.10
16	11	P-129	柱	0.60×0.14
17	11・12	—	杭	0.17×0.08
			?	0.19×0.07
			柱	0.37×0.08
18	11・12	—	?	0.15×0.06
19	11・12	—	(柱)	0.33×0.11
20	12	—	?	—
21	12	P-99	柱	0.33×0.11
22	12	P-97	杭	0.23×0.04
23	12	—	柱	0.35×0.13
			?	0.22×0.07
			?	0.15×0.08
24	12	P-94	杭?	0.40×0.09
26	12	P-89	?	—
27	12	P-88	?	0.31×0.07
28	11	—	?	—
29	11	—	?	—
30	11	—	?	—
31	11	—	?	—
32	11	—	?	—
33	11	—	?	—
34	11	—	杭?	0.71×0.08
				0.31×0.07
35	11	—	杭	0.11×0.05
			杭?	0.33×0.07
36	11	P-174	柱	0.33×0.13
38	11	P-173	柱	0.13×0.13
39	11	—	柱	0.26×0.11
40	11	—	柱	0.58×0.16
				0.92×0.17
41	11	—	?	—
42	11	—	?	— 柱
43	11	—	(柱)	0.27×0.17
44	11	—	(柱)	0.35×0.15
45	11	—	柱	0.39×0.10
46	11	杭(7分割)	柱	0.23×0.07
				0.14×0.07
				0.16×0.07
48	11	P-187	柱	0.22×0.18

W番号	地区名	遺構	名称	残長 (長さ×幅cm)
49	11	—	柱	0.40×0.20
50	11	—	柱	0.28×0.13
51	11	P-184?	?	—
52	11	P-134	?	—
53	11	P-176	柱	0.35×0.12
54	11	土坑8	柱	0.32×0.25
55	11	土坑9	柱	0.44×0.14
56	—	—	杭	0.29×0.12
57	欠番	—	—	—
58	欠番	—	—	—
59	欠番	—	—	—
60	10	P-59	柱	0.21×0.10
61	10	上坑10	柱	—
62	10	土坑10	?	—
63	10	—	(柱)	—
64	9	P-102	柱	0.32×0.11
65	9	P-63	柱	0.33×0.13
66	8	土坑15	机	0.20×0.06
67	8	?	机	0.34×0.06
68	8	?	柱	0.27×0.13
69	8	—	(机)	0.53×0.10
70	8	满A	机	分割
71	8	—	柱	0.23×0.13
72	8	满A	柱	0.38×0.16
73	7	满C	柱	0.31×0.09
74	7	满A	柱	0.30×0.13
75	7	上坑16	柱	0.27×0.15
76	7・8	P-74	柱	0.41×0.13
77	7	—	柱	0.23×0.10
78	7	落ち込み2(北)	机	0.24×0.08
79	7	土坑18	机?	0.43×0.09
80	7	土坑18	机	0.36×0.08
81	7	上坑18	机	0.09×0.04
82	12	—	柱	0.16×0.15
83	12	—	杭	0.10×0.05
84	11	—	柱?	0.30×0.13
85	11	—	?	—
86	11	P-132	柱	0.40×0.16
87	11	—	柱	— 柱
88	11	—	杭	0.10×0.10
89	7・8	落ち込み2	柱?	0.15×0.18
90	8・9	土坑19	柱	0.17×0.11
91	9	—	?	—
92	8	?	柱	0.40×0.14
93	7	满B(满b)	?	—
94	7	满C	?	—
95	8	满A	机?	0.11×0.07
96	9	—	?	—
97	10	—	柱	0.35×0.16
98	10	—	柱	0.30×0.12
99	7・8	满A	机	0.25×0.07
100	8	—	机	0.20×0.07
101	11	—	?	—
102	10	—	柱	0.23×0.13
103	10	大溝1	柱	0.24×0.15
104	11	—	柱	0.37×0.20
105	11	—	柱	0.39×0.12
106	11	—	?	—
107	7	—	机?	0.16×0.06
108	12	—	柱	0.36×0.10
109	12	—	柱	— 柱
110	6	—	柱	0.24×0.12

調査地の1・2地区から7地区にかけて大溝Aを検出した。南肩は7地区北よりに弧状を呈して東西方向にのび、ゆるやかに傾斜していた。これに対し北肩は北東から南北方向に走り南側へ傾斜していた。このことから調査地内での幅は西側で約25m、東側で約34m、深さは上述したように底部を確認することができなかったが調査深度内で0.6mを測った。堆積層は第13相当層のd層=植物遺体を含む暗オリーブ褐色粘土=が対応し、弥生土器片などが出土した。しかし、ほとんど掘削することができなかつたため詳細は不明。

第13層は、弥生時代中期中半の整地土で大きくは3層に分かれる。上層は灰色粘土質シルト(a層)の盛土で8地区から12地区で確認。中層(b・c層)は焼土が多く散乱し、上面で炭ビット、落ち込み、大溝などを検出した。下層(d・e・f・g・h層)上面からはビット、土坑、井戸、落ち込み、大溝などを検出した。肩内は多くの弥生土器をはじめ石器、上製品、角製品、動物遺体、サヌカイト片などを包含していた。弥生土器は壺・高杯・鉢・甕・水差形土器・壺蓋・甕蓋など(142~383)。石器は柱状片刃石斧(425・428)・扁平片刃石斧(429)・石庖丁(432~438・440~443)などの磨製石器と石槍(448~452)・石鎌(453・455~457)・石小刀(458)・削器などの打製石器および砥石(445・447)。上製品は円板形土製品(464~480)・ミニチュア上器(481・482)、角製品は円孔を有する板状品・破片一(483)。動物遺体はイノシシ・シカと大型哺乳類(資料番号11~20)などであった。

13下層上面遺構(第10・11・12図 図版7~11)

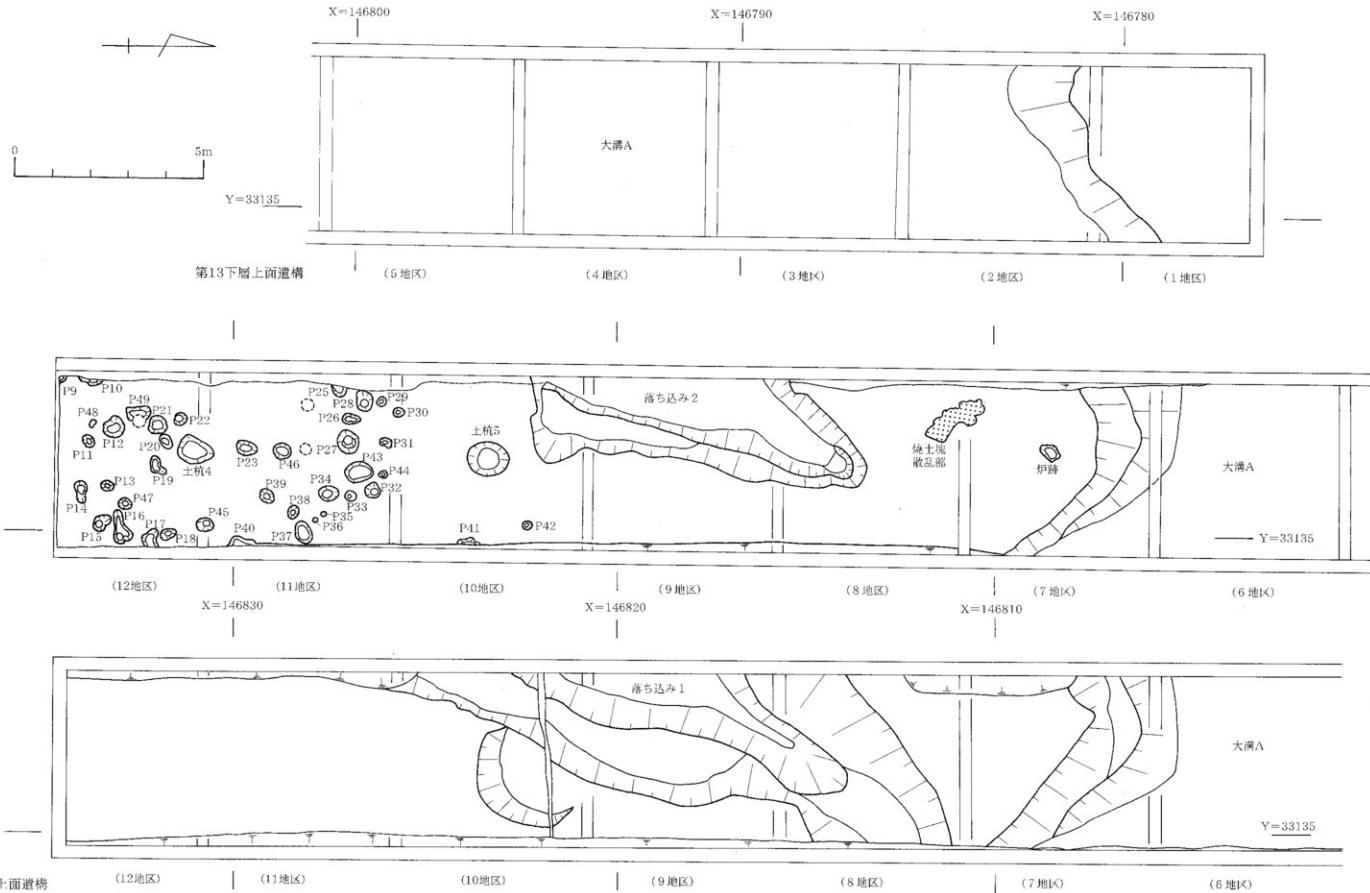
調査地の1・2地区から7地区にかけての大溝A、7・8地区で炉跡=炭ビット、焼土塊集散部、8~10地区で落ち込み(落ち込み2)、10~12地区で土坑2基(土坑4・5)とビット41個(P9~49)を検出した。

ビットのうちP11・P21・P35・P40・P45・P46・P47の7つには柱根が残存していた。柱根はP21・40・41のようにほぼ直立てていたものと、P11・46のように斜め方向に設置されたものがあった。また、P21の柱根には横に丸木材がそえられてあった。P32などのように抜き取られたものがあったが、残存していた柱材は樹立した状態のままで切断されていた。

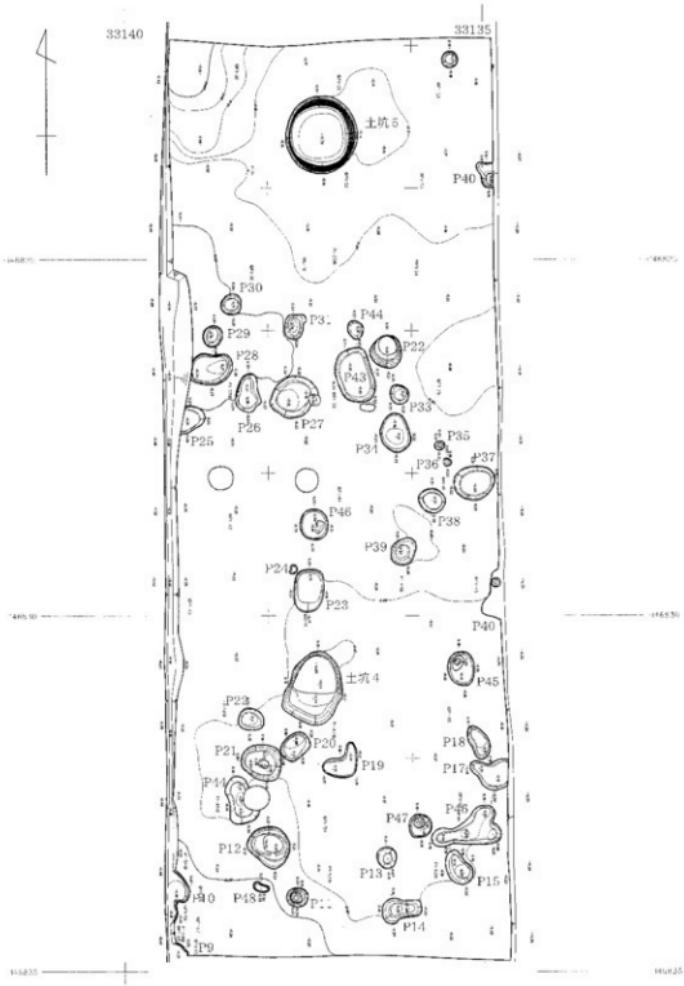
土坑4は長辺1m・短辺0.75m、深さ0.15mの平面・隅丸の変形砲弾状で、断面は逆台形を呈する。埋土は植物遺体を多量に含む黒褐色砂混じりシルト質粘土で、甕(34)・高杯(35)などの弥生土器と焼土塊・粒を包含していた。

土坑5は径0.95m、深さ0.7m以上を測り、井戸と考えられる。深度約0.5m付近で径はほぼ半分の0.45mとなって段をなしていた。(第12図) 埋土内からは弥生土器・サヌカイト片などが出土した。弥生土器には壺(36~38)・高杯(39)と甕などがあった。

落ち込み1は8~10地区的西側で検出した。上の一部は溝3によって攪乱されていた。西部は調査地外となり、形は不明。南北8.9m、東西2.8m、深さ0.6m以上を測り、東側は2段に落ちて一部には段を有する。落ち込み内は下部が植物遺体・炭を含むオリーブ黒色の砂混じり粘土質シルトまたはシルト質粘土(k・l・m)、中部がオリーブ褐色・暗灰黄色の砂混じり粘土質シルトまたはシルト質粘土(i・j)、上部はオリーブ黒色・灰色の砂混じりシルト質粘土(f・g・h)で9層に分かれ、底部には径約12cm、長さ約1.2mの樹皮の残存した木幹が横たわっていた。埋土内からは壺(103~116)、高杯(117~121)、鉢(126~128)、甕(129~141)壺蓋(122・123)、甕蓋(124・125)など多くの弥生土器、削器などの石器、円板状土製品、板状(418)や棒状などの木製品、サヌカイト片などが出土した。

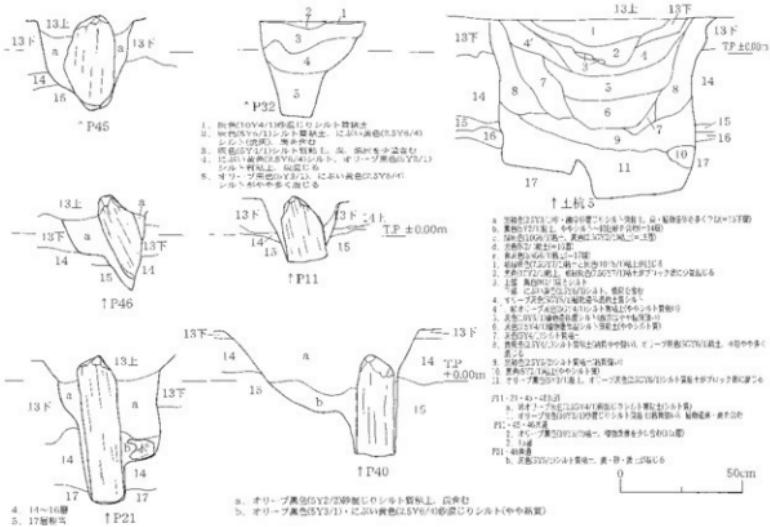


第10図 第13上層・下層上面遺構平面図



第11図 第13下層上面遺構平面図一部分

落ち込み1と後述する大溝Aの間の7・8地区からは炉状のピットと焼上が集散した場所を検出した。炉状ピットは $0.5 \times 0.35m$ 、深さ $0.04m$ を測る浅いすり鉢状を呈していた。底・側面には焼上が部分的に残存し、下部の一部に炭混じり黒褐色砂混じりシルト、下・中部は焼土・灰混じりの灰色粘土や灰白色シルト・灰オリーブ色粘土質シルト、上部は緑黒色・緑灰色シルト質粘土で埋まっていた。中からは弥生土器やサヌカイトの小細片が出土した。この炉状ピットの南からは焼土塊・粒が多量に



第12図 第13下層造構断面・断ち割り断面図

集散した状態で検出した。

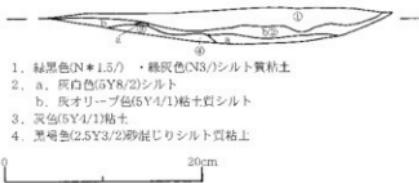
大溝Aはこの時期、調査地内で東に「八」の字状に開き、幅26.5~31m、深さ0.4m以上を測る。埋土は上部が植物遺体を含むに、黄褐色砂混じり粘土質シルト、下部がやや多くの植物遺体を含む暗オリーブ褐色粘土で、壺・高杯・鉢・甕などの弥生土器、高杯(410)・小型臼(412)・手斧の柄(413)・先尖棒(414・415)・有孔板(416・417)・抉り入り板(424)・角材(422)と板状または棒状などの木製品、石磨丁などの磨製石器、削器などの打製石器、円板状土製品、サスカイト片、シカの角・肩甲骨、イノシシ下顎骨(資料番号21~23)などの動物遺体が出土した。

調査域で見る限り、この時期、南部域はピット群が十坑4を中心に外径約9.5mの円形状を呈し、その北端に井戸を配する住居域で、落ち込みと屋外炉(一時的なもの)があつて、北は大溝Aによってこの住居域を画していたものと思われる。

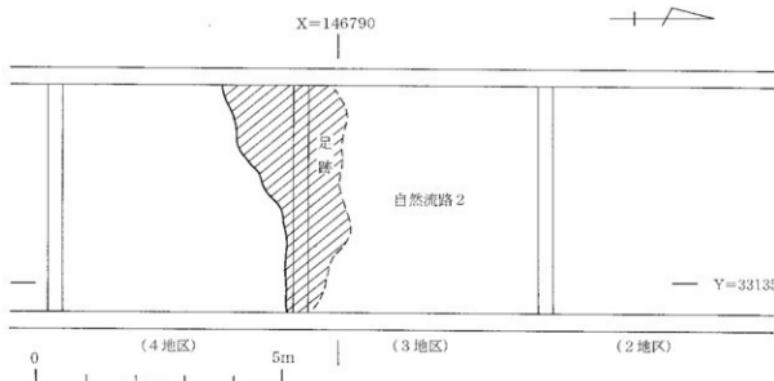
第13上層上面造構(第10・13図 図版10)

この時期、第13上相当層は7地区あたりから北に広がっていた。南方部はやや高く盛土をした整地層=第13上層があり、7地区で北側への落ち込み(埋土は第13上相当層)の肩、8~11地区で落ち込み1(上層部)とこれと連結していた溝(溝5)を検出した。

落ち込み1は8から11地区にかけて検出し、西側の一部は溝3によって切断されていた。落ち込み部はすでに第13下層時期に形成されていたものであるが(前述)、この時期にも活用しており、東北東方向からの溝5を有していた。南側部が段を有す



第13図 炉ピット断面図



る浅い鉢状を呈し、溜り状態であったと思われる。埋土は暗灰黄色粘土質シルト褐灰色および黒褐色シルト質粘土などの4層に分かれていたが、植物遺体・炭化物などの混じる自然堆積層で、遺物は出土しなかった。

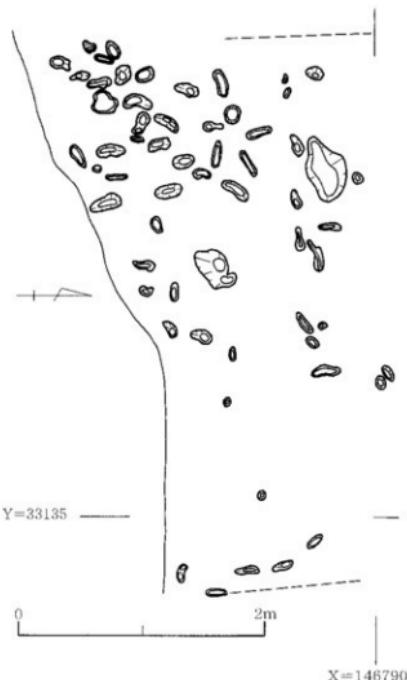
溝5は幅3.5m、深さ0.2mを測り、西南西部で落ち込み1に流れ込んでいたと思われる。埋土は植物遺体を含む黒褐色砂混じりシルト質粘土であったが、遺物は出土しなかった。

1～7地区にかけて存した大溝Aは、南肩部の一部を溝2によって切断されていたが、段を有する浅い落ち込みの状況となっていた。北肩は第13下層期とほとんど変わらず、南北26～31m、深さ0.2mを測った。埋土は植物遺体を含む砂混じりの灰オリーブ色シルト質粘土で、少量の弥生土器・サヌカイトの小・細片が出土しただけであった。

第13相当上層上面遺構-1-

(第14図 図版12)

第12最下層掘削ののち、4・3地区にかけての自然流路1下層付近で自然流路2の南肩などを検出した。北側は自然流路1によって削られていたため不明。検出の幅4.9～2m、深さ0.3mを測り、灰オリーブ・灰色の中・粗粒砂、灰色シルト質砂、緑灰色シルト質粘土などが堆積し、弥生土器・植物遺体などが出



第14図 自然流路2・流路内足跡平面実測図

土した。ほぼ東から西方向に流れていたと考えられ、南斜面および底面の一部から人などの足跡を検出した（第14図）。弥生土器には壺（98・99）と高杯（100～102）などがあった。弥生時代中期後半。

第13相当上層上面遺構－2－（第15図 図版12）

調査地北よりの1～4地区で溝4および自然流路1を検出した。

自然流路1は2～4地区で検出し、幅9～7m、深さ0.265mを測る。中央で二股に分かれ、東端部で南流路および北流路の幅は2.95mを測る。流路内は灰褐色砂混じりシルト、砂混じりシルトを含むにぶい黄色中・粗粒砂、灰色細～粗粒砂・シルト砂が堆積し、種実など植物遺体・弥生土器片・サヌカイト片、モモの種などが出土した。東北東から西南西方向に流れていたと考えられる。弥生時代中期末期。

溝4は第13上相当層および自然流路1上面で検出した。ゆるやかなに屈曲するY字状を呈し、中央部付近で二股に分かれ、北北東から北西または西へ延びていた。幅0.5～0.1m、深さは部分的に深みをなすところもあり0.1～0.04mを測った。溝内は暗灰黄色（2.5Y5/2）砂混じり粘土質シルトで弥生土器小・細片が少量出土した。自然流路1よりも後に掘削されており、中期最末期。

奈良時代

第9層は奈良時代相当層で2層に大別され、上層は植物遺体を若干含む青灰色シルト質粘土・極細・細粒砂の混層で、下層は植物遺体を含む灰色シルト質粘土で第10～13層を掘り上げて形成された整地土である。層内からは弥生土器・石器・須恵器・上師器・サヌカイト片などが出土した。石器には柱状片刃石斧（426・427）一出土状況・図版13-1があり、弥生土器には壺（402・403）・鉢（404）、古墳時代の須恵器（405～407）および奈良時代の須恵器（408）と土師器（409）があった。

第9層上面遺構（第15図 図版14）

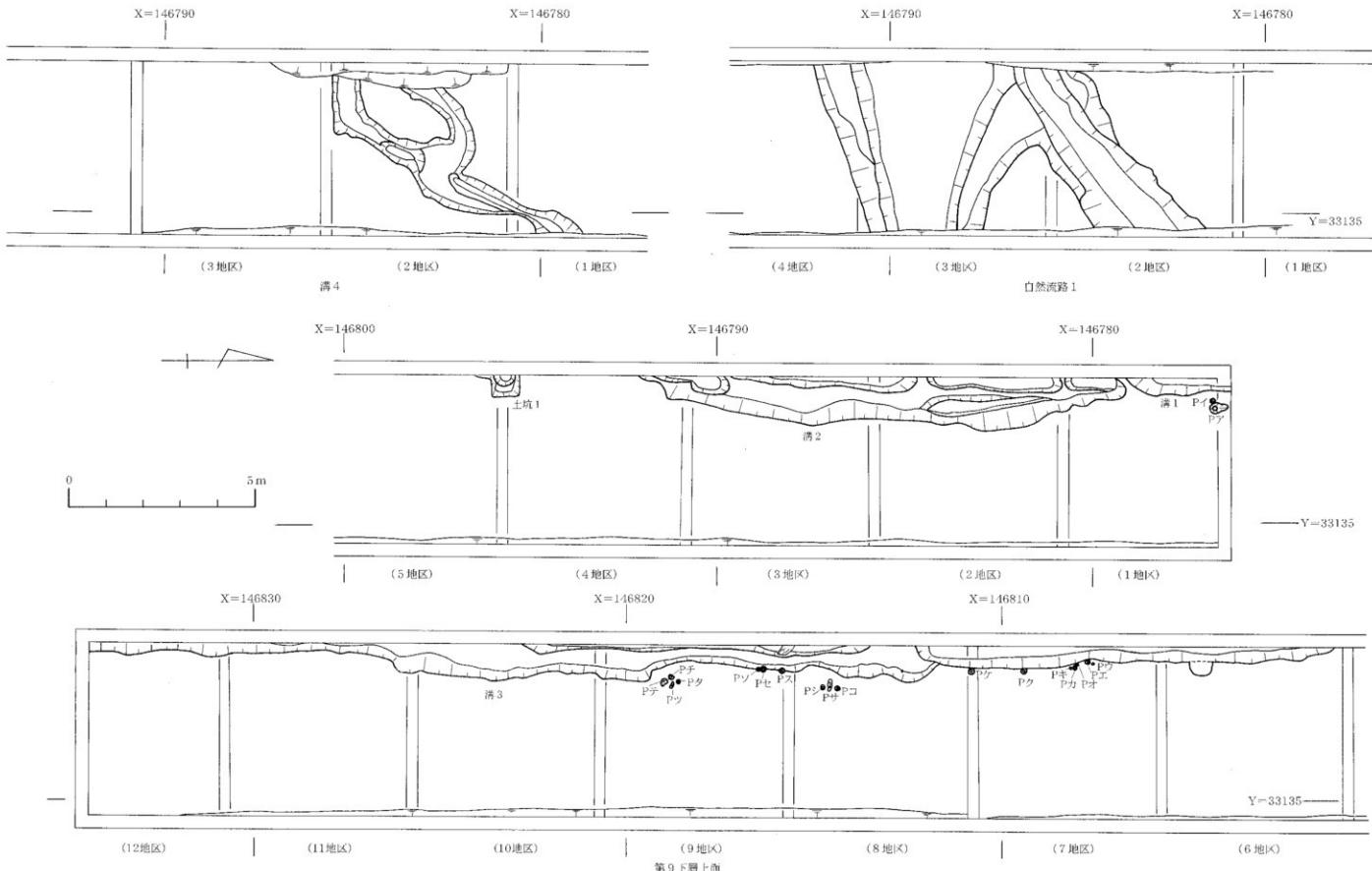
西壁側において、溝3条（溝1～3）、土坑1基（土坑1）と各溝の東肩付近できわめて小さいピットを19個（Pア～テ）検出した。3条の溝および土坑はいずれも西側は調査地区外で、明確な東西軸は不明である。

溝1・2は検出東肩部に凹凸があって西壁際での平面上は別であったが一連のものである。検出の幅0.4～1.4m、長さ15.4m、最深0.8mを測る。底部ははところどころに土坑状の掘り込み部があった。溝内はオリーブ灰色ないし暗オリーブ灰色の砂混じりシルト質粘土で植物遺体を含み、とくに下部は第10～14層が混ざっていた。土師器片、弥生土器片、石庵丁（439）・柱材の一部などが出土した。

溝3は検出の最大幅0.63m、長さ33.5m、最深0.7mを測る。溝内は植物遺体を含むオリーブ灰色砂混じりシルト質粘土で土師器片、弥生土器片、板状木製品などが出土した。やや離れているが溝1・2と同一の性格のものである。

土坑1は角丸の凸状を呈するが西側は不明。検出幅0.8×0.6m、深さ0.3mを測る。溝内は2段に落ち、埋土はオリーブ灰色砂混じりシルト質粘土で上記の各溝同じ埋で、一連のものの川張り部とも考えられる。

これらの溝・土坑は東側部分を検出したのみで用途は不明。弥生時代の植物遺体層（第10層）・遺物包含層＝整地層（第13層）および遺構をも穿っていたことから、各埋土内には植物遺体とともに弥生土器・サヌカイトの小細片や小型の砲弾状石製品などを包含していたが、形成時期は奈良時代以降のものである。



第15図 第9下層七面遺構・溝4・自然流路1平面実測図

第2表 第9下・13下・14層上面構造一覧表

第9下層上面

ピット

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
ア 1		円	20	5.0	緑灰色(7.5Y6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む	
イ 1		円	10	4.0	緑灰色(7.5Y6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む	
ウ 7		円	7	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土	
エ 7		円	15	5.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む(オリーブ黒や多い)	
オ 7		円	7	9.0	緑灰色(7.5Y6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む(オリーブ黒や多い)	
カ 7		円	6	3.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・細繊度じりシルト質粘土、オリーブ黒色(10Y3/1)粘土粒含む(オリーブ黒や多い)	
キ 7		円	6	3.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
ク 7		円	10	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
ケ 7・8		円	12	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	弥生土器
コ 8	不定形	12×8	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト		
サ 8	格円	20×8	5.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト		
シ 8		円	10	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
ス 9		円	11	4.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
セ 9		円	13	5.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
ソ 9		円	8	3.0	緑灰色(7.5G6/1)沙・極小繊度じり粘土質シルト	
タ 9		円	7	3.0	淡黄色(2.5Y7/4)細粒砂	
チ 9	不定形	12×10	4.0	オリーブ灰(5GY6/1)細粒砂		
ツ 9	格円	12×7	4.0	オリーブ灰(5GY6/1)細粒砂		
テ 9		円	15	5.0	淡黄色(2.5Y7/4)細粒砂	

上坑

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
1	4・5	方形	80×60	30.0	オリーブ灰(5GY5/1)沙混じりシルト質粘土(粗~細粒)	

溝

番号	地区名	幅(cm)	長(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
1	1	50	290	60.0	オリーブ灰(5GY5/1)沙混じりシルト質粘土(植物遺体含む、下部に14層など巻き上げる)	弥生土器
2	1~4	1.4	1,250	80.0	暗オリーブ灰(5GY4/1)沙混じりシルト質粘土(10~14層巻き上げている)	弥生土器、石包丁、円板型土製品
3	6~12	63	3,350	70.0	オリーブ灰(5G5/1)沙混じりシルト質粘土(粗~細粒、下部に10~14層巻き上げて、各ブロックが散乱)	弥生土器、土師器、柱坑、球状石製品、漁器、杭

第13下層上面

ピット

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
9 12	—	—	17×16	3.6	黒褐色(2.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土	
10 12	—	—	73×17	12.0	黒色(10Y2/1)沙混じりシルト質粘土(砂少量)	
11 12	円	—	27×30	12.2	a. 暗オリーブ灰(2.5GY4/1)沙混じりシルト質粘土(シルト質) 1. オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(粘質物、植物遺体、炭を含む) 2. オリーブ黒色(10Y3/2)粘土質植物遺体を少し含む) 3. 黒色(2.5Y2/1)粘土(植物遺体含む)	
12 12	不定形	56×57	西 23.2 東 52.5	10.0	黑色(2.5Y2/1)シルト質粘土(焼、植物遺体、炭、砂少量含む)	弥生土器
13 12	円	28×30	—	10.0	オリーブ黒色(5Y2/2)沙混じりシルト質粘土(炭含む)	弥生土器
14 12	格円	37×55	西 15.0 東 10.0	10.0	オリーブ黒色(5Y2/2)沙混じりシルト質粘土(炭含む)	弥生土器
15 12	格円	48×34	北 8.0 南 12.0	8.0	黒褐色(2.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭土含む)	弥生土器、机

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	造 物
16	12	不定形	54×95	A 5.5 B 12.0 C 6.0 D 14.9	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(焼土含む)	弥生土器
17	12	不定形(欠)	41×(49)	70.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
18	12	横円	48×25	北 19.3 南 7.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
19	12	不定形	5×45	35.0	黒褐色(2.5Y3/2)シルト質粘土(黒色N2/炭)	弥生土器、柱片(?)焼
20	12	横円	46×38	10.8	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
21	12	横円	47×53	12.0	a. 精オリーブ灰(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(シルト質) b. 灰色(5Y5/1)シルト質粘土(炭・砂・粘土混じる) I. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(粘質強い、炭・植物遺体含む) 2. 14~16層 3. 17層相当	弥生土器、W 11
22	12	円	36×31	10.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
23	11	横円	58×42	北 8.5 南 22.0	黒色(N2/炭)	弥生土器、サヌカイト
24	11	不定形	9×14	10.5	黒色(N2/炭)	
25	11	不定形(欠)	39×(31)	12.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、サヌカイト、燒土塊
26	11	不定形	54×36	8.8	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
27	11	円	58×68	7.6	オリーブ黒色(10Y3/1)の混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
28	11	横円(欠)	43×(58)	7.6	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、燒土塊、サヌカイト
29	11	円	29×28	11.2	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
30	10・11	円	23×28	12.9	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
31	10・11	不定形	35×26	10.3	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、燒土塊
32	11	円	46×46	44.4	1. 灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土 2. 灰色(GY5/1)シルト質粘土、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト焼灰、灰を含む 3. 灰色(GY4/1)シルト質粘土(炭・焼灰を含む) 4. にぶい黄色(2.5Y6/4)シルト、オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土(炭混じる) 5. オリーブ黒色(GY3/1)、にぶい黄色(2.5Y6/4)シルトがやや多く巻じる	弥生土器
33	11	円	26×27	北 6.4 南 8.7	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(混合む)	弥生土器
34	11	横円	54×42	8.2	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭含む)	弥生土器、燒土塊
35	11	円	14×12	11.4	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(粘あり)	
36	11	円	11×11	4.5	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土	
37	11	円	48×58	11.5	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
38	11	円	34×36	7.9	オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
39	11	円	41×31	15.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
40	11	不定形(欠)	68×(25)	36.4	1. オリーブ黒色(5Y2/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む) 2. オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭混じる) シルト(やや粘質)	弥生土器、サヌカイト、W-37
41	10		35×(21)	北 6.2 南 13.0	黒色(10Y2/1)炭、にぶい黄色6/3シルト	弥生土器
42	10	円	22×22	12.0	灰色(GY4/1)砂混じりシルト質粘土、オリーブ灰(2.5GY6/1)シルト質粘土(ブロック、炭含む)	弥生土器
43	11		76×50	8.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭巻じる)	弥生土器、サヌカイト
44	11		25×21	6.4	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭巻じる)	弥生土器

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
45	11・12	梢円	48×36	6.9	a.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(シルト質) 1.オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(粘質強い、植物遺体、炭を含む) 2.オリーブ黒色(10Y3/2)粘土(植物遺体を少し含む) 3.オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器
46	11	円	44×40	6.3	a.暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(シルト質) b.灰色(5Y5/1)シルト質粘土(炭・砂・焼土混じる) 1.オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(粘質強い、植物遺体、炭を含む) 2.オリーブ黒色(10Y3/2)粘土(植物遺体を少し含む) 3.オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、サヌカイト、W-47
47	12	円	31×31	—	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭を含む)	弥生土器、サヌカイト、W-25
48	12	梢円	11×22	5.0	オリーブ黒色(3Y2/2)砂混じりシルト質粘土(炭を含む)	
49	12	梢円(欠)	65×38	15.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土、緑灰色(5G6/1)(粘土含む)	弥生土器、柱

土坑

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
4	11・12	不定形	100×78	15.0	黒褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物多量)	弥生土器、埴土塊
5	10	円	108	63.0	a. 黒褐色(2.5Y3/1)中・細粒砂混じりシルト質粘土、炭・植物遺体を多く含む(=13.7層) b. 黒色(Y2/1)粘土、ややシルト～細粒砂を含む(=14層) c. 緑褐色(10G6/1)粘土、黒色(2.5GY2/1)粘土(=15層) d. 黑褐色(2/1)粘土(=16層) e. 黄褐色(5BC6/1)粘土(=17層) 1. 始灰褐色(7.5GY7/1)粘土と灰褐色(10Y6/1)粘土が混じる 2. 黑色(10Y2/1)粘土、暗緑灰色(7.5GY7/1)粘土がブロック状に少しづつ混じる 3. 上部: 黒色(N2/2)炭とシルト 下部: にせい黄色(2.5Y6/3)シルト、焼灰を含む 4. オリーブ灰色(5GY5/2)植物遺体混粘土質シルト 4'. オリーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土 5. 黄褐色(2.5Y4/1)シルト質粘土(粘質や強い)、オリーブ灰色(GY6/1)粘土、小砂やや多く混じる 9. 黒褐色(2.5Y5/2)シルト質粘土(粘質強い) 10. 黑色(5Y2/1)粘土(ややシルト質) 11. オリーブ黒色(5Y3/1)粘土、オリーブ灰色(2.5GY6/1)シルト質粘土がブロック状に混じる	弥生土器、埴土塊

第14層上面

ビット

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
50	12	円	8	7.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
51	12	梢円(欠)	30×(10)	12.0	黒色(10Y2/1)粘土質シルト(炭、植物遺体含む)	
52	12	円(欠)	25×(11)	9.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰色(5Y4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む) c. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む) d. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土(炭混じる) e. オリーブ黒(7.5Y3/1)砂混じり粘土質シルト	弥生土器
53	11	円	40	10.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、焼土含む)	弥生土器、サヌカイト
54	11	円	24×22	13.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、焼土含む)	弥生土器
55	11	不定梢円	50×40	13.0	オリーブ黒色(5Y2/1)砂混じりシルト質粘土	
56	11	瓢形	45×(23)	12.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、焼土含む)	弥生土器

番号	地区名	形 状	規 模(cm)	深(cm)	土 色	造 物
57	10・11	楕円	32×25	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
58	10	楕円	16×22	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
59	10	楕円	27×46	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-60
60	欠番					
61	10	円	17×18	43.0	黒色(7.5Y2/1)粘土質シルト(植物遺体、炭多く含む)	弥生土器
62	10	楕円	10×15	4.0	黒色(7.5Y2/1)シルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
63	9	楕円	43×31	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-65
64	8	円	20×23	3.0	黒色(5Y2/1)シルト質粘土(燒土、炭含む)	弥生土器
65	8	円	16×17	4.0	黒色(7.5Y2/1)シルト質粘土(炭、燒土、植物遺体含む)	
66	8	円	16×17	11.0	黒色(10Y2/1)シルト質粘土(黒色*1.5/炭含む)	炭
67	8	楕円(欠)	21×(40)	9.0	オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、炭、燒土含む)灰(10Y5/1)燒土塊が混じる。	
68	8	円(欠)		5.0	オリーブ黒色(10Y3/2)沙混じりシルト質粘土(炭、燒土、植物含混体含む)	W-67・68・92
69	12	円(欠)	15×(10)	6.0	?	
70	8	円		22.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、炭、燒土含む)	弥生土器
71	8	円	18×14	17.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、炭、燒土含む)	
72	7・8	楕円	65×38	13.0	×	
73	7・8	不定楕円	48×38	10.0	炭色(7.5Y4/1)沙混じりシルト質粘土(炭混じる)灰オーリーブ色(5Y6/2)シルト粒混じる	
74	7・8	楕円(欠)	36×44	11.0	暗オリーブ灰色(2.5GY4/1)沙混じりシルト質粘土	弥生土器、燒土塊、W-76
75	7	楕円	20.5×14	2.0	オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
76	7	漏丸方形	29×29	6.5	オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
77	7	円	9×2	4.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土(炭含む)	
77'	7	円	8×9	3.0	オリーブ黒色(5Y3/2)沙混じりシルト質粘土	弥生土器
78	7	楕円	11.5×16	3.0	オリーブ黒色(5Y3/2)沙混じりシルト質粘土(炭含む)	
79	7	漏丸方形	35×36	11.0	黒色(2.5GY2/1)沙混じりシルト質粘土(炭、燒土、植物遺体含む)	弥生土器
79'	7	円	15×15	10.0		弥生土器
80	12	円(欠)	23×24	11.0	黒色(2.5GY2/1)粘土質シルト(植物遺体、燒土、炭含む)	
81	7	不定圓(欠)	26×(20)	4.0	オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	弥生土器
82	12	不定形	52×53	11.7	黒色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土、綠灰色(10GY6/1)粘土粒(炭、植物遺体含む)	
83	12	円	30×33	9.5	暗オリーブ灰色(5GY4/1)沙混じり粘土質シルト(植物遺体多く含む)	
84	12	円	24×26	4.4	炭色(7.5Y4/1)沙混じりシルト質粘土(表面に植物遺体)	
85	12	円	22×21	9.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
86	12	円	25×23	22.0	オリーブ黒色(5Y3/2)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、燒土塊
87	12	楕円 円(欠)	19×30 21×(21)	7.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む、中央に植物遺体粉あり)	弥生土器
88	12	円(欠)	26×(26)	17.0	暗オリーブ灰色(5GY4/1)沙混じり粘土質シルト(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-27
89	12	楕円	35×27	18.9	暗オリーブ灰色(2.5GY3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-26
90	12	楕円	21×35	16.0	オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
91	12	楕円	22×30	7.0	オリーブ黒色(10Y3/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
92	12	楕円(欠)	(14)×36	11.8	黒色(2.5GY2/1)沙混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
93	12	円	19×17	8.0	オリーブ黒色(10Y3/2)沙混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	弥生土器

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	上 色	遺 物
94	12	不定形	38×66	13.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-24
95	12	円(欠)	15×(13)	4.2	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
96	12	楕円(欠)	33×(21)	8.5	暗オリーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む、褐色10YR4/4動物粉あり)	
97	12	不定形	56×14 56×	北 8.3 南 10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-22
98	12	円 円(欠)	34×23 24×22	北 11.0 南 22.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
99	12	楕円	17×(24)	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-21
100	12	楕円	102×32	20.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
101	12	不定形(欠)	28×(32)	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器
102	9	楕円	32×24	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-64
103	9	楕円	42×26	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
104	9	円	12×10	6.0	オリーブ黒色(10Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
105	9	楕円	26×21	5.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、動物遺体含む)	弥生土器、動物遺体
106	9	楕円	25×28	5.0	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	弥生土器
107	9	楕円	27×21	—	灰色(3Y4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
108	12	円(欠)	18×(10)	8.0	黑色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
109	12	楕円	24×17	8.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
110	12	円	23×23	9.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
111	12	楕円	15×20	6.0	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
112	12	楕円	37×26	16.0	灰色(7.5Y3/1)砂混じりカシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
113	12	楕円	30×38	20.0	墨色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	弥生土器、W-3
114	12	不定形	30×25	7.0	暗オリーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
115	12	楕円(欠)	20×(20)	16.0	a. オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じり粘土質シルト(炭、植物遺体含む)	
					b. 黄褐色(5Y4/1)シルト質粘土、褐色(10YR4/6)木片	
					c. オリーブ黒色(5Y3/2)シルト質粘土	
					d. 灰色(7.5Y4/1)シルト質粘土(やや粘質)	
					e. 黑色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト	
116	12	楕円(欠)	(20)×15	—	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
117	12	不定形	28×24	12.0	暗オリーブ灰褐色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-13
118	12	円	16×14	8.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
119	12	楕円	22×14	13.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
120	12	楕円(欠)	38×(50)	—	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
121	11	円	16×16	—	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
122	12	円	21×24	—	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
123	12	円(欠)	24×(10)	9.0	暗オリーブ灰褐色(3GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
124	12	楕円(欠)	32×(40)	17.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
125	12	楕円	30×20	21.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	W-9
126	12	楕円	22×30	15.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
127	12	不定形	22×60	—	灰色(7.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	W-14
128	12	不定形	14×20	8.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体、炭含む)	
129	11	楕円	30×25	12.0	暗オリーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	W-16
130	11	楕円	15×20	9.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	

番号	地区名	形 状	規格(cm)	深(cm)	上 色	通 物
131	11	不定形	(30)×26	6.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黒褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト	
132	11	不定構円	84×42	12.0	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	W-86
133	11	構円(欠)	20×(22)	5.0	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土	
134	11	構円	19×24	7.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	W-52
135	11	構円	34×26	11.0	暗オーブ灰色(2.5GY4/1)粘土質シルト (炭、植物遺体含む)	
136	11	構円(欠)	19×(20)	---	オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
137	11	不定形	(10)×16	12.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	W-43
138	11	円(欠)	20×23	7.0	灰褐色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	
139	11	円(欠)	(25)×33	5.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
140	11	不定形(欠)	28×(46)	—	黒色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
141	11	円(欠)	24×(17)	7.0	灰褐色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	
142	11	構円(欠)	(13)×20	—	暗オーブ灰色(5GY4/1)シルト質粘土 (植物遺体含む)	
143	11	構円(欠)	32×(16)	—	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	W-34
144	11	円(欠)	(12)×21	6.0	暗オーブ灰色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
145	11	円(欠)	(19)×29	8.0	暗オーブ灰色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
146	11	円(欠)	18×(13)	—	オリーブ黒色(10Y2/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
147	11	構円	40×46	5.0	オリーブ黒色(10Y2/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
148	11	構円	43×17	6.0	暗オーブ灰色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
149	11 12	構円	49×32	16.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
150	11	不定形	27×14	—	灰褐色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
151	11	構円	20×22	5.0	暗オーブ灰色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
152	11・12	構円	29×18	—	灰褐色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	
153	12	円	70×70	16.0	灰褐色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	W-5
154	12	構円(欠)	18×(11)	—	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
155	12	構円(欠)	20×(14)	—	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
156	12	構円	22×17	7.0	灰褐色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	W-6
157	12	不定形	67×72	11.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土 (砂少し、植物遺体含む)	W-7・10
158	12	構円	19×10	—	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
159	12	不定形	28×19	—	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	
160	12	円(欠)	(16)×6	8.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
161	12	円(欠)	(16)×4	8.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰褐色(7.5Y4/1)シルト質粘土	
162	12	円(欠)	(10)×14	—	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (炭、植物遺体含む)	
163	12	円	16×14	—	灰褐色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
164	11・12	構円(欠)	22×(21)	13.0	a. オリーブ黒色(5Y3/1)砂混じり粘土質シルト(やや粘質) b. 灰褐色(7.5Y4/1)粘土 (少し砂混じる) c. 黄褐色(2.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土、黄褐色(10Y5/6) d. オリーブ黒色(5Y3/2)粘土 (少し砂混じる)	木片
165	12	不定形(欠)	(27)×30	—	灰褐色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体含む)	
166	11・12	不定形(欠)	42×(32)	12.0	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	
167	12	円	10×10	4.0	暗オーブ灰色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土 (植物遺体、炭含む)	

番号	地区名	形 状	規格(cm)	深(cm)	土 色	重 物
168	12	不定形	17×11	6.0	黒色(2.5GY2/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
169	欠番					
170	1112	不定形	38×28	12.0	暗オーブ灰褐色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
171	11	横円(欠)	20×20	8.0	オーブ黒色(7.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
172	11	円(欠)	30×(24)	6.0	灰褐色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
173	11	不定形(欠)	56×(36)	18.0	オーブ黒色(7.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	W-38
174	11	不定形	41×22	16.0	暗オーブ灰褐色(2.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土	W-36
175	11	円(欠)	18×(13)	—	暗オーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
176	11	不定形	27×36	14.0	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-53
177	11	不定形	56×61	8.0	オーブ黒色(7.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
178	11	不定形	70×33	9.2	暗オーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
179	11	不定形	32×26	6.0	オーブ黒色(7.5GY3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
180	11	不定形	28×24	—	暗オーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
181	11	横円(欠)	27×(18)	—	灰褐色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
182	11	円(欠)	(25)×33	—	暗オーブ灰褐色(5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
183	11	横円(欠)	16×(20)	—	灰褐色(7.5Y2/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
184	11	円(欠)	(2)×20	12.0	暗オーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-51
185	11	円	15×12	11.0	黑色(5Y2/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-44
186	11	横円(欠)	(14)×22	4.0	暗オーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
187	11	不定形	(32)×33	21.0	暗オーブ灰褐色(2.5GY4/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	W-48
188	7	円(欠)	22×(16)	35.0	a. オーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土 b. オーブ黒色(7.5Y3/1)粘土	
189	7	円	13×14	8.0	灰褐色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
190	7	不定形	27×30	5.0	灰褐色(7.5Y5/2)砂混じり粘土質シルト(植物遺体、炭含む)	
191	7	横円	19×30	8.0	灰褐色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体含む)	
192	9	不定形	44×23	6.0	オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
193	9・10	不定形	17×32	8.0	黑褐色(7.5Y2/1)砂混じり粘土質シルト(炭、植物遺体含む)	
194	9・10	円	19×21	8.0	オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
195	10	円	8×8	8.0	黑色(2Y2/1)砂混じりシルト質粘土(炭、植物遺体含む)	
196	10	横円(欠)	19×90	4.0	灰褐色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	溝状溜場
197	9	横円(欠)	27×21	11.0	オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
198	9・10	円	16×16	7.0	オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む)	
199	12	円(欠)	45×22	4.0	a. オーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、炭含む) b. 木 上部発色(10YR4/4)とコグ、下部 黄褐色(10YR5/6)	弥生上器、W-1
200	12	不定横円	50×32	13.0	オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
201	11・12	円	11×11	6.0	オーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土	
202	12	不定横円	32×21	11.0	オーブ黒色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	
203	12	円	17×17	8.0	オーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PA	7	—	15×--	11.5	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PB	7	—	10×--	21.0	黑褐色(2.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PC	8	—	18×--	27.0	オーブ黒色(5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)	
PD	10	—	32×--	29.5	灰色(10Y4/1)砂混じり粘土	杭打場
PE	10	—	9×--	17.5	a. オーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む) b. 黑褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土	

番号	地区名	形 状	規模(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
PF	11	—	30×—	34.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. オリーブ黒色(7.5Y3/2)シルト質粘土(灰混じる)	
PG	11	—	47×—	23.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PII	11	—	16×—	27.5	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 灰色(10Y1/1)シルト質粘土(灰混じる)	
PI	11	—	7.5×—	8.5	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PJ	11	—	21×—	12.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黑褐色(2.5Y3/1)砂混じり粘土	
PK	12	—	7×—	10.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	
PL	12	—	25×—	12.5	a. 棕色(10Y4/4)粘土質シルト b. オリーブ黒色(5Y3/2)粘土質シルト(やや粘質) c. オリーブ黒色(5Y3/1)シルト質粘土	木片
PM	11	—	10×—	5.0	オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土	

土境

番号	地区名	形 状	幅深(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
6	12	—	147×48	15.0	黑色(10Y2/1)シルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器、燒土塊
7	11	不定形	77×(78)	14.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(灰、植物遺体、焼土、綠褐色5G5/1粘土含む)	弥生土器、サヌカイト
8	11	椭円	53×47	18.0	オリーブ黒色(10Y3/1)シルト質粘土(植物遺体、灰含む)	弥生土器、削器、サヌカイト、W-54
9	11	椭円	79×41	18.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、灰含む)	W-55
10	10	不定形	140×(83)	13.0	オリーブ黒色(6Y3/1)砂混じりシルト質粘土(灰、植物遺体多く含む)	弥生土器、石錐、W-61・62
11	10	椭円	66×34	34.0	黑色(7.5Y2/1)シルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器
12	9	不定形	46×(37)	5.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、灰含む)	弥生土器
13	欠番	—	—	—	—	—
14	9	不定方型	68×76	16.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器
15	8	不定形	66×23	9.0	オリーブ黒色(7.5Y3/1)シルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器、W-66
16	7	不定椭円	155×116	23.0	オリーブ黒色(5Y3/2)砂混じりシルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器、W-75
17	8・9	円(欠)	137×(112)	35.0	オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土(燒土、灰少し含む)	弥生土器、砾石?
18	7	不定椭円	172×210	17.0	上: 灰色(7.5Y5/1)砂混じりシルト質粘土 (明オリーブ灰色25G5Y7/1砂上ブロック含む) 下: 灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、W-79~81
19	8・9	長椭円	120×25	8.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じりシルト質粘土	W-90
A	11	(椭円)	200×(80)	22.0	a. オリーブ黒色(7.5Y3/2)砂混じりシルト質粘土 b. 黑褐色(2.5Y3/2)砂混じり粘土質シルト c. 黑色(5Y2/1)砂混じり粘土質シルト	柱材等
大矢1	11・12	不定椭立形	500×700	20~50	黒褐色(10YR3/1)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、石包丁、動物遺体、燒灰、燒土塊、石斧?、削器、磨製石器、サヌカイト

溝

番号	地区名	幅(cm)	長(cm)	深(cm)	土 色	遺 物
溝A	8	24~104	450~	—	灰色(7.5Y4/2)砂混じりシルト質粘土	弥生土器、W-70・72・74・95・99
溝B	7	16~68	145	7.0	灰色(10Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体含む)、灰 オリーブ(5Y6/2)シルト含む、暗緑灰色3/1粘土塊・粒 含み、植物遺体、上部灰、植物遺体含む	弥生土器、W-93
溝C	7	33~105	410	23.0	上: 灰色(7.5Y5/1)砂混じりシルト質粘土(灰、植物遺体含む) 下: 灰色(10Y4/1)シルト質粘土(灰、植物遺体含む)	弥生土器、削木、W-73・94
溝D	7	50~70	325	10.0	上: オリーブ黒色(10Y3/1)砂混じりシルト質粘土 (燒土、灰混じる) 下: 灰色(7.5Y5/1)砂混じり粘土質シルト	弥生土器、削器、灰
大溝1	9・10	200~500	600~	25.0	灰色(5Y4/1)砂混じりシルト質粘土(植物遺体、灰混じる)	弥生土器、燒土塊、板状木製品、 削器、サヌカイト、焼木、炭化物 付石器、木製把手付容器、石皿? 、叩石?、燒土、W-103
大溝2	8	1,60~110	520~	35.0	灰色(7.5Y4/1)砂混じり粘土質シルト(植物遺体多く、灰混 じる)	弥生土器、サヌカイト、灰、燒木、 石器、板状木製品
大溝3	1~7	1,500~ 3,400	600~	60.0~	層位:(13)a・b・c・(14)	弥生土器、削器、木製品、円板狀 土製品、サヌカイト

4. 出土遺物

弥生時代～近世期の遺物が出土した。遺物は土器、木製品、石器、土製品、骨製品などがある。以下、各項目ごとに説明を記す。

1. 土器

各時代の遺構及び遺物包含層などに分けて記す。

1) 弥生土器

弥生土器は I ~ IV 様式に分類する。III 様式と IV 様式の土器は明確に分類できないので III ~ IV 様式として扱う。II ~ IV 様式に分けられない土器は中期と記す。また、II 様式の中には I 様式の可能性がある甕や鉢も含まれる。胎土中に石英・長石・角閃石・雲母を含むものを生駒西麓産とする。生駒西麓産の中には上記の鉱物が微粒や微量のものも含まれる。それ以外は非河内産で記す。色調は生駒西麓産が褐色～灰色、非河内産は乳白色～桃灰色が多い。また、本文中に調整法を記しているが、口縁部と底部端部のヨコナデ調整は普遍的なのであえて記さない。

遺構出土土器

大土坑（第16・17図1~33）

壺・細頸壺・甕・鉢・甕蓋の器種がある。

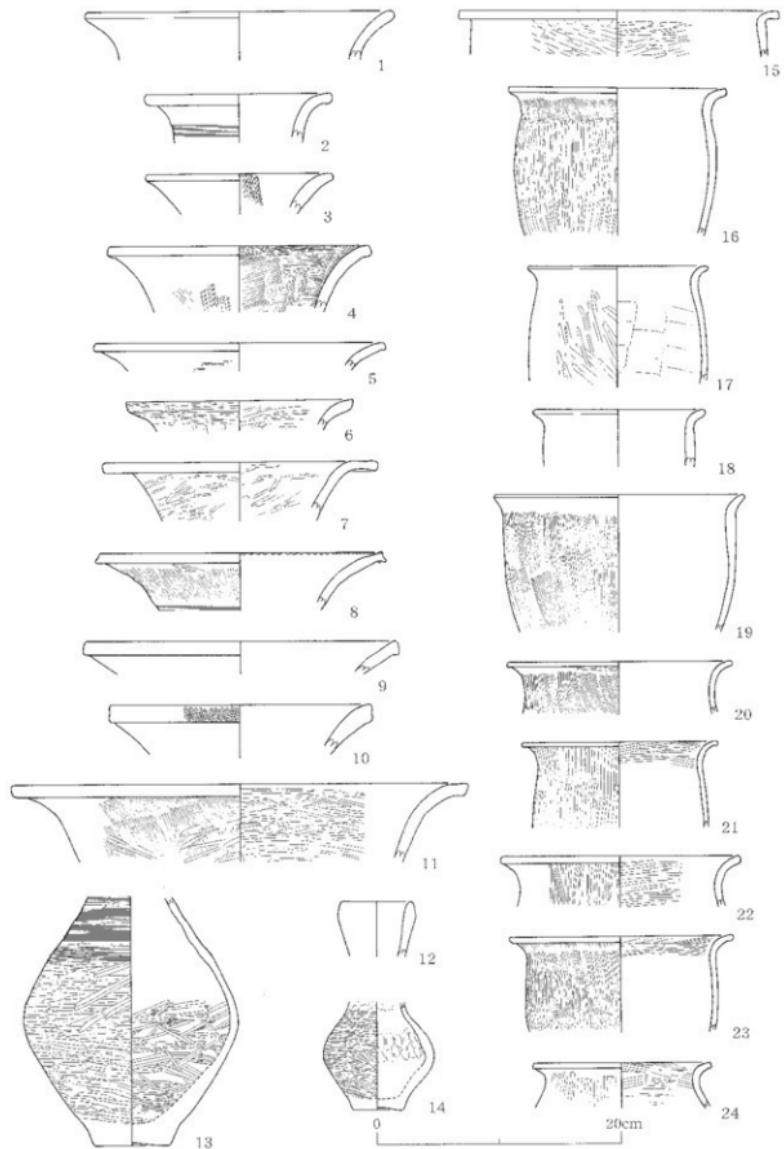
1～11・13・14は壺である。1～11は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。10は口縁端部に櫛描波状文、2・8は頸部に直線文を施す。また、8は口縁端部に刻み日を加える。3は口縁部内面に綫方向の直線文を施す。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整が多い。13・14は壺の体部である。底部は平底である。13は体部上半に櫛描直線文を施す。II 様式。2・8は非河内産、他は生駒西麓産。

12は細頸壺である。口頸部が外上方に伸びた後、内湾する。口縁端部は丸く終わる。内外面はナデ調整する。中期。非河内産。

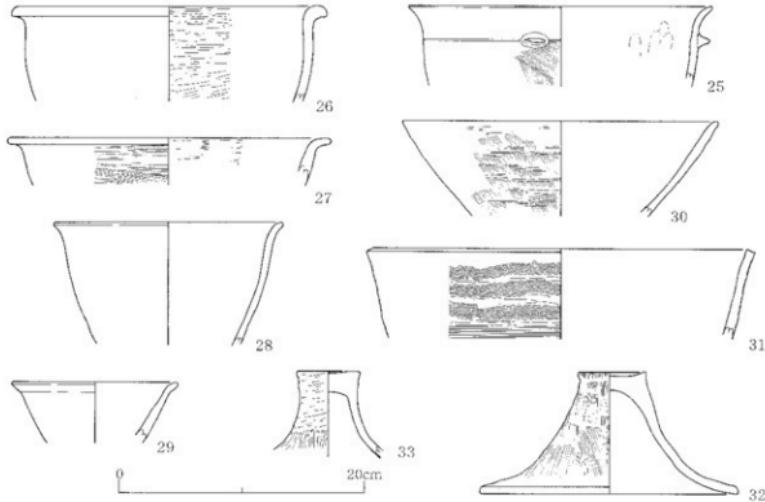
13～24は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部内外面はヘラミガキ調整やハケメ調整するものが多い。21～24は体部外面をハケメ調整、内面をナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。II 様式。23は非河内産、他は生駒西麓産。

25～31は鉢である。25は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に1条のヘラ描沈線文を施した後、瘤上の握手を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。25～29は体部の張りは少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つものと丸く終わるものがある。体部内外面はナデ調整するものが多い。30・31は体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。所謂、直口の鉢である。30は体部外面をハケメの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。31は体部外面に櫛描波状文と直線文を施し、文様帶間を研磨する。体部内面はナデ調整する。25は I 様式、他は II 様式。生駒西麓産。

32・33は甕蓋である。32は体部の立ち上がりがゆるく、つまみ部に向かうにしたがい急になる。つまみ部は上面がやや凹む。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。33はつまみ部である。外面をヘラケズリの後ヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。中期。32は非河内産、33は生駒西麓産。



第16図 大上坑出土土器実測図



第17図 大土坑出土土器実測図

土坑4 (第18図34・35)

甕と高坏の器種がある。

34は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は外側へ巻き込み、丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。非河内産。

35は高坏の脚部である。裾部の立ち上がりはゆるく、裾端部を上方は拡張する。内外面はハケメ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑5 (第18図36～39)

甕と高坏がある。

36～38は甕である。36・37は口頸部が大きく外反し、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に柳描波状文を施す。37は頸部に直線文を施す。36は外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。38は内外面をヘラミガキ調整する。38は口頸部が大きく外反し、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部は柳描簾状文を施した後、竹管文を加える。頸部にも簾状文を施す。内外面はナデ調整する。III～IV様式。36は非河内産、他は生駒西麓産。

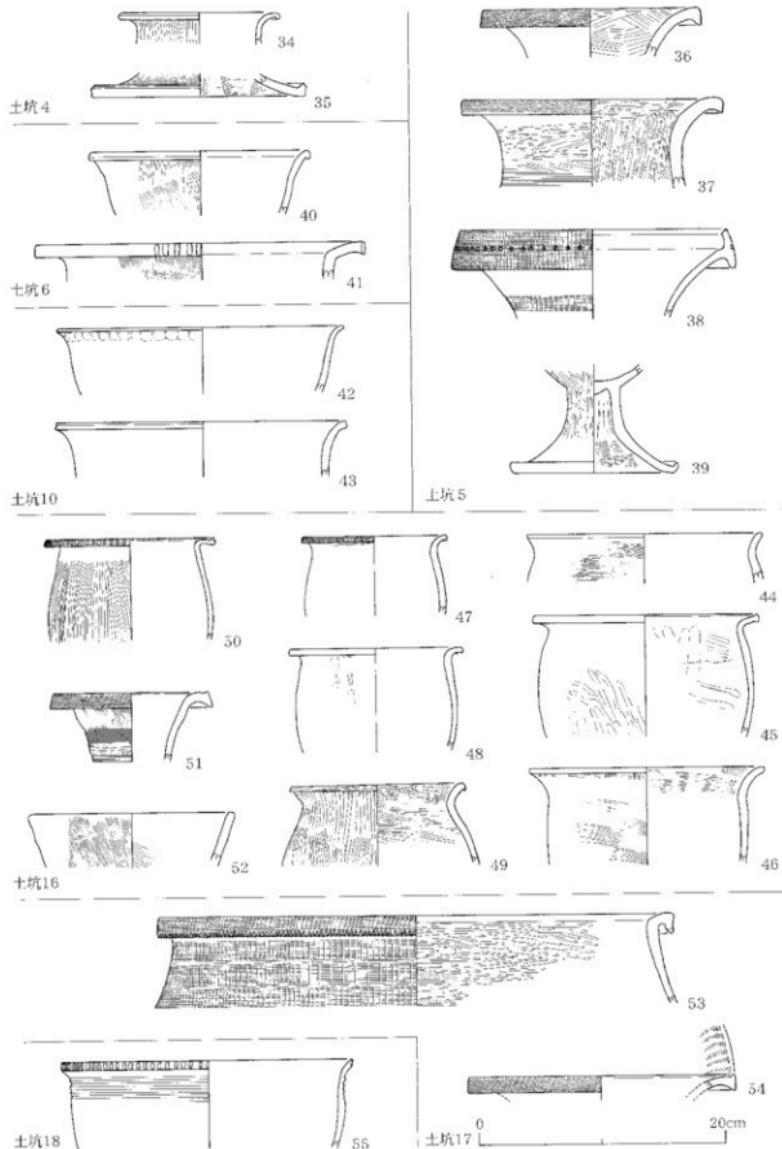
39は高坏の脚部である。裾部はゆるく立ち上がり、柱状部が中空で短い。裾端部は上方へ拡張する。外面は裾部がナデ調整、柱状部より上をヘラミガキ調整する。内面はハケメ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

土坑6 (第18図40・41)

鉢と甕の器種がある。

40は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒四龍産。

41は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部に刻め目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。



第18図 土坑4・5・6・10・16・17・18出土上器実測図

土坑10（第18図42・43）

鉢と甕がある。

42は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はナデ調整する。口縁部と体部外面の境に指頭圧痕が残る。II様式。生駒西麓産。

43は甕である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。体部下半は欠損するが、紀伊型の甕の可能性がある。II様式。非河内産。

土坑16（第18図44～52）

甕・壺・鉢の器種がある。

44～50は甕である。44～48は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。47は口縁端部に刻み目を施す。49は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。50は体部がやや張り、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。44～48はII様式、49は中期、50はIII～IV様式。47・48は非河内産、他は生駒西麓産。

51は壺である。頸部が大きく外上方に伸び、口縁部が強く外反する。口縁端部は下方へ拡張する。口縁端部に柳描波状文、頸部に直線文を施す。文様帶間は研磨する。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

52は鉢である。体部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

土坑17（第18図53・54）

鉢と壺の器種がある。

53は鉢である。体部が内傾する。口縁端部が下方へ折れ曲がる。口縁端部に刻み目と柳描簾状文、体部に簾状文を施す。文様帶間は研磨する。内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

54は甕である。口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に柳描波状文、口縁部内面に扇形文を施す。III～IV様式。非河内産。

土坑18（第18図55）

55は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に4条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はナデ調整する。I様式。生駒西麓産。

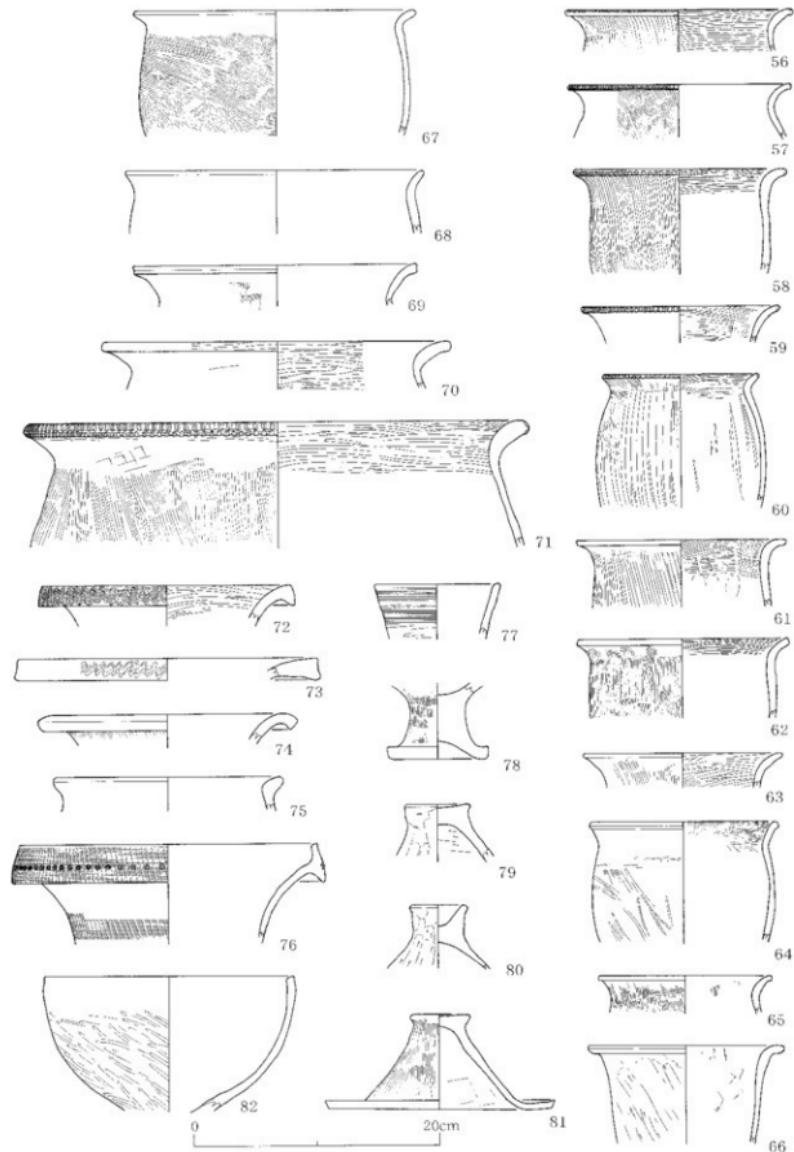
大溝1（第19図56～82）

甕・壺・細頸壺・高杯・甕蓋・鉢の器種がある。

56～71は甕である。56～63・71は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。56～60・71は口縁端部に刻み目を施す。64～70は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものが多い。II様式。56・58・61・71は非河内産、他は生駒西麓産。

72～76は壺である。72～74は口縁端部を下方へ拡張する。72・73は口縁端部に柳描波状文を施す。75は口縁部が短く外反し、口縁端部が内側は肥厚して丸く終わる。76は口頸部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に柳描簾状文と竹管文、頸部に簾状文を施す。外面はナデ調整する。75は中期、他はIII～IV様式。72・73は非河内産、他は生駒西麓産。

77は細頸壺である。口頸部が外上方に伸びる。口縁端部はやや丸く終わる。外面に柳描直線文を施す。



第19図 大溝1出七十器尖測図

す。文様帶間は研磨する。II様式。生駒西麓産。

78は高坏で扱うが他の器種の可能性もある。裾部の立ち上がりはゆるく、内面がわずかに凹む。裾端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

79~81は甕蓋である。79・80はつまみ部である。上面が凹む。81は口縁部が水平に伸びた後、急に立ち上がる。口縁端部は面を持つ。円形のつまみが付く。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面にリング状の煤が付着する。中期。79は生駒西麓産、他は非河内産。

82は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。II様式。生駒西麓産。

大溝2（第20図83~87）

壺・細頸壺・甕・鉢の器種がある。

83~85は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。内外面はヘラミガキ調整やナデ調整するものが多い。II様式。84は生駒西麓産、他は非河内産。

86は細頸壺である。口頭部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

87は甕である。口縁部が強く外反し、口縁端部がやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。中期。生駒西麓産。

88は鉢である。体部は内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部と体部に柳描簾状文を施す。文様帶間は研磨する。体部外面はヘラミガキ調整する。内面は上半をヘラミガキ調整、下半をハケメ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

溝3（第20図89・90）

鉢と甕がある。

89は鉢である。体部の張りが少なく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

90は甕である。体部の張りが少なく、口縁部が短く外反する。口縁端部はやや面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。II様式。生駒西麓産。

溝6（第20図91）

91は甕である。体部の張りが大きく、口縁端部を下方へ拡張する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。III~IV様式。生駒西麓産。

溝B（第20図92~94）

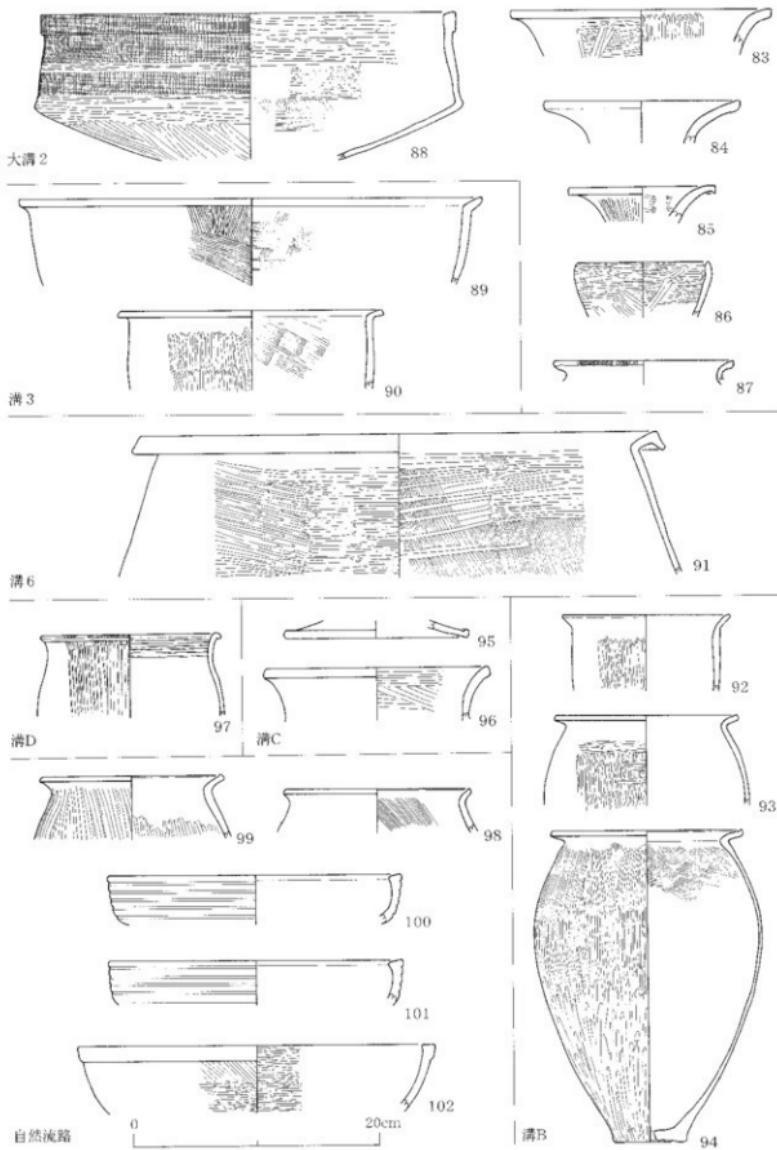
92~94は甕である。92は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。93は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。94は平底の底部である。体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。体部外面は上半をハケメ調整、下半をヘラミガキ調整する。内面は上半をハケメ調整、下半をナデ調整する。底部に小円孔を穿つ。92はII様式、他はIII~IV様式。生駒西麓産。

溝C（第20図95・96）

甕蓋と壺がある。

95は甕蓋である。体部の立ち上がりはゆるく、口縁端部はやや丸く終わる。調整法は不明。中期。生駒西麓産。

96は壺である。口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁部内面はハケメ調整する。



第20図 大溝 2、溝 3・6・B・C・D、自然流路出土土器実測図

II様式。非河内産。

溝D（第20図97）

97は甕である。体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は外側へ巻き込み、丸く終わる。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。II様式。非河内産。

自然流（第20図98～102）

甕と高坏がある。

98・99は甕である。体部の張りが大きく、口縁端部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。98は体部外面をナデ調整、内面をハケメ調整する。99は体部外面をハケメ調整、内面をヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

100～102は高坏である。口縁部が内湾気味に立ち上がる。100・101は口縁端部が面を持ち、外面に凹線文を施す。内面はナデ調整する。102は口縁端部が段を持つ。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。III～IV様式。102は生駒西麓産、他は非河内産。

落ち込み（第21図103～141）

壺・高坏・壺蓋・捷蓋・鉢・甕の器種がある。

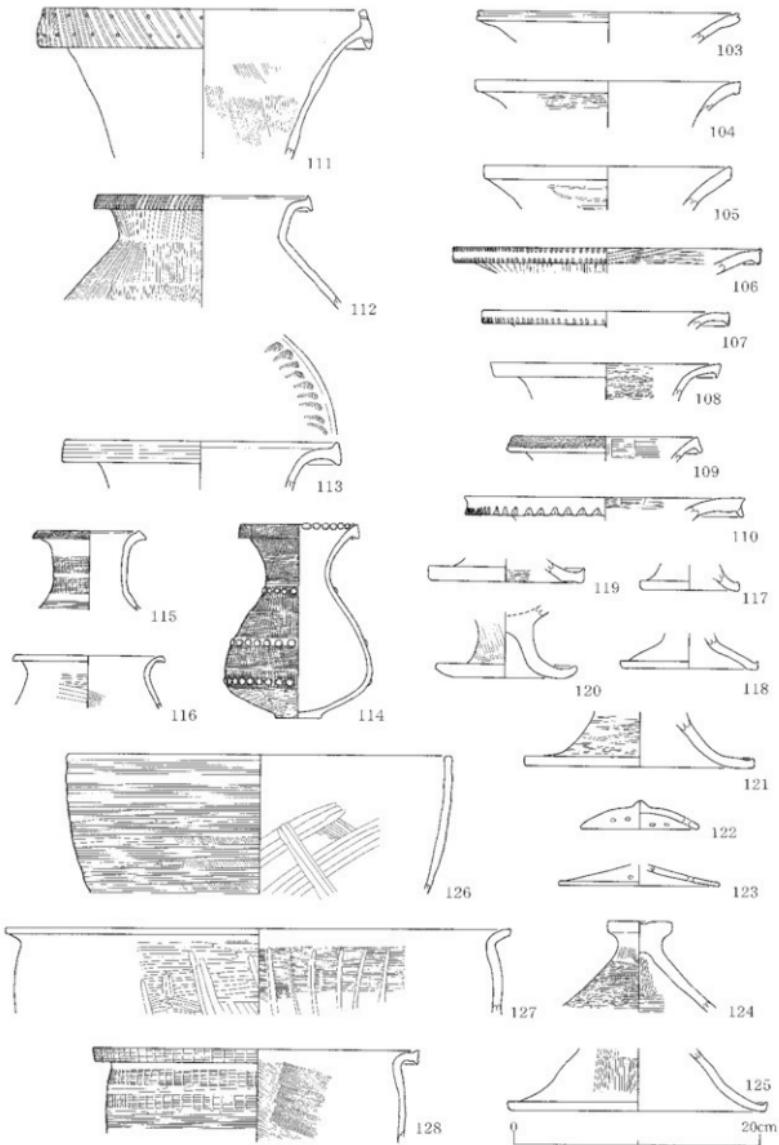
103～116は壺である。103は口縁部が大きく外方に伸びる。口縁端部は面を持つ。口縁端部に1条のヘラジ沈線文を施す。104・105は口縁部が大きく外反し、口縁端部がやや面を持つ。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。106・107・112・113は口縁部が大きく外反し、口縁端部を上方に摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に刻み目、櫛描文様、凹線文などを施す。106は口縁部内面に縦方向の櫛描直線文、113は扇形文を施す。108～110・114・115は口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部に刻み目や櫛描文様を施すものが多い。114は小形でほぼ完形の資料である。底部は平底を呈する。体部の張りは下位にあり、口頸部が大きく外反する。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施した後、3帯の円形浮文を廻らす。口縁部内面にも1帯の円形浮文を施す。文様帶間は研磨する。体部外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。111は口頸部が大きく外方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部に原体数2本の櫛描直線文を縦方向に施した後、2列の円形刺突文を施す。口頸部外面はナデ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。116は口頸部が短く、口縁端部を下方へ拡張する。無文の壺である。内外面はハケメ調整する。103はI様式、104・105はII様式。他はIII～IV様式。104・107・112・113は非河内産、他は生駒西麓産。

117～121は高坏の脚部である。120は他の器種の可能性もある。117～119は裾部がゆるく立ち上がり、裾端部が面を持つ。120は柱状部が短く、裾端部が丸く終わる。III～IV様式。119は非河内産、他は牛駒西麓産。

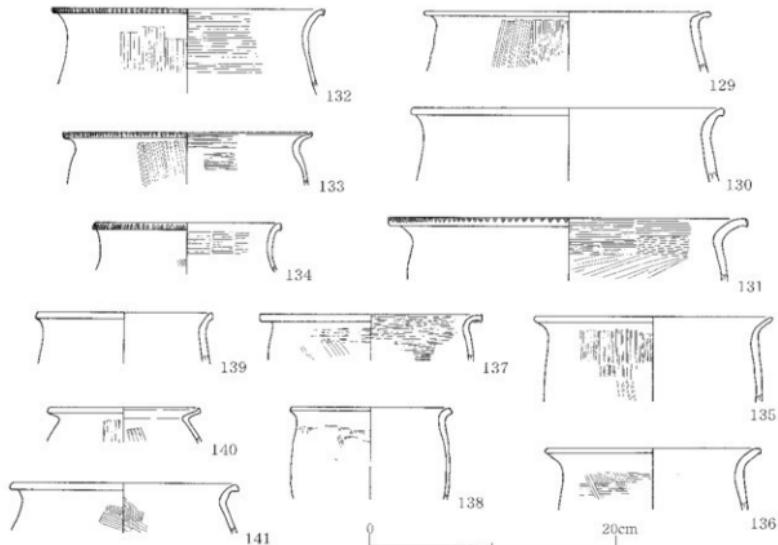
122・123は壺蓋である。122は体部が内湾気味に立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。乳状のつまみが付く。2ヶ1対の小円孔を穿つ。内面はナデ調整する。123は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。調整法は不明。2ヶ1対の小円孔を穿つ。122は中期、123はIII～IV様式。生駒西麓産。

124・125は捷蓋である。124はつまみ部である。円形を呈する。内外面はハケメ調整の後ヘラミガキ調整する。125は裾部の立ち上がりが急である。口縁端部は面を持つ。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。中期。生駒西麓産。

126～128は鉢である。126は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。所謂、直口の鉢である。体部に櫛描直線文を施す。文様帶間は研磨する。体部外面はハケメ調整、内面はハケ



第21図 落ち込み出土土器尖測図



第22図 落ち込み出上上器実測図

メの後ハラミガキ調整する。127は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。体部内外面はハケメの後ハラミガキ調整する。128は体部がやや内湾気味に立ち上がり、口縁部が下方へ折れ曲がる。口縁端部と体部に柳描葉状文を施す。文様格間は研磨する。内面はハケメ調整する。128はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。生駒西施産。

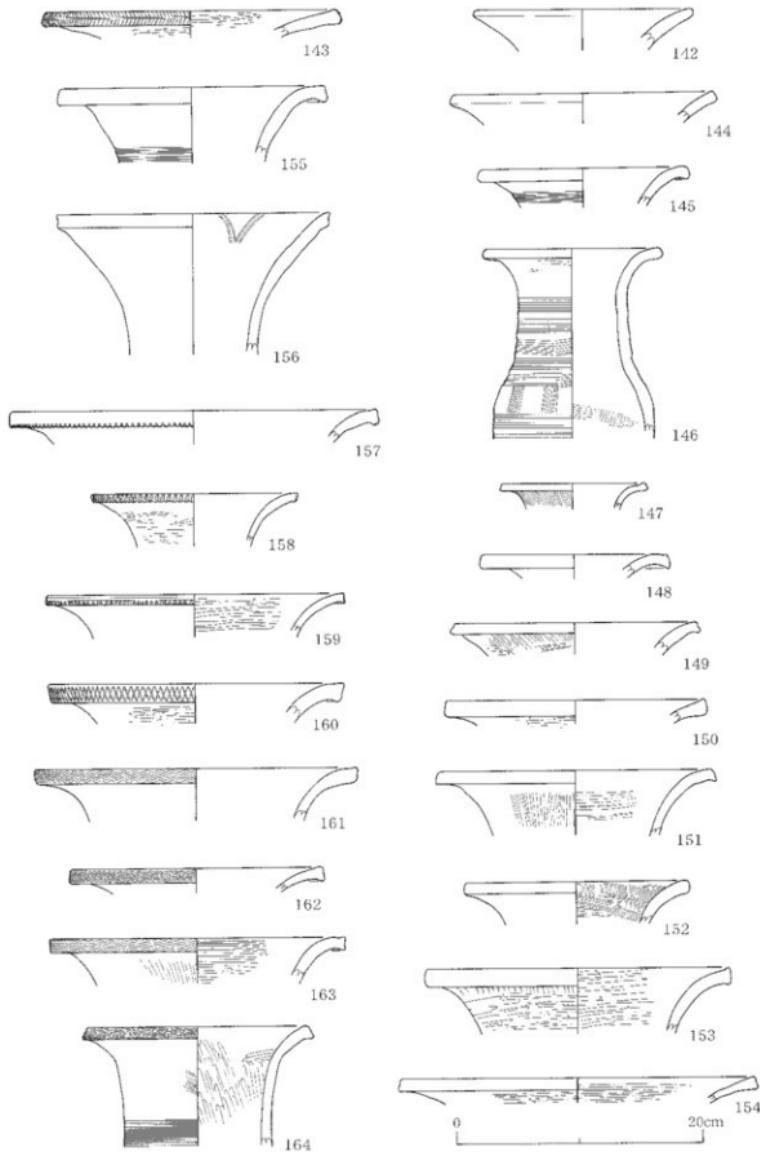
129～141は甕である。129・130・135～139は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものとや面を持つものがある。131～134は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。140は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方へ摘み上げ気味に拡張する。体部内外面はハケメ調整する。141は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。体部内外面はハケメの後ナデ調整する。140・141はⅢ～Ⅳ様式、他はⅡ様式。131～134・140は非河内産、他は生駒西施産。

遺物包含層出土十七器

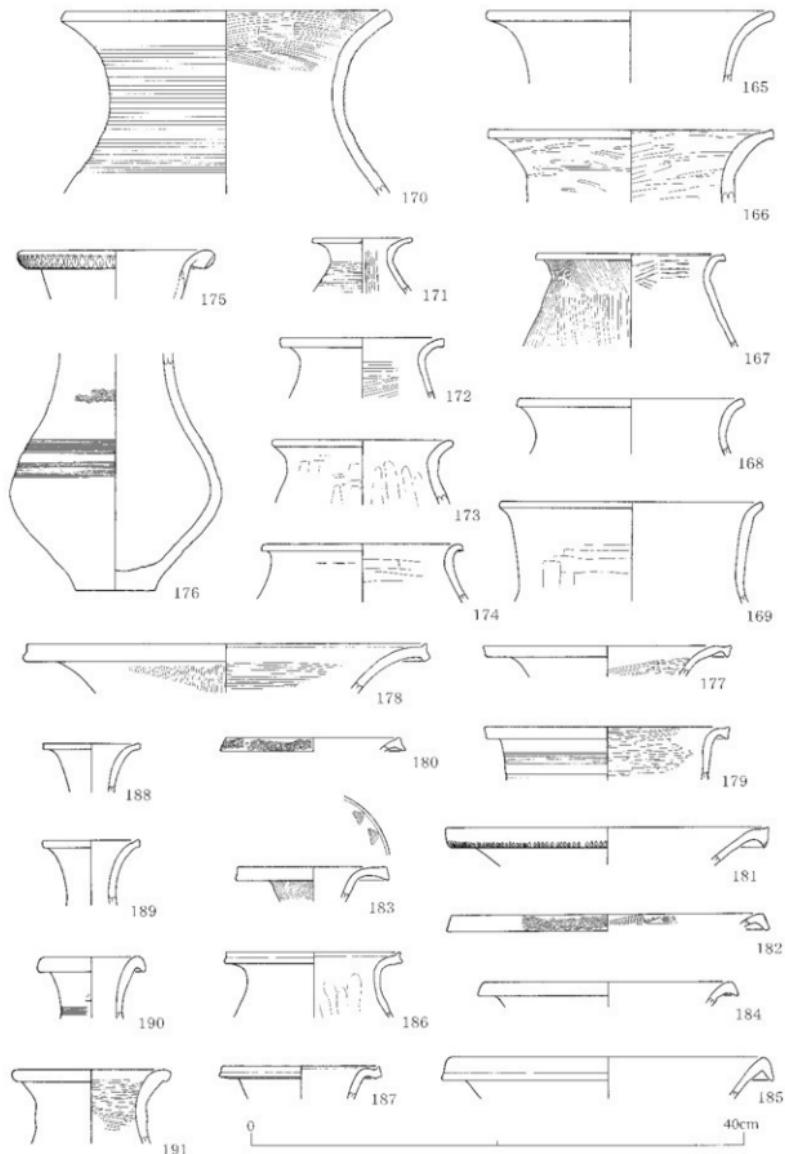
第13層（第23～33図142～383）

壺・無頸壺・細頸壺・水差形土器・甕蓋・脚部・鉢・高杯・壺蓋・甕がある。

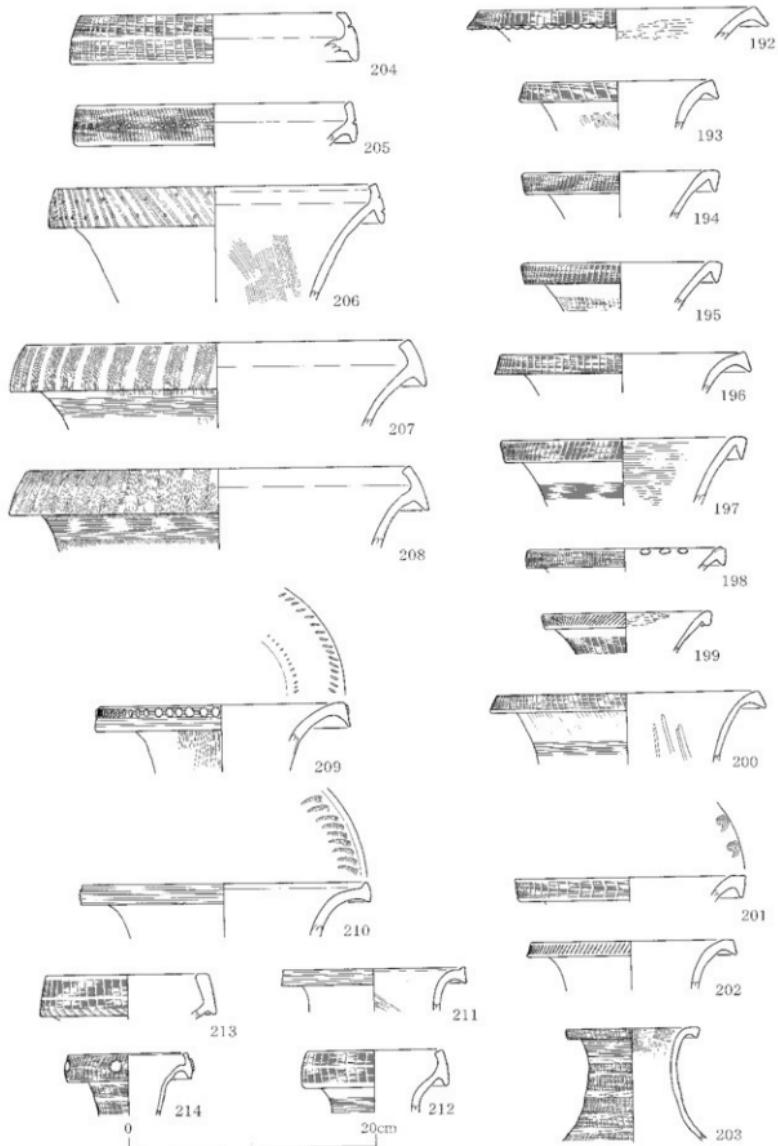
142～214は甕である。142・143は口縁部が大きく外方に伸びる。口縁端部は丸く終わる。143は口縁端部にヘラ描綾杉文を施す。144～164・188・189は口頸部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わるものとや面を持つものがある。口縁端部は有文と無文のものがある。有文のものは刻み目、ヘラ描格子、柳描波状文を施す。口頸部には柳描直線文が多い。156は口縁部内面に縱方向の柳描直線文を施す。188・189は小形の甕である。165～174は頸部が短く、口縁部が強く外反する。口縁



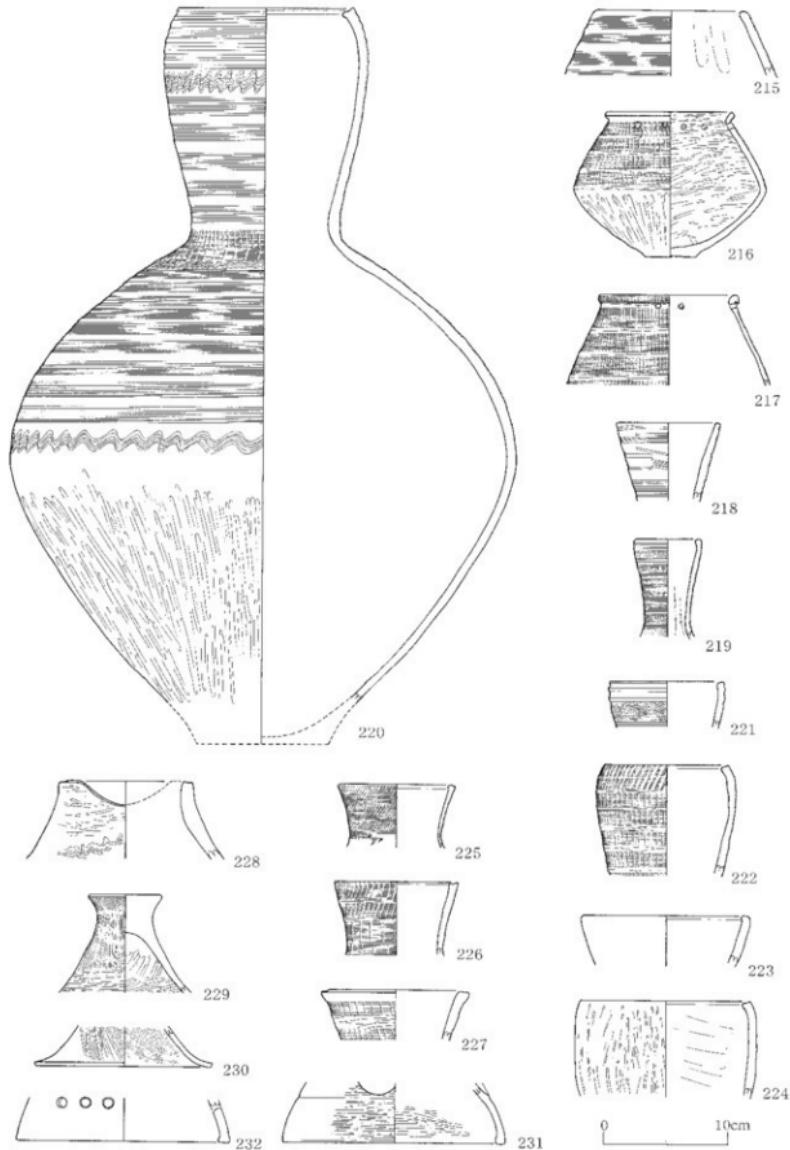
第23図 第13層出土土器実測図



第24図 第13層出土土器実測図



第25図 第13層出土土器実測図



第26図 第13層出土土器実測図

端部は丸く終わるものとやや面を持つものがある。無文のものが多いが、170・171は頭部から体部に櫛描直線文を施す。175は口縁部が外上方に伸び、口縁端部が外側へ大きく肥厚する。口縁端部に刻み目を施す。176は体部である。底部は平底を呈する。体部は中位でやや張る。頭部から体部に櫛描波状文と直線文を施す。外面の調整法は不明、内面はナデ調整する。177・179～185・190・191は口縁部が外上方に伸び、口縁端部を下方へやや拡張する。口縁端部は有文と無文がある。有文のものは刻み目や櫛描波状文を施す。179・190は頭部に櫛描直線文、183は口縁部内面に扇形文を施す。190・191は小形の壺である。178・186・187は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。無文である。192～203は口頭部が大きく外上方に伸び、口縁端部を下方へ拡張する。口縁端部と口頭部に櫛描文様を施す。簾状文が多い。198は口縁部内面に円形浮文、201は変形の扇形文を施す。204～208・212～214は口頭部が大きく外上方に伸び、口縁端部を上下に大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部と頭部に櫛描文様を施す。簾状文が多い。205は口縁端部に円形刺突文、214は円形浮文を加える。209は口縁部が大きく外反する。口縁端部は下方へ大きく拡張する。幅広の面を持つ。口縁端部は凹線文の上に円形浮文を貼り付ける。口縁部内面に2帯の櫛描列点文を施す。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。210・211は口縁端部を上方へ摘み上げ気味に拡張する。口縁端部に凹線文を施す。210は口縁部内面にも櫛描扇形文を施す。142・143はI様式、144～176はII様式、他はIII～IV様式。146・152・153・163・172・178・181・183・209・210は非河内産、他は生駒西麓産。

215～217は無頸壺である。215は体部が内傾する。口縁端部は丸く終わる。体部外面に櫛描直線文を施す。体部内外面はナデ調整する。216は底部が平底である。体部は中位で張り、算盤球形を呈する。口縁部が強く外反し、口縁端部が面を持つ。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。体部外面に4帯の櫛描廉状文を施す。文様帶間は研磨する。体部内外面はヘラミガキ調整する。217は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁部直下に2ヶ1対の小円孔を穿つ。口縁端部と体部に櫛描簾状文を施す。文様帶間は研磨する。体部内面はナデ調整する。215はII様式、他はIII～IV様式。215は非河内産、他は生駒西麓産。

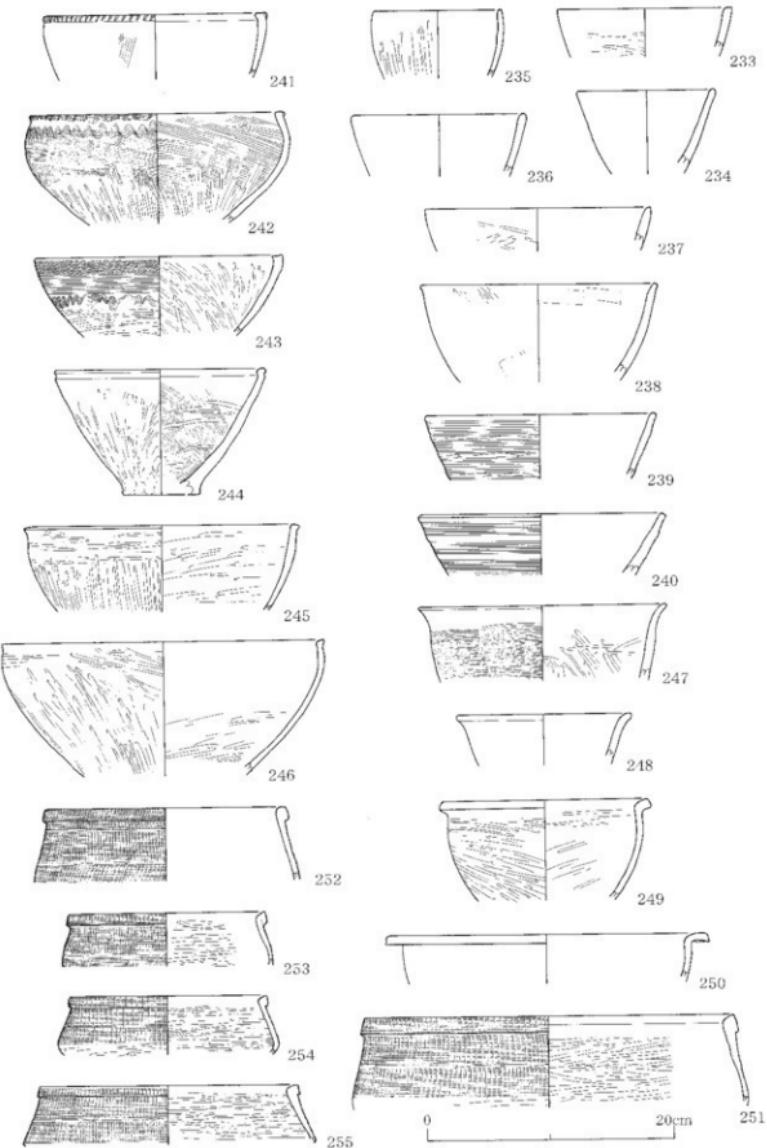
218～224は細頸壺である。218は口頭部が外上方に伸び、口縁端部が丸く終わる。外面に櫛描直線文を施す。内面はナデ調整する。219～220は口頭部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わるものと面を持つものがある。219～222は外面に櫛描文様や凹線文を施す。220は底部を欠損するがほぼ形状が残る。体部はやや縱長の球形を呈する。外面に凹線文と櫛描波状文・直線文・簾状文を施す。体部外面の下半はヘラケズリの後ヘラミガキ調整する。223・224は無文の細頸壺である。218はII様式、他はIII～IV様式。221・223は非河内産、他は生駒西麓産。

225～228は水差形土器である。225～227は口頭部が外上方に伸び、口縁端部が面を持つ。体部外面に櫛描文様を施す。228は口頭部が短く内傾する。口縁端部は面を持ち、半円形の切込みを入れる。外面に櫛描波状文を施す。III～IV様式。228は非河内産、他は生駒西麓産。

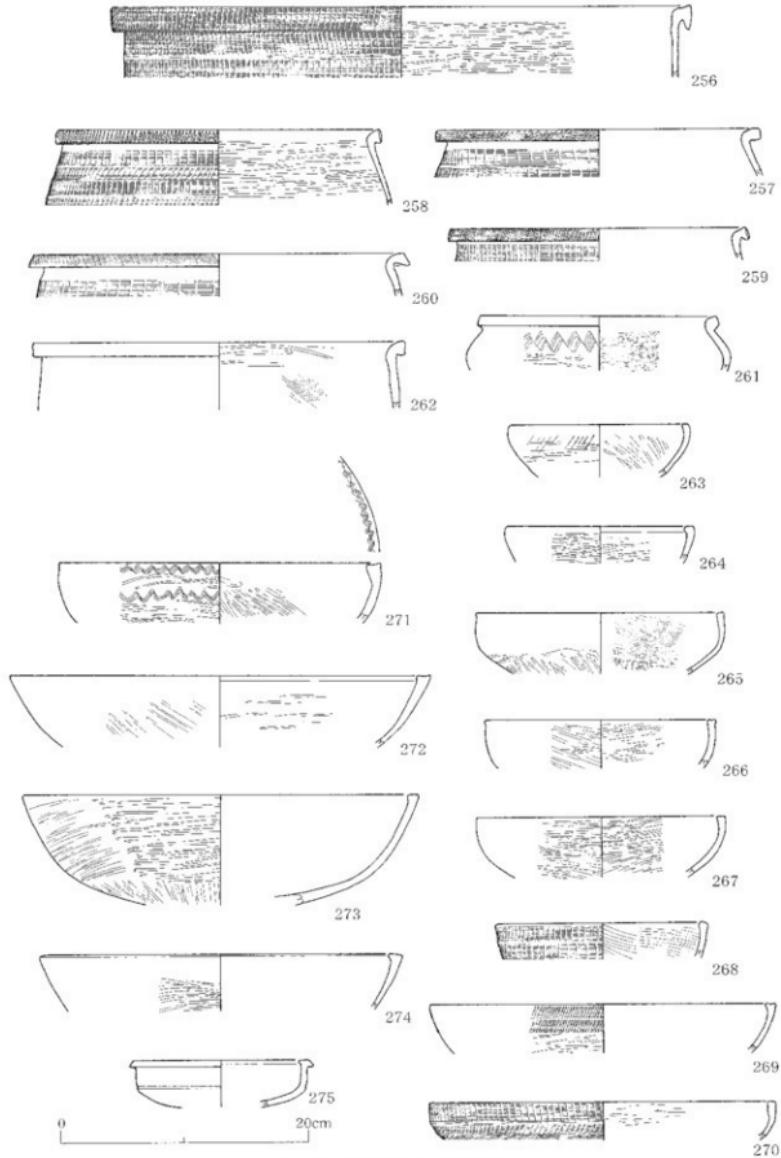
229・230は蓋蓋である。229はつまみ部である。円形を呈する。外面はハケメの後ヘラミガキ調整、内面はヘラミガキ調整する。230は体部がやや急に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。体部内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。

231・232は台付無頸壺か台付鉢の可能性が高い脚部である。裾部は内湾気味に立ち上がる。裾端部が面を持つ。231は大きな円孔を穿つ。内外面はヘラミガキ調整する。232は小円孔を穿つ。内外面はナデ調整する。III～IV様式。231は生駒西麓産、232は非河内産。

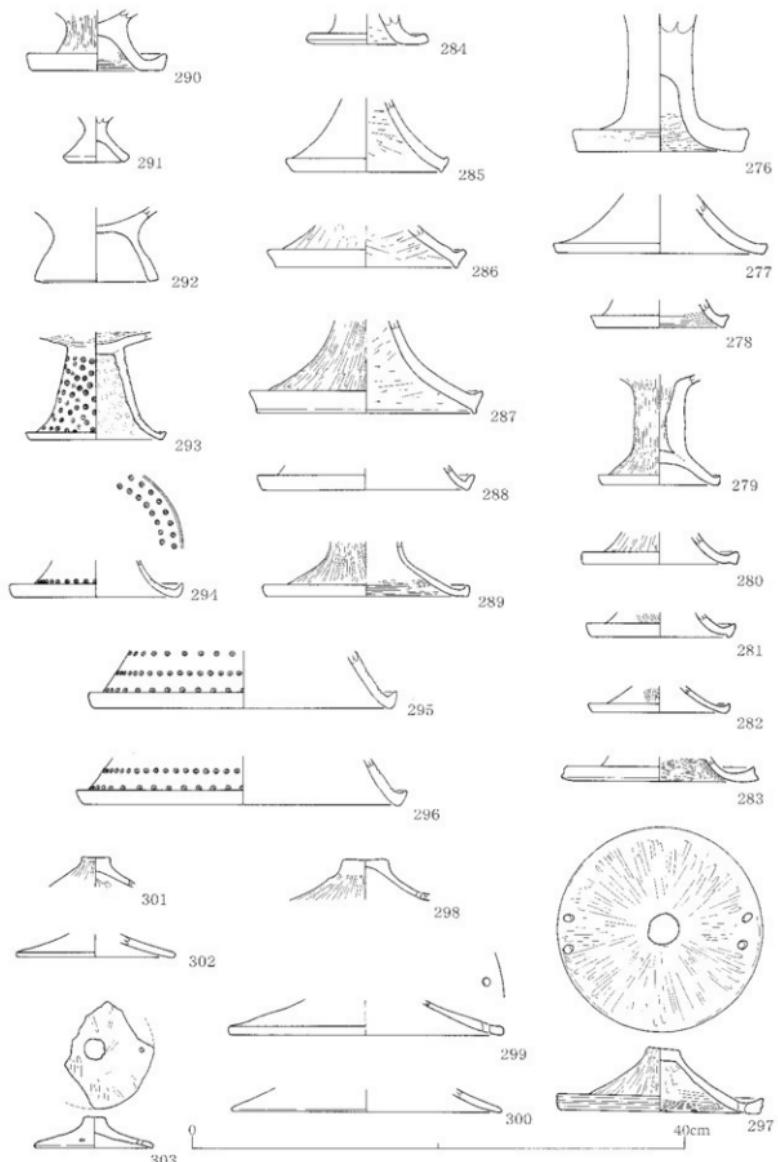
233～262は鉢である。233～240は体部が外上方に伸びるものとやや内湾するものがある。口縁端部は丸く終わるものが多い。所謂、直口の鉢である。239・240は体部に櫛描直線文を施す。他は無



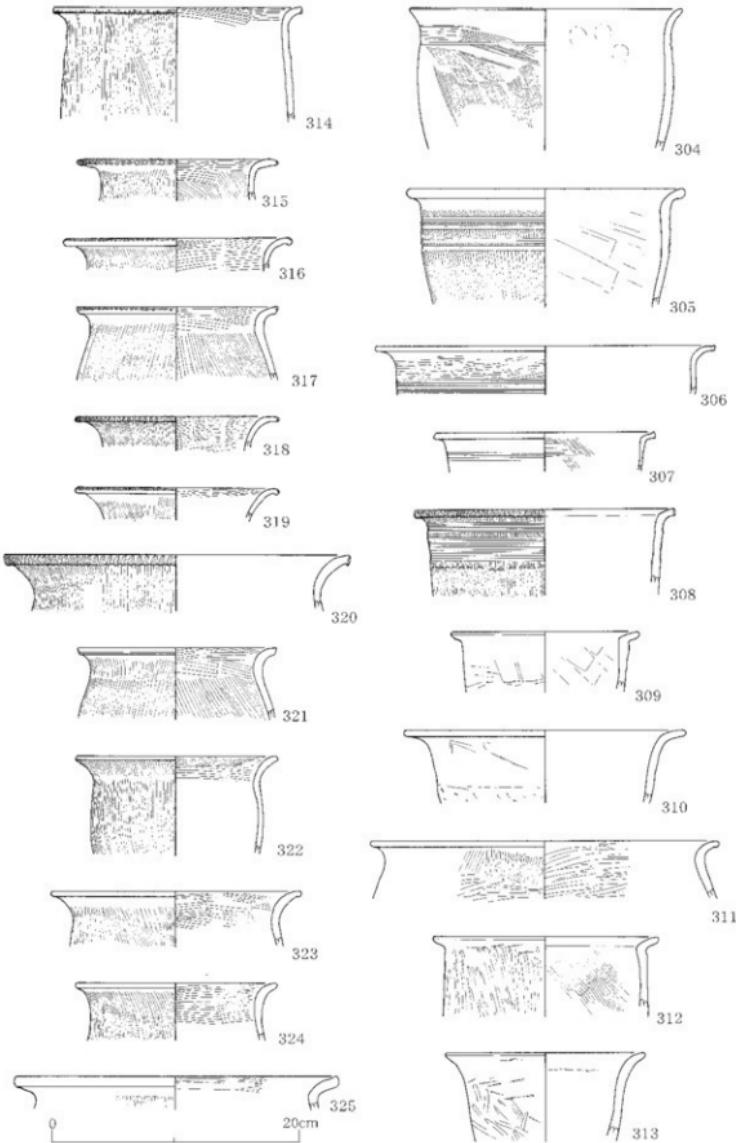
第27図 第13層出土土器実測図



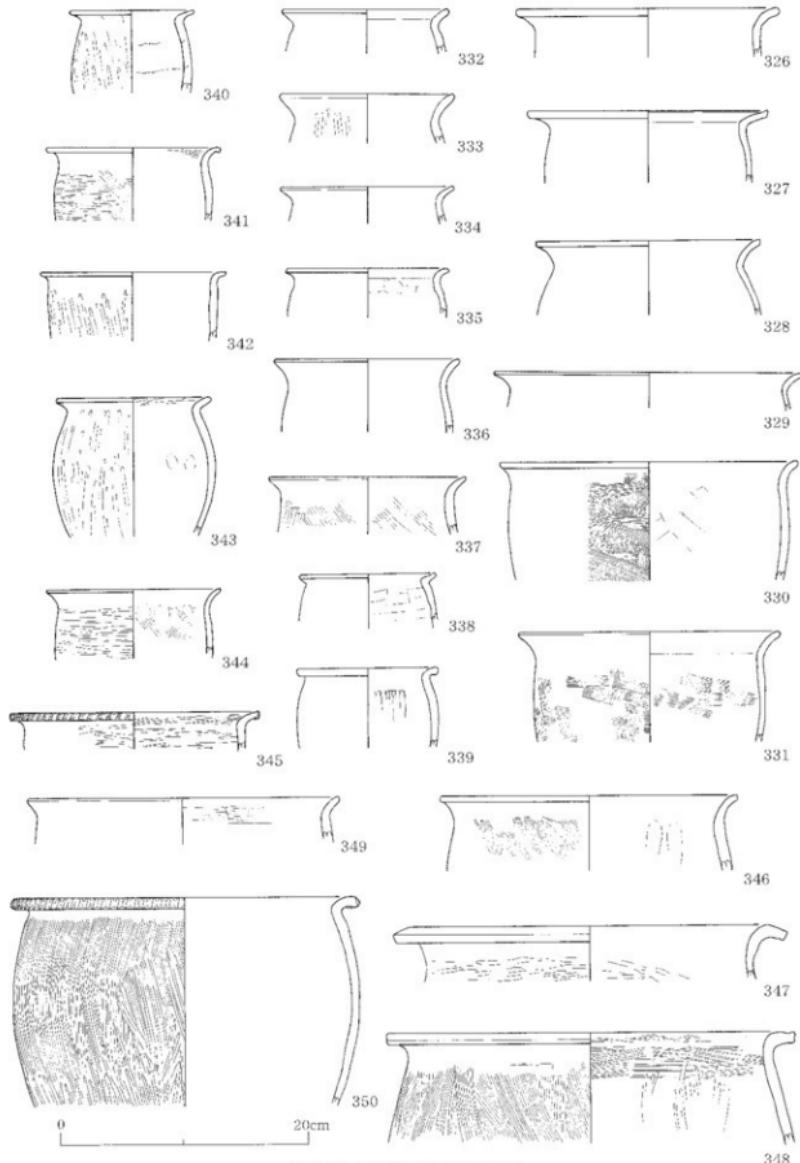
第28図 第13層出土土器実測図



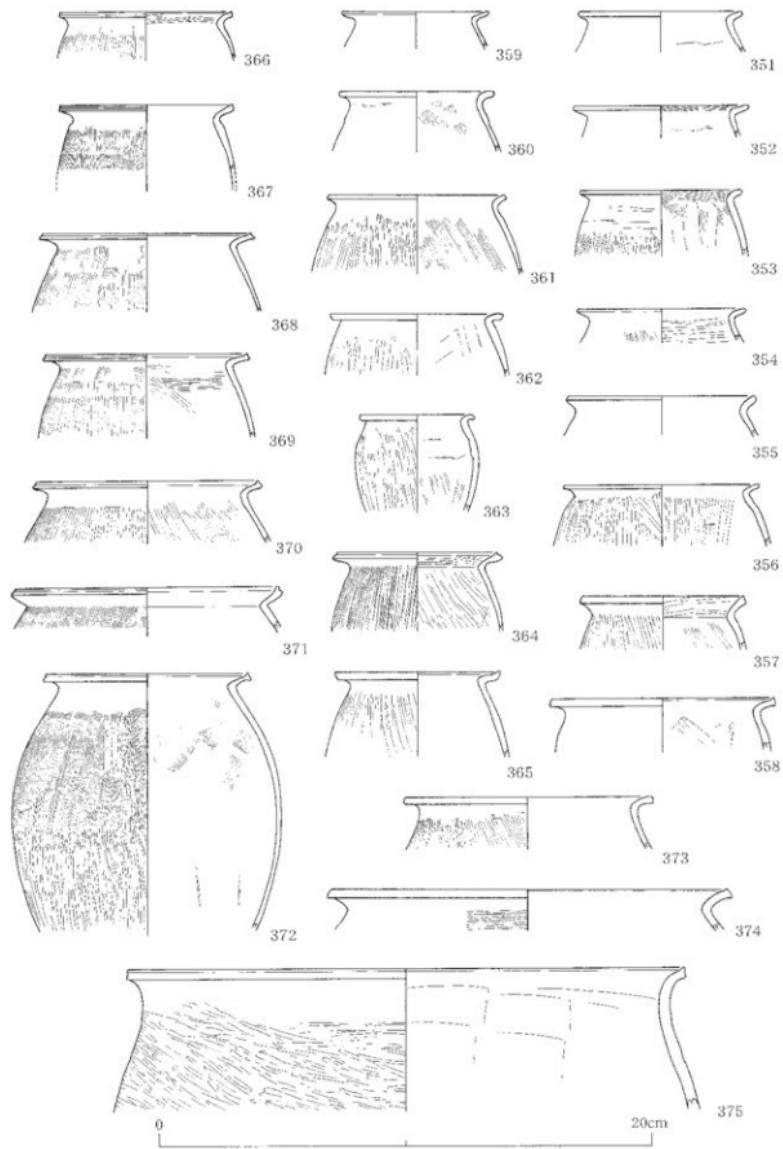
第29図 第13層出土土器実測図



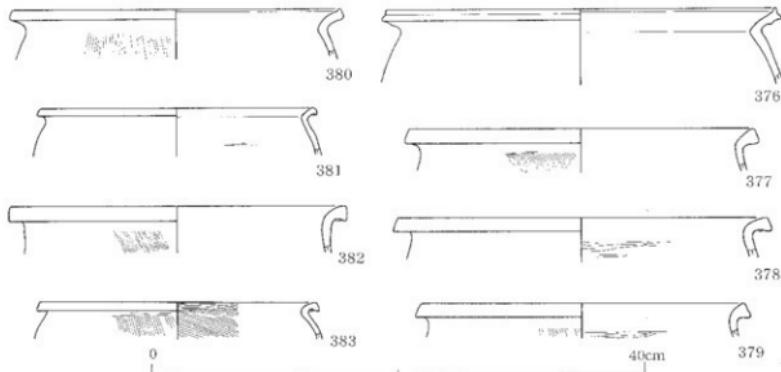
第30圖 第13層出土上上器實測圖



第31図 第13層出土土器実測図



第32図 第13層出土上器実測図



第33図 第13層出土土器実測図

文である。241～246は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。所謂、直口の鉢である。241は口縁端部に刻み目、242は口縁端部に刻み目と体部に櫛描波状文、243は体部に波状文と直線文、244は体部に凹線文を施す。245・246は無文である。247・248は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。249・250は体部の張りがやや大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。251～255は体部が内傾する。口縁端部は段を持つ。口縁端部と体部に櫛描箇状文を施す。ヘラミガキ調整が多い。256～262は体部が内傾するか上方へ立ち上がる。口縁部は強く外反する。口縁端部は面を持つ。口縁端部と体部に櫛描箇状文を施すものが多い。262は無文である。233～240・247・248はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。235・242・261は非河内産、他は生駒西麓産。

263～296は高坏である。263・264は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が丸く終わる。浅い楕状を呈する。265～274は体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。浅い楕状を呈する。268～271は口縁端部と体部に櫛描文様を施す。他は無文の高坏である。275は口縁端部を内外に拡張する。体部に1条の凹線文を施す。内外面はナデ調整する。276～296は脚部である。284・290～296は他の器種の可能性もある。276は裾部がゆるく立ち上がり、柱状部が中空である。277～283・286～289・293～296は裾端部が面を持つか上方へ拡張するものが多い。284・290～292は柱状部が短い。293～296は外面に竹管文を施す。263・264・276はⅡ様式、他はⅢ～Ⅳ様式。266・267・272・280・285・290・291・292は非河内産、他は生駒西麓産。

297～303は壺蓋である。297は体部がゆるく立ち上がり、口縁端部が面を持つ。つまみ部は円形を呈する。2ヶ1対の小円孔を穿つ。口縁端部に2条の凹線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメ調整する。298・301はつまみ部である。円形を呈する。内外面はヘラミガキ調整する。299・300・302・303は体部がゆるく立ち上がる。口縁端部は丸く終わる。303は円形のつまみ部が残る。Ⅲ～Ⅳ様式。生駒西麓産。

304～383は甕である。304は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。体部に1条のヘラ描沈線文を施す。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。305～308は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。305～307は体部に櫛描直線文を施す。308は口縁端部に刻み目、体部に櫛描直線文と三角形の刺突文を施す。309～313・326～350は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終

わるものと面を持つものがある。345・350は口縁端部に刻み目を施す。314～325は体部の張りが少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。体部外面はハケメ調整、内面はナデ調整かハケメ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。314～320は口縁端部に刻み目を施す。351～363・373・374・380は体部の張りが大きく、口縁部が強く外反する。口縁端部は丸く終わるものと面を持つものがある。364～372・375・376は体部の張りが大きく、口縁部が外折する。口縁端部は上方に摘み上げ気味に拡張する。377～379・381～383は口縁端部を下方へ拡張する。304はI様式、305～350はII様式、他はIII～IV様式。308・314～322・324・333・357・365・376は非河内産、他は生駒西麓産。

第14層（第34図384～393）

壺・壷・高坏の器種がある。

384～391は壺である。384・385・389・390は体部の張りが少なく、口縁部がゆるく外反する。口縁端部は丸く終わる。384・390は体部外面をヘラミガキ調整する。385は体部外面をヘラミガキ調整、内面をナデ調整する。389は外面をハケメ調整する。386・391は体部の張りは少なく、口縁部が大きく外反する。口縁端部は386が丸く終わり、391が面を持つ。体部外面はハケメ調整する。口縁部内面はヨコナデの後、横方向のハケメ調整する。386は口縁端部に刻み目、391は斜格子文を施す。387・388は体部が大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は387が丸く終わり、388が面を持つ。体部外面はナデ調整する。387は口縁部内面をヘラミガキ調整する。387・388はIII～IV様式、他はII様式。387・388は非河内産、他は生駒西麓産。

392は壺である。口頸部が大きく外反し、口縁端部が丸く終わる。内外面はヘラミガキ調整する。II様式。生駒西麓産。

393は高坏である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部が面を持つ。口縁端部に刻み目、体部に櫛描旋状文を施す。文様模様は研磨する。内面はナデ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

第13・14層（第34図394～401）

壺・高坏・壺・脚部・壺蓋の器種がある。

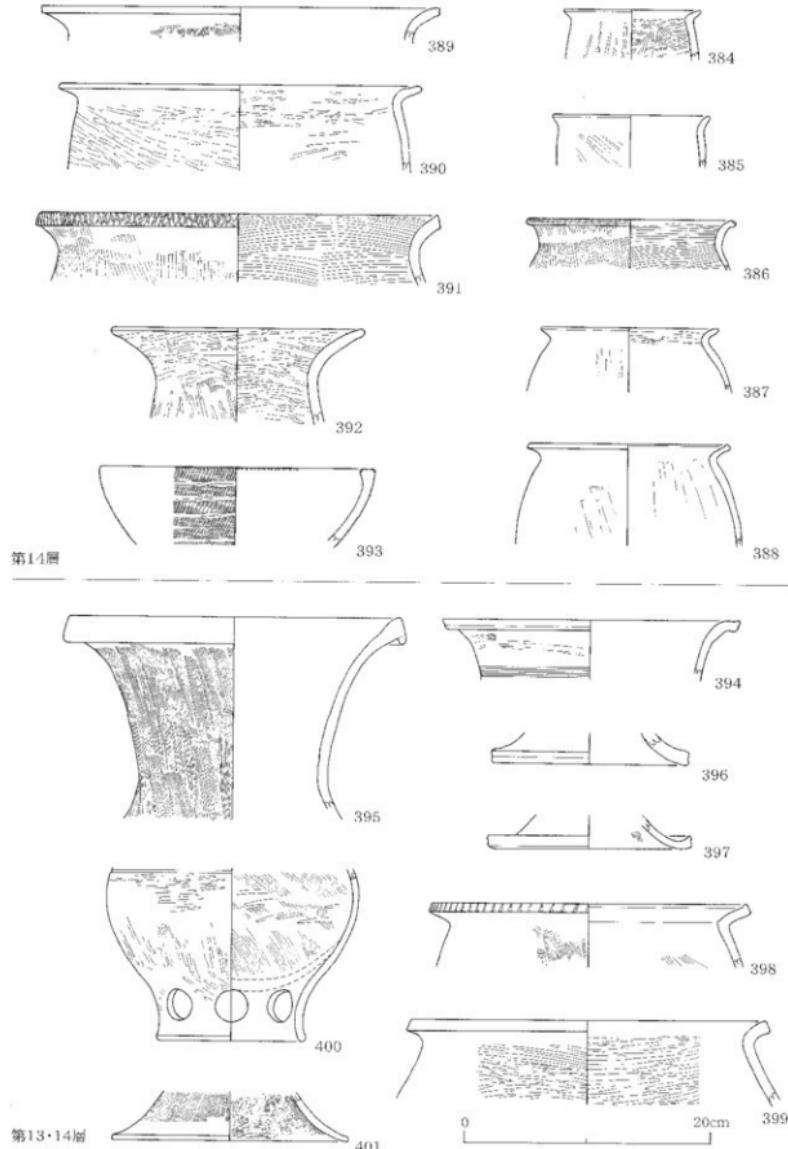
394・395は壺である。394は口縁部が大きく外反する。口縁端部はやや面を持つ。頸部に櫛描直線文を施す。外面はヘラミガキ調整、内面はナデ調整する。395は口頸部が大きく外方に伸びる。口縁端部は下方へ拡張する。無文の壺である。外面はハケメ調整、内面はナデ調整する。394はII様式、395はIII～IV様式。生駒西麓産。

396・397は高坏である。裾部がゆるく立ち上がり、裾端部が面を持つ。内外面はナデ調整する。III～IV様式。396は非河内産、397は生駒西麓産。

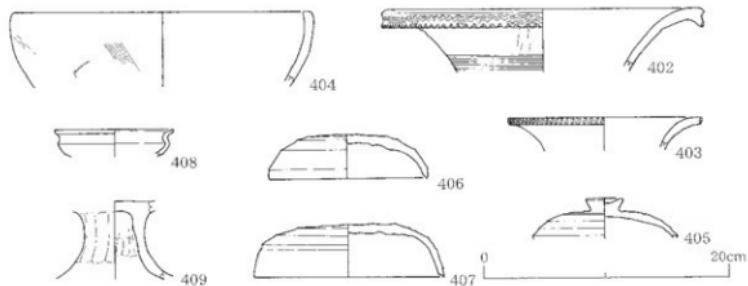
398・399は壺である。体部は大きく張り、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。398は口縁端部に刻み目を施す。体部外面はハケメ調整、内面はハケメの後ナデ調整する。399は体部外面をヘラミガキ調整する。III～IV様式。398は非河内産、399は生駒西麓産。

400は台付無頸壺か台付鉢の可能性が高い脚部である。脚部は上方に伸び、裾端部が丸く終わる。体部に1条の凹線文が残る。脚部に大きな円孔を穿つ。外面はヘラミガキ調整、内面はハケメの後ヘラミガキ調整する。III～IV様式。生駒西麓産。

401は壺蓋である。体部の立ち上がりがやや急であり、口縁端部は丸く終わる。内外面はハケメ調整する。中期。生駒西麓産。



第34図 第13・14層出土器実測図



第35図 第9層出土土器実測図

2) 古墳時代以降の土器

古墳～奈良時代の土器がある。

第9層（第35図402～409）

弥生土器・須恵器・土師器がある。

402～404は弥生土器である。混入品である。壺と鉢がある。402・403は壺である。口縁部が大きく外反し、口縁端部が面を持つ。402は口縁端部に刻み目と櫛描波状文、頭部に直線文を施す。403は口縁端部に刻み日を施す。404は鉢である。体部が内湾気味に立ち上がり、口縁端部がやや面を持つ。所謂、直口の鉢である。外面はハケメの後ナデ調整、内面はナデ調整する。402はⅢ～Ⅳ様式、403・404はⅡ様式。生駒西麓産。

403～408は須恵器である。蓋壺と椀がある。405～407は蓋壺である。405は円形のつまみが付く。406は口縁端部が丸く終わる。407は口縁端部がやや面を持つ。408は椀である。体部がやや扁球形であり、口縁部が強く外反する。口縁端部は面を持つ。405～407は古墳時代、408は奈良時代。

409は土師器である。高壺の柱状部である。柱状部は短い。面取りをしており、12面である。奈良時代。

2. 木製品（第36・37図410～424）

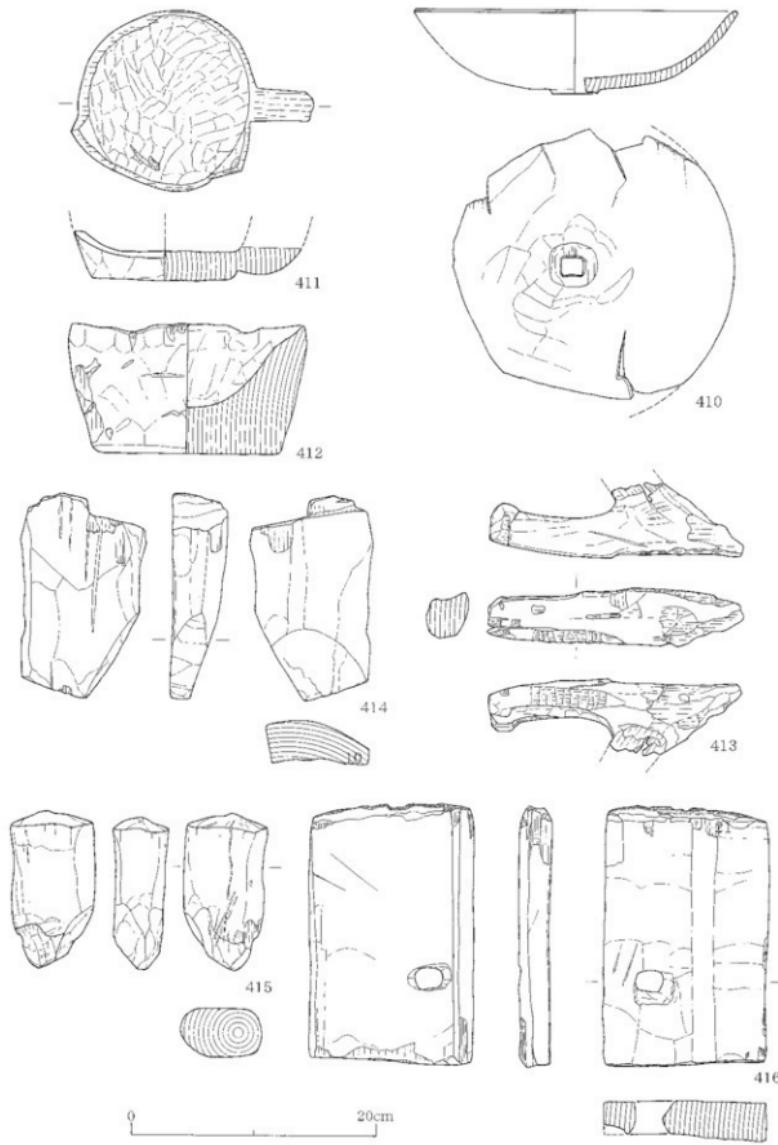
弥生時代の木製品が構造と遺物包含層より出土した。文中に針葉樹と広葉樹を記すが、専門家による樹種同定ではなく、筆者の肉眼観察によるものである。横断面の弧は木取りを表す。

410は高壺である。浅い皿状を呈する壺部である。体部は内湾気味に立ち上がり、口縁部が丸く終わる。中央部の外面に隆起帯を削り出し、方形の孔を穿つ。組合せ式の高壺である。作りは丁寧である。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

411は握手付容器である。体部上半を欠損する。円形を呈する平底の底部より、体部がやや外方に伸びる。体部の1ヶ所に握手が付くが形状は不明である。作りは丁寧であるが底部内面には削り痕が残る。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。大土坑より出土。

412は小型口である。約半分を欠損する。底部は厚い平底であり、円形を呈する。体部はやや外方に伸びる。作りはやや荒い。縦木取りである。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

413は手斧の柄である。全面的な焼けと乾燥による変形がある。逆L字形を呈する。台部は半裁し平坦面を作る。台部先端は瘤上の隆起帯を施す。握り部は欠損のため不明である。芯持材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。



第36図 木製品実測図



第37図 木製品実測図

414は先尖棒である。棒材を半裁し、木口の一端を杭状に尖らせる。先端部には削り痕が明瞭に残る。芯持材を使用する。材は針葉樹と考えられる。溝2より出土。

415は先尖棒である。棒材の木口の一端を杭状に尖らせる。先端部には削り痕が明瞭に残る。芯持材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

416は有孔板である。長方形を呈する板の側縁近くに孔を1孔穿つ。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

417は有頭板である。長方形を呈する板の側縁に抉りを入れる。全面に焼けた痕跡が残る。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

418~420・423は板である。長方形を呈する。420と423は焼けた痕跡が残る。柾目材を使用する。材は418が広葉樹、他が針葉樹と考えられる。418は落ち込み、他は大溝1より出土。

421・422は角材である。421は横断面形が台形、422は長方形を呈する。柾目材を使用する。材は針葉樹と考えられる。421はより大溝1、422は遺物包含層より出土。

424は抉り入り板である。長方形を呈する板の木口に抉りを入れる。他の木口は平行に終わる。柾目材を使用する。材は広葉樹と考えられる。遺物包含層より出土。

3. 石器（第38・39図425~459）

弥生時代の遺構や遺物包含層より出土した。磨製石器、自然石を利用した石器、打製石器がある。

1) 磨製石器

柱状片刃石斧、扁平片刃石斧、局部磨製石斧、石劍、石庖丁がある。

425~428は柱状片刃石斧である。長方形を呈し、先端部に刃を施す。425・426は紐掛の抉りを入れる。遺物包含層より出土。

429は扁平片刃石斧である。刃部を欠損する。頭部は平坦である。作りは丁寧である。遺物包含層より出土。

430は局部磨製石斧である。幅広の打製石槍より転用したと考えられる。頭部は石槍の基部を利用している。部分的な研磨を加えて刃部などを整える。扁平片刃石斧として利用したと考えられる。大土坑より出土。

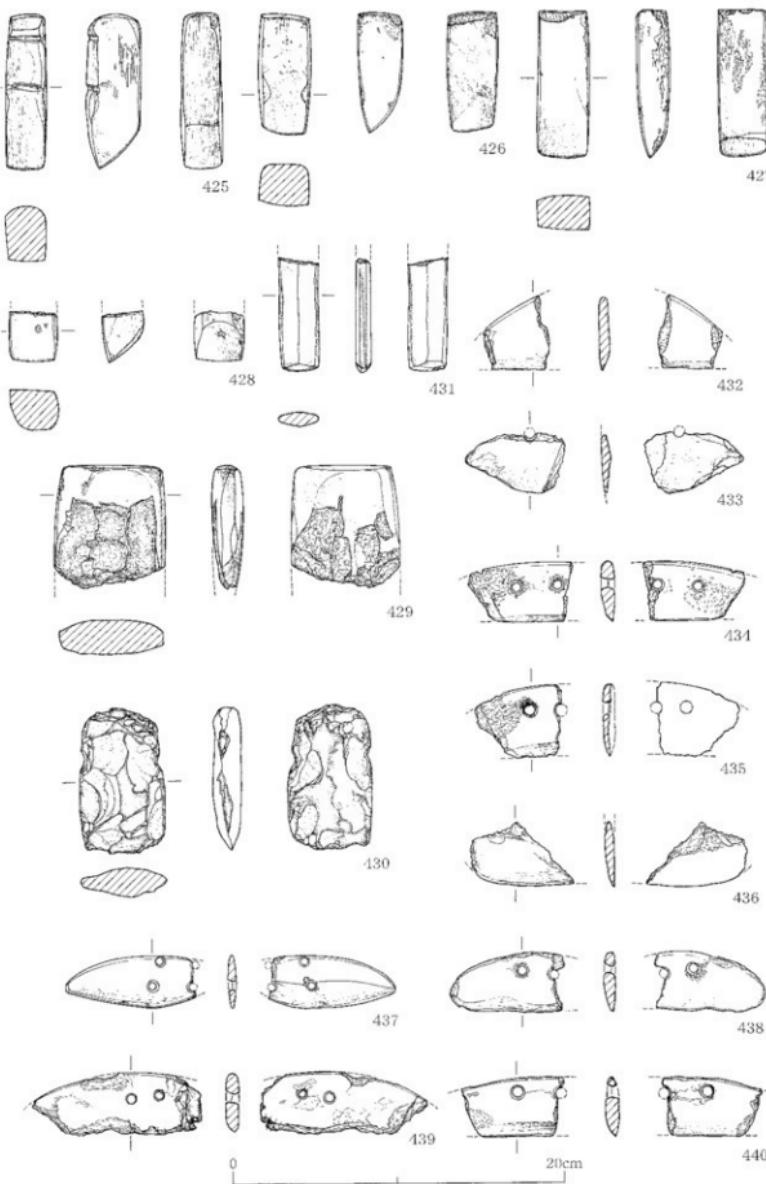
431は石劍である。先端部を欠損する。基部は平坦である。身の両面中央に稜を施す。横断面形が菱形を呈する。大土坑より出土。

432~444は石庖丁である。背は半月形で反対側に刃を施す。刃部は直線的な片刃で終わるものが多いが436・437・444は外溝する。437は使用による変形と考えられる。また、背の近くに2孔の紐穴を穿つ。本来の位置より移動して、追加された穴もある。また、製作時の敲打痕を残すものもある。444は大型石庖丁である。439は溝2、444は大土坑、他は遺物包含層より出土。

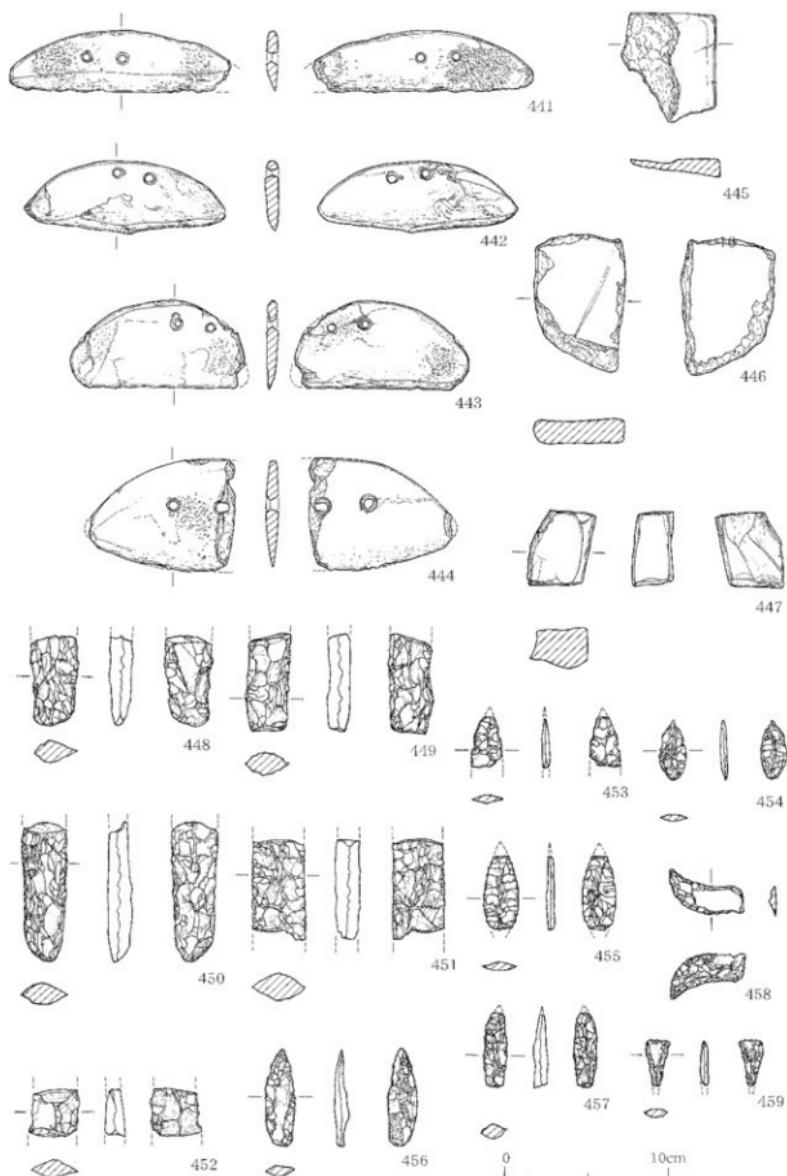
2) 自然石を利用した石器

砥石がある。

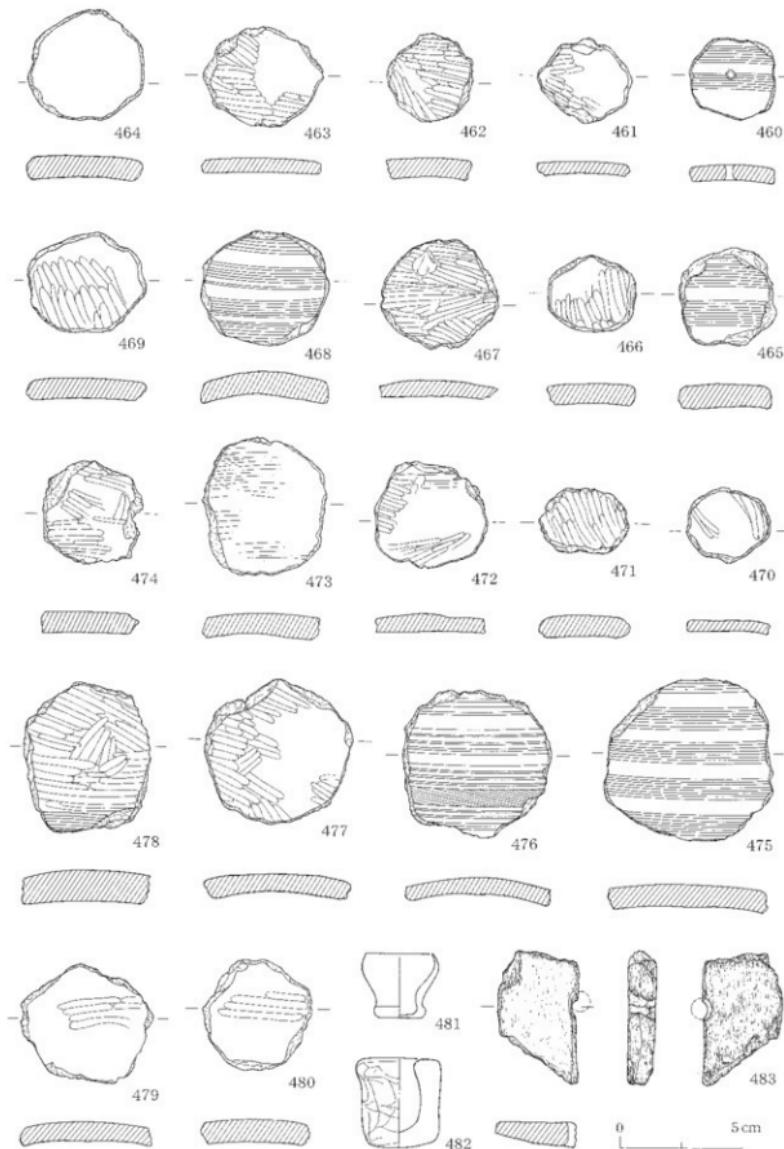
445~447は砥石である。扁平な板状を呈する自然石を利用して作られており、形態に企画性はない。使用による擦り減りが認められる。446は大土坑、他は遺物包含層より出土。



第38図 石器実測図



第39図 石器実測図



第40図 七製品・骨製品尖測図

3) 打製石器

石槍、石鎌、石小刀、石錐がある。

448～452は石槍である。近年、研究が進み石剣として扱われているものもあるが、石槍として記す。全形を知る資料はない。448～450は基部、451・452は身中央部である。原石面を残すものもある。押圧剥離で整えており、作りは丁寧である。遺物包含層より出土。

453～457は石鎌である。柳葉形であり、細部を押圧剥離で整える。454はやや全長が短い。454は大溝2、他は遺物包含層より出土。

458は石小刀である。J字形を呈する。一面に剖面を残しており、細部調整はやや荒い。遺物包含層より出土。

459は石錐である。先端部は欠損する。基部の一面に剖面を残しており、細部調整はやや荒い。土坑10より出土。

4. 土製品（第40図460～482）

弥生時代の遺構や遺物包含層より出土した。紡錘車、円板状土製品、ミニチュア土器がある。

460は紡錘車である。土器の体部を転用する。円周部を丸く打ち欠き、一部研磨する。中央部に小円孔を穿つ。遺物包含層より出土。

461～480は円板状土製品である。土器の体部を転用する。円周部を丸く打ち欠いて整える。一部はさらに研磨を加える。未掲載の資料も多量にある。

481・482はミニチュア土器である。器種は直口の鉢と考えられる。481は作りがやや丁寧である。器壁も薄い。482は作りが粗雑であり、器壁も厚い。遺物包含層より出土。

5. 骨製品（第40図483）

483は骨製品である。破片であり、全形は不明である。板状に骨を削り、円孔を穿つ。弥生時代の遺物包含層より出土。

IV. 動物遺体

第3表 出土動物遺体一覧表

資料番号	地区	部位・遺構	時期	種名	出土部位		詳 細	加工痕等	計測値
					左右	部位名			
20	12	13層	弥生時代中期	イノシシ	不明	上M1	破片		
23	6	13-14層相当	弥生時代中期	イノシシ	左	下顎骨	M1~下顎枝の一部まで遺存、M3は未崩出、2才程度		
17	11	13層	弥生時代中期	シカ	角片		約2.5cm遺存	加工痕あり	
19	12	13層	弥生時代中期	シカ	角片		約1cm遺存	漆塗り? 加工品?	
12	10	13層	弥生時代中期	シカ	左	距骨	距骨頭のみ遺存	解体痕あり	
16	11	13層	弥生時代中期	シカ	右	舟状立方骨			矢状径 26.96 横径 30.62
10	8	13層	弥生時代中期	シカ	右	中足骨	近位端の前面のみ遺存、	切断痕あり	
11	10	13層	弥生時代中期	大型哺乳類		骨頭片		切歛痕あり	
15	11	13層	弥生時代中期	大型哺乳類		骨片	3		
13	11	13層	弥生時代中期	不明		骨頭片	遊離骨端 若い		
14	11	13層	弥生時代中期	不明		骨片	2		
18	12	13層	弥生時代中期	不明			4		
20	12	13層	弥生時代中期	不明		骨片	2 烧けている		
22	7	13層相当	弥生時代中期	シカ	左	角	分枝の基部	加工痕あり	
21	6	13層相当	弥生時代中期	シカ	左	肩甲骨	内側1/3破損	ト骨?	
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	前腕骨	複合が未癒合(3歳程度の大ささ)、上腕骨と同一固体	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	側頭骨～後頭骨		後頭骨に切断痕あり	
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	上頬骨	M3歯槽部周辺遺存、M3は2/3まで崩出、前頭骨と同一固体		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左右	下顎骨	下M3崩出の途中、左I3右P1.2以外はすべて倒根、Cの形態よりメス、3才前後?	右開節突起は 切断されそれ 以外の部分は解 剖せず	表4
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	一	第7?脚椎			
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	一	第1肋椎	木棺台		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	一	第22肋椎	未癒合のため若い		
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	肋骨	骨頭～体の1/2まで遺存、 骨頭と結節は未癒合		
2	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	寛骨	腸骨体～半脊柱節まで遺存		
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	肋骨	肋骨頭～骨体1/2まで遺存	3	
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	右	肋骨	肋骨頭～骨体1/2まで遺存	1	
5	12	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	大腿骨	骨幹達化～遠位端まで遺存		矢状径 50.27 横径 43.64
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	第3中足骨	遠位端未癒合	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ	左	第4中足骨	遠位端未癒合	加工痕あり	
3	11	大土坑	弥生時代中期	イノシシ		基節骨			
4	12	大土坑	弥生時代中期	大型哺乳類	不明				
5	12	大土坑	弥生時代中期	大型哺乳類	不明				
1	9	土坑17	弥生時代中期	イノシシ		長骨片			
6	9	ピット105	弥生時代中期	イノシシ	右	下頬骨	新生児程度の大きさ		
6	9	ピット105	弥生時代中期	イノシシ	左	腸骨	耳状面と翼の一部が遺存、 2才程度の大きさ		
6	9	ピット105	弥生時代中期	木					
6	9	ピット105	弥生時代中期	不明		骨片			
9	9	9・10層	奈良～吉備時代	土					
7	6	6層	中世	ウシ	不明	中手骨	骨幹のみ、非常に小さいため若い?		
8	3	7層	中世	大型哺乳類		長骨片			

第4表 出土イノシシ頸度表

種名 資料番号 左右	イノシシ	
	左	右
下顎骨全長 (1) id - goc	205.75	-
下顎骨全長 (2) id - Cm	233.60	-
下顎枝長 M 後縁より goc	63.04	-
goc より Pm 2 前縁まで	152.04	-
歯槽最大長 id - M 後縁	153.04	-
頬白歯長 (1) Pm 1 - M 後縁	107.49	-
頬白歯長 (2) Pm 2 - M 後縁	92.94	-
小白歯長 (1) Pm 1 - Pm 4	51.42	-
小白歯長 (2) Pm 2 - Pm 4	34.26	-
大臼歯長 M 1 - M 後縫	59.35	56.89
頸高 gov - 4	97.07	-
下顎体高 (1) M 後縫	43.52	-
下顎体高 (2) M 1 - Pm 4	34.81	-
下顎体高 (3) Pm 2 の前	36.31	-
下顎体厚 M 1 - M 2	17.67	-
犬齒歯槽最大長	11.64	11.71
犬齒歯槽最大幅	7.41	8.84

弥生時代中期の包含層と土坑やピットから出土した動物遺体はシカとイノシシのみである。種と部位が同定できた総数は20点で、シカは5点とイノシシの1/4である。中世からはウシが1点出土している。

弥生時代

遺構ごとに出土動物の比較を行った。

シカは包含層(13層)のみ出土しイノシシよりも出土量が多いが、最小個体数はいずれも1である。最小個体数には数えなかったが、シカの角の破片が多数出土し、加工痕の見られるものが大半であった。出土骨から年齢が推定できたものは、イノシシの左下顎骨のみで、第3第4臼歯が本崩出のため2歳前後である。

土坑とピットからはイノシシのみが出土し、そのうち大土坑からは3歳の現生標本の下顎骨と同程度のものが出土している。また、土坑には新生児程度の大きさの下顎骨が遺存している。

中世

6層からは若いと思われるウシの中手骨が出土しているが、両骨端が破損しているため詳細は不明である。

V. まとめ

今回の調査地は鬼虎川遺跡の北部の中央部西よりに位置する。このことは後述する弥生時代中期の本遺跡の状況を見る上で心得ておく必要がある。以下、調査の内容を簡単にまとめておく。

旧給食センターの建物が建っていた地盤は旧耕土面より2.35～2.5m近く盛り上げられていた。そのため、建造物による遺跡への影響は杭部分のみの最小限に止っていた。

ただし、この地域は古墳時代以降、住居などの集落が営まれた形跡はほとんどなく、川の流路や氾濫（自然流路とした）と整地のくり返しが行なわれていたようである。特に平安時代以降の明確な人の遺構は近世前半と考えられる東西方向の溝を1条確認したのみで、耕作地として利用したためと思われる整地層（中世末から近世前半、平安時代末から鎌倉時代前半、平安時代中ごろの3期）と平安時代前半、同後半、鎌倉時代後半以降の3時期の砂の堆積層を確認した。

奈良時代には、調査地全域にわたって整地土が見られ（弥生時代の遺物包含層や堆積層をも掘り起こしていたため、弥生土器などを包含していた）、西端上面で南北方向に延びる溝の東側部を検出した。溝の東肩は凹凸があり、その形態・用途については不明と言わざるを得ない。

古墳時代相当層は奈良時代の整地のために掘り返されたためか、奈良時代整地層などにこの時代の遺物は見られたが遺構は確認できなかった。

本遺跡は弥生時代中期の拠点集落として周知されているように、本調査地においてもこの時期の遺構、遺物を多量に検出した。中期末の溝・自然流路（2期）はあったが、中心をなしたのは中期初頭から後半にかけてである（前期の上器は見られるが）。中期初頭には南北約30mの大溝（大溝A）を境として南部域と北部域で様相を異にしていた。すなわち、南部域は集落に伴う遺構（柱・杭の残存するものを含むピット群、井戸などの土坑群など）と遺物を数多く検出したのに対し、北部域は少量の弥生土器は出土したが、遺構は見つからなかった。この傾向は中期後半まで継続していたようである。

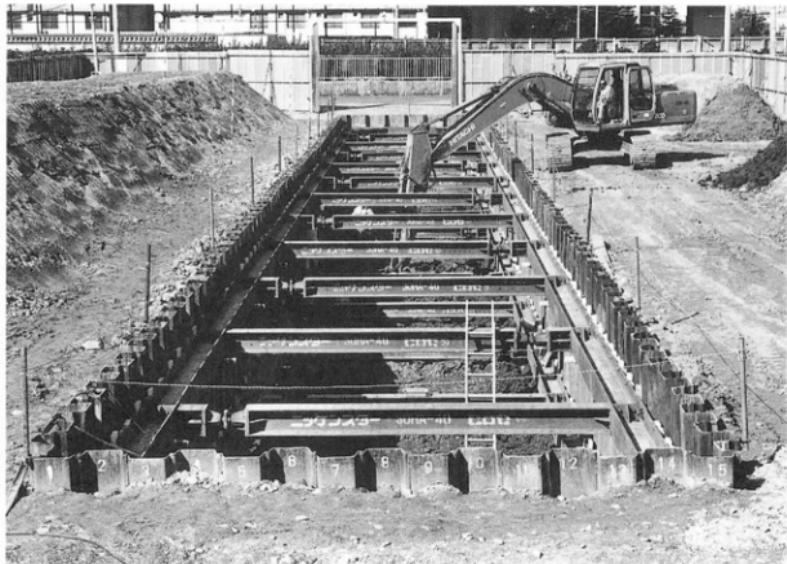
そこでこの時期の周辺の調査状況を概観しておくと（第3図参照）、東方の国道170号線西沿いの第44次調査で上坑墓など見られたが住居跡を思わせる遺構は見られていないのに対し、東沿いの第53次調査では多量のピット群、井戸などの土坑群を検出している。南方の第7次調査ではピット群などとともに貝塚が検出されて多量の遺物が出土し、東西部の第47次調査からは集落の西端を画していたと思われる大溝が検出されている。また、北西方の第14次調査は遺物量は少なく、数条の溝が存していた。

のことから、本調査域は弥生時代の（環濠）集落北側西方の一部（出張り状況を呈していたのかも）をなしていたのではないかと思われる。

図 版



1. 調査地航空写真—白星根が弥生給食センター—（1984年撮影）



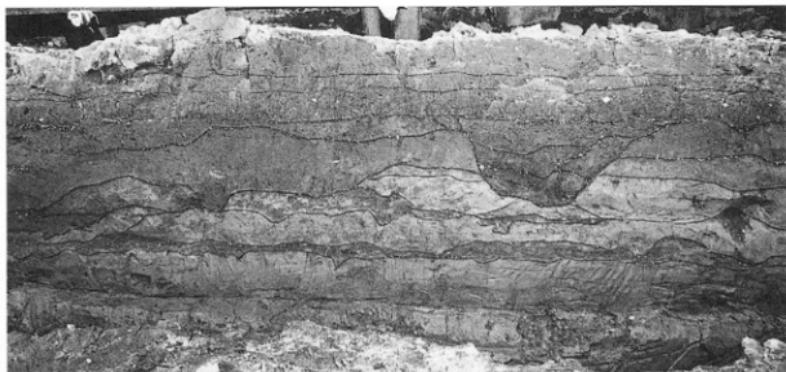
2. 調査トレンチ全景（南から）

图版
2

遗構



1. 西壁断面 - 6 地区付近 - 1



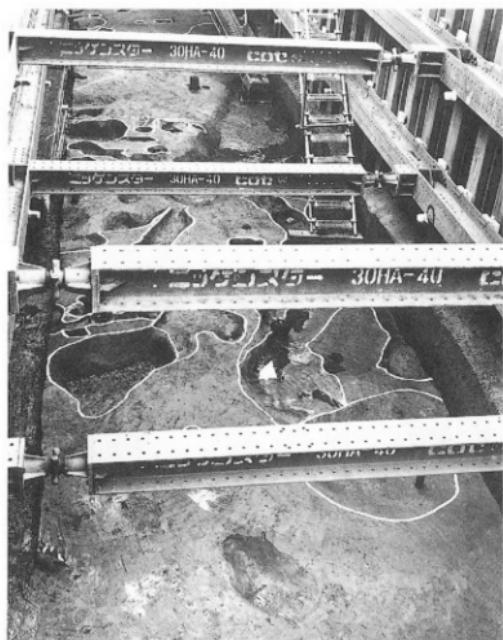
2. 西壁断面 - 6 地区付近 - 2



3. 西壁断面 - 6 地区付近 - 3

図版3

遺構



図版 4

遺構



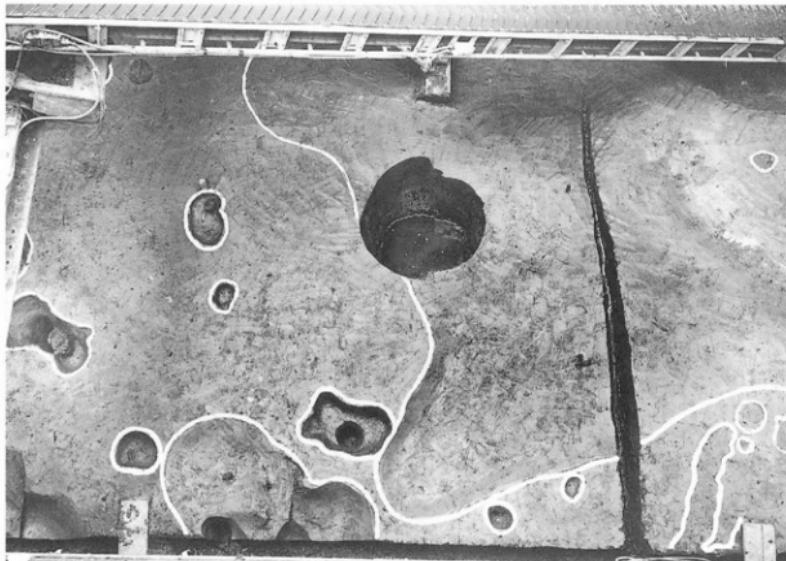
1. 第14層上面遺構－8地区－（東から）



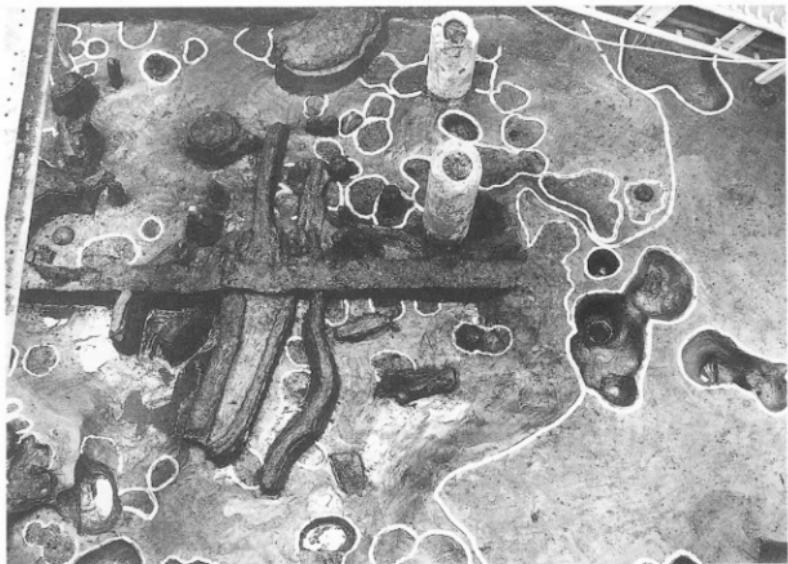
2. 第14層上面遺構－9地区－（東から）



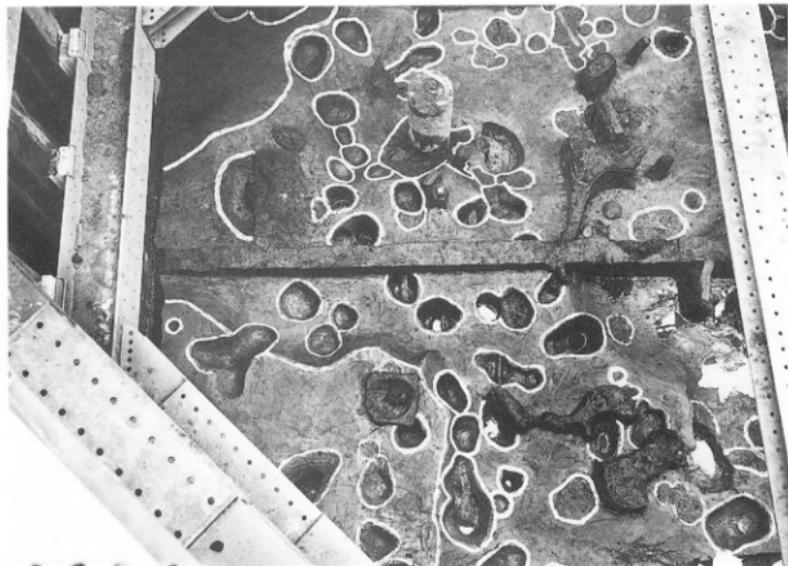
1. 第14層上面遺構—10地区から12地区—（北から）



2. 第14層上面遺構—10地区—（東から）



1. 第14層上面遺構－11地区－（東から）



2. 第14層上面遺構－12地区－（南から）



1. 大溝A内木製品出土状況
—2地区—(東から)



2. 大溝A北肩付近—1~3地区—
(北から)



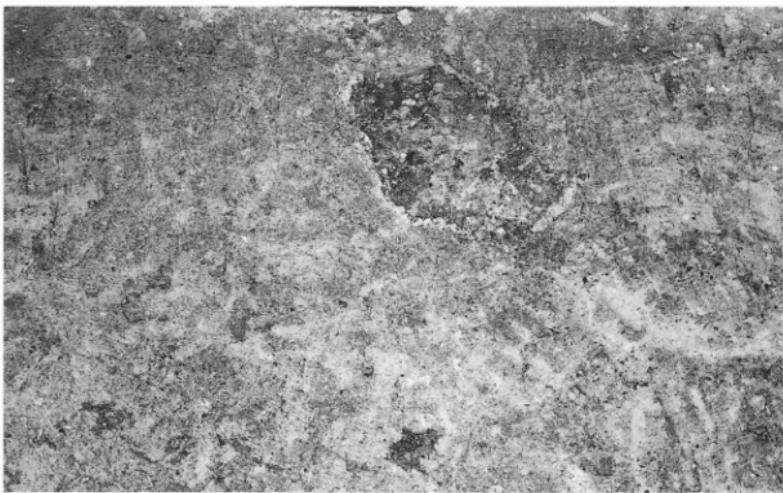
1. ピットa・b断ち割り状況-11・12地区-（南から）



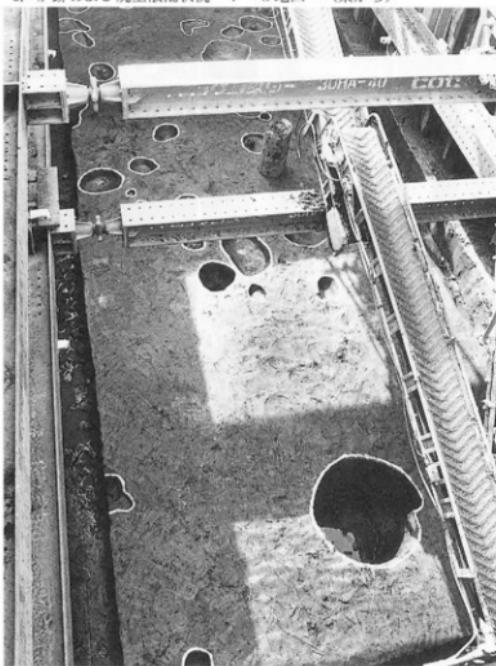
2. 各柱・杭断ち割り状況 1



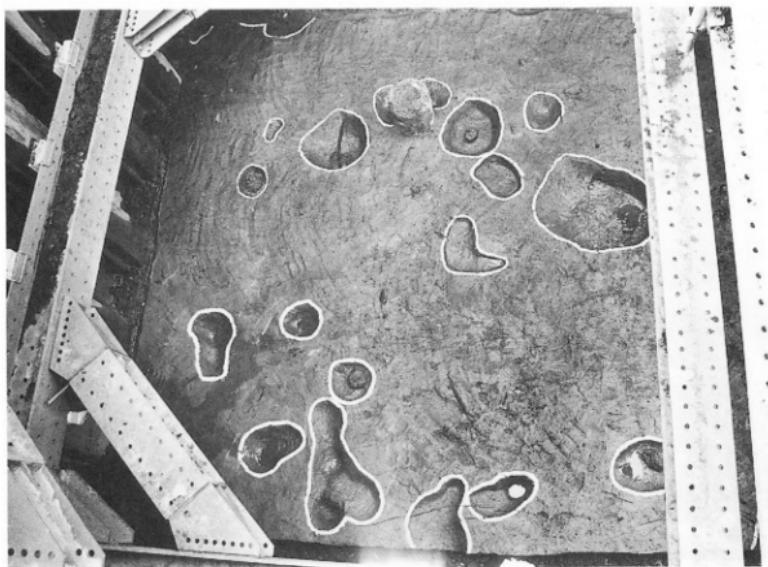
各柱・杭断ち割り状況1



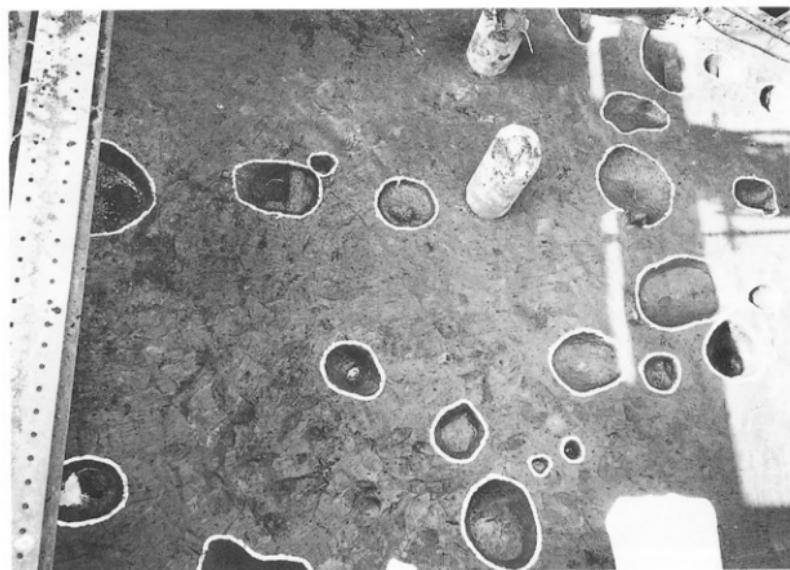
1. 炉跡および焼上散乱状況—7・8地区—（東から）



2. 第13下層上面遺構
—10～12地区—（北から）



1. 第13下層上面遺構—12地区—（東から）



2. 第13下層上面遺構—11地区—（東から）



1. 自然流路2南肩付近と同内足跡-3・4地区-（南から）



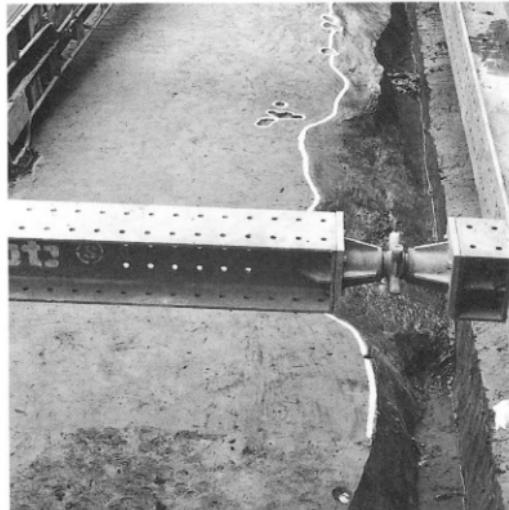
2. 自然流路1-2～3地区-（西から）



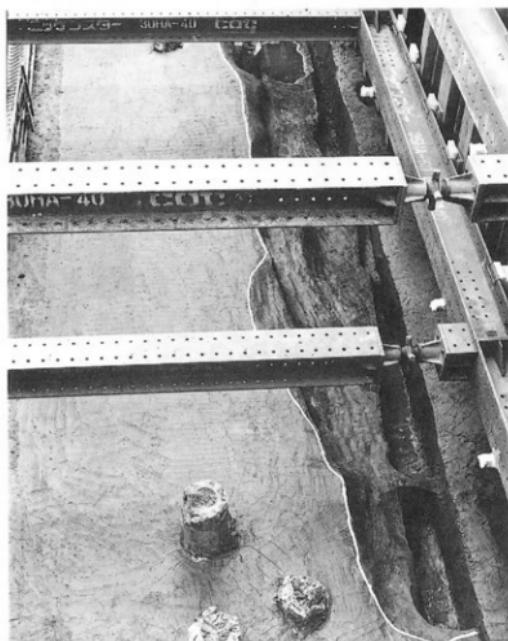
1. 溝4-1・2地区-（西から）



2. 第9層内石斧出土状況-8地区-（東から）



1. 第9層上面遺構－溝3－
(東から)



2. 第9層上面遺構2－溝1・2－
(北から)



32



14



39



13



51



49



16

大土坑・土坑5・16出土泥生土器 壺・甌・高坏・甕蓋



114



81



113



78



111



115



94

大溝1・溝13・落ち込み出土弥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋



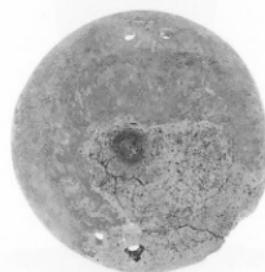
158



122'



214



122



203



120



176



121



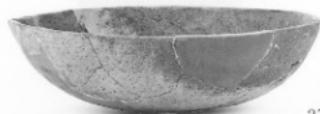
138



219



220



273



290



216



291



284



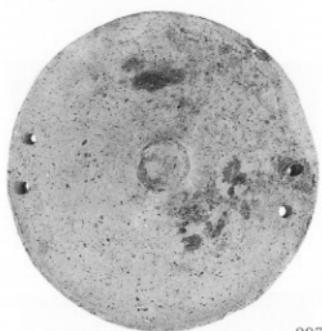
244



297



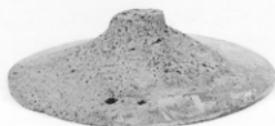
292



297'



279



303



276



343



293



395



339



400



330



350



407

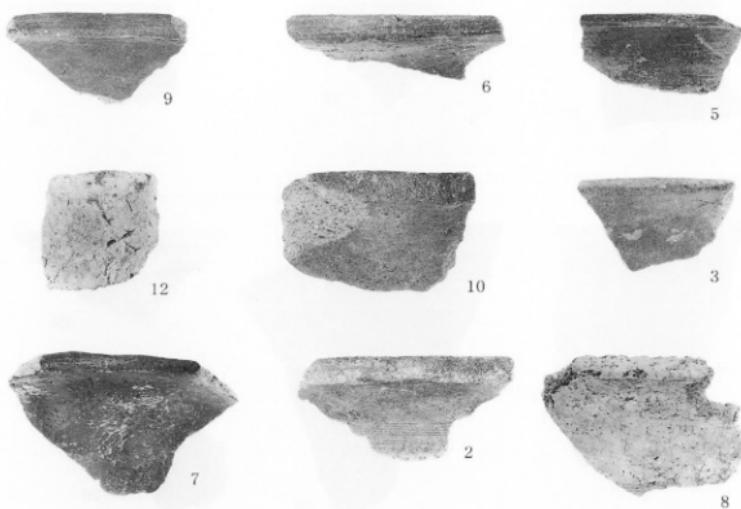


406

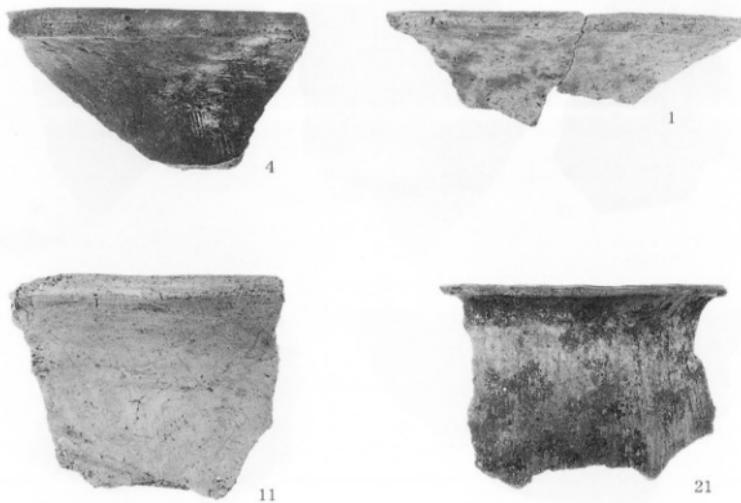


372

第13・14層出土弥生土器 壺・甕・台付無頭壺、第9層出土須恵器 坯・蓋坏



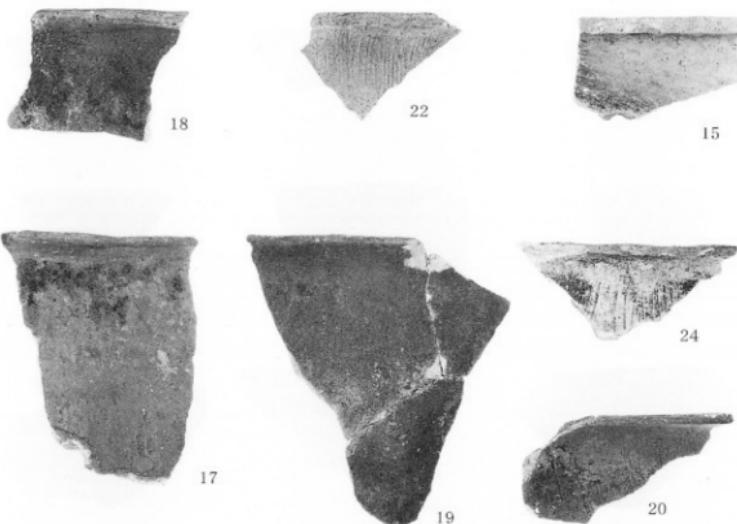
1. 大土坑出土弥生土器 壺・細頸壺



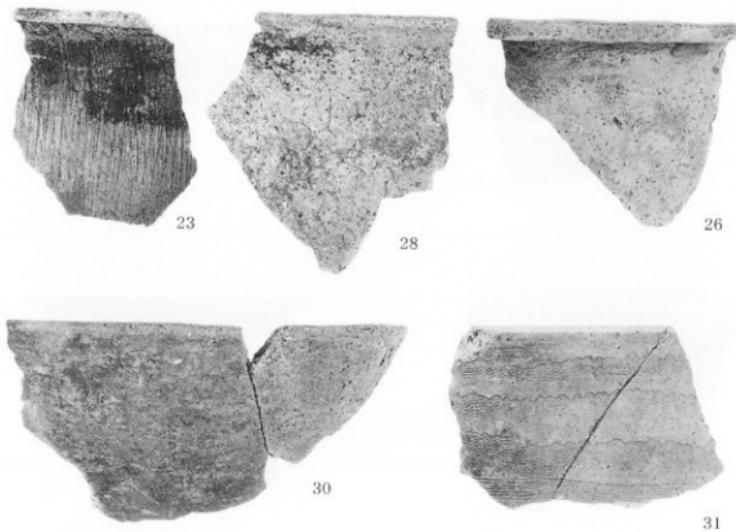
2. 大土坑出土弥生土器 壺・甕

圖版
22

遺物



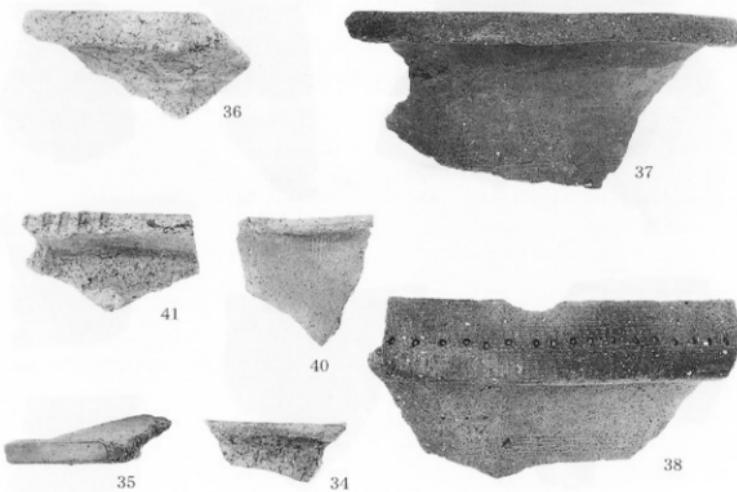
1. 大土坑出土弥生土器 瓢



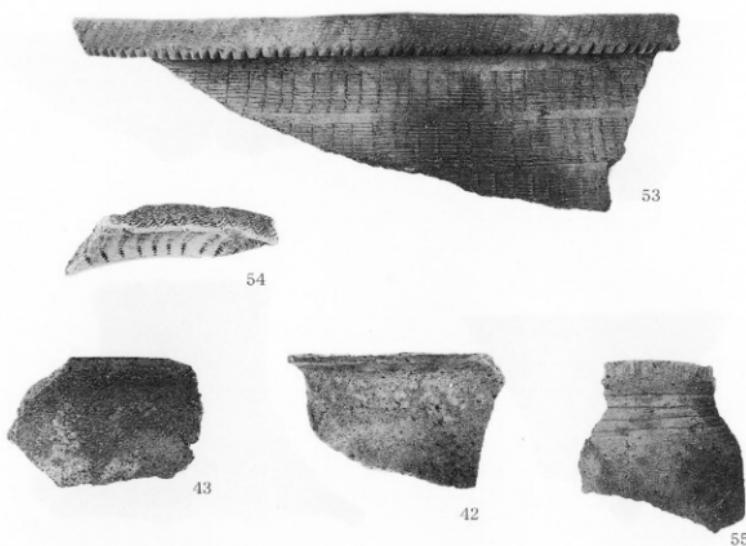
2. 大土坑出土弥生土器 瓢・鉢



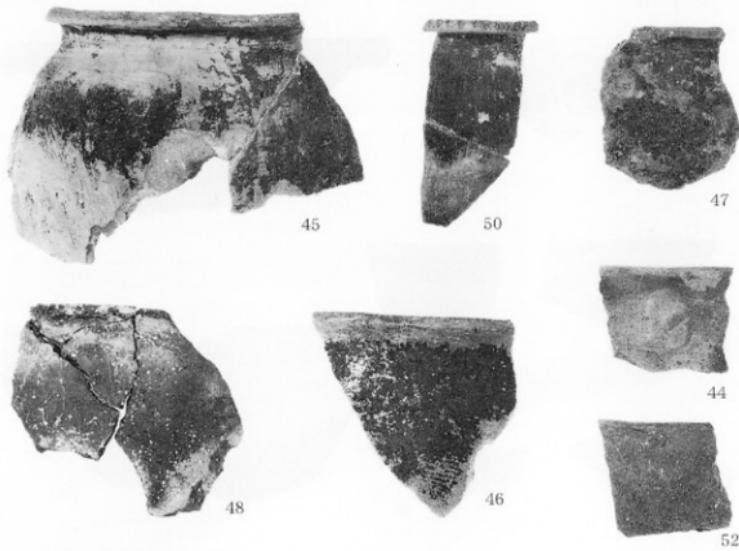
1. 大土坑出土弥生土器 鉢・甕蓋



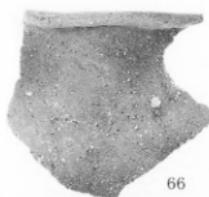
2. 土坑4・5・6出土弥生土器 壺・甕・高环・鉢



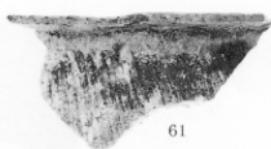
1. 土坑10・16・17・18出土弥生土器 鉢・壺・甌



2. 土坑16出土弥生土器 鉢・壺



66



61



62

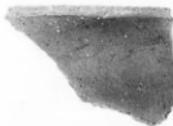


67



58

1. 大溝1出土弥生土器 豆



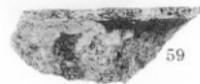
57



69



56



59



64



60



63

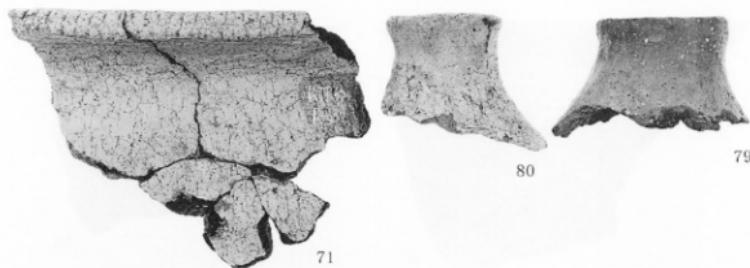


65

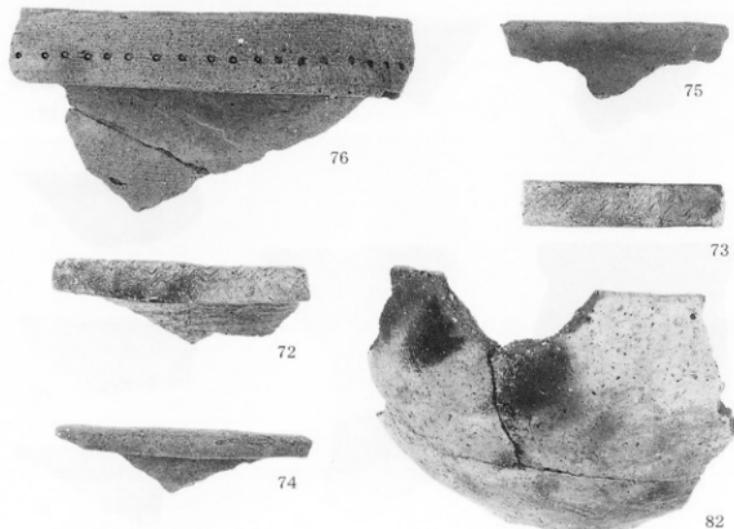
2. 大溝1出土弥生土器 豆

圖版
26

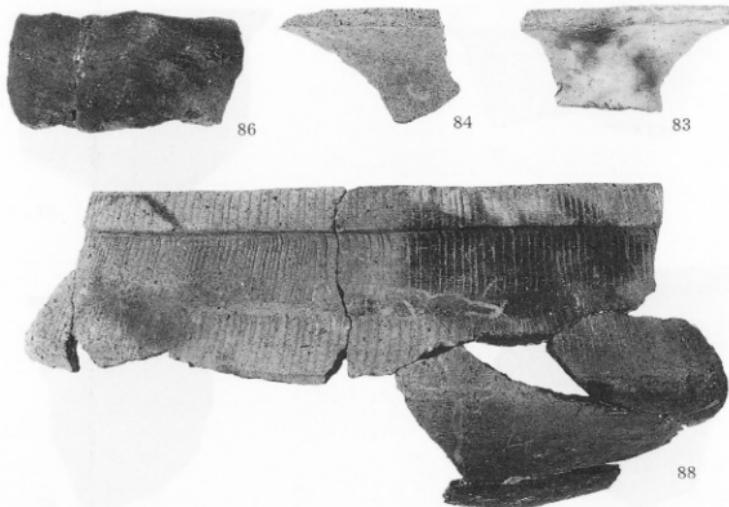
遺物



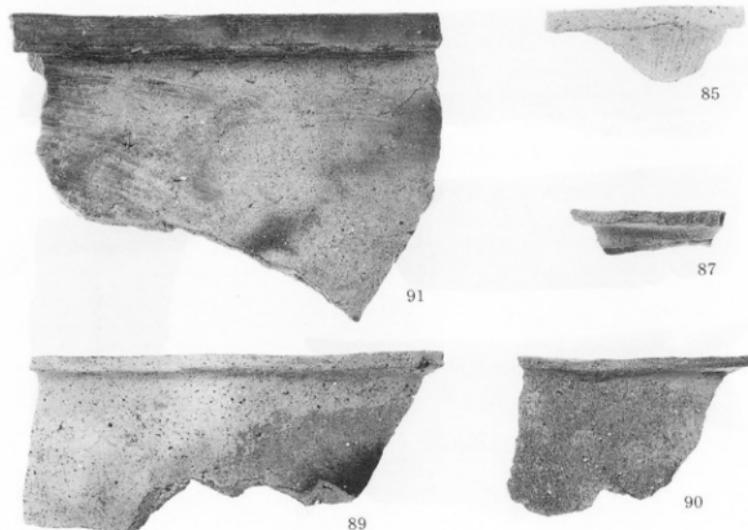
1. 大溝1出土弥生土器 菓・菓蓋・細頸壺



2. 大溝1出土弥生土器 葵・鉢



1. 溝2出土弥生土器 壺・細頸壺・鉢



2. 溝2・3・6出土弥生土器 壺・甕・鉢



96



92



95



93

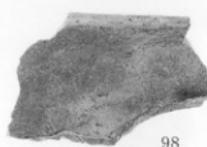


97

1. 溝B・C・D出土弥生土器 壺・甕・甕蓋



100



98



101



99



102

2. 自然流路出土弥生土器 甕・高环



110

107

104



108

106

116

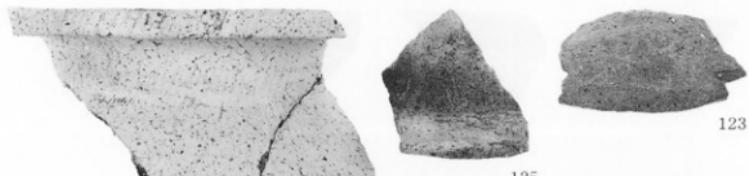


109

105

103

1. 落ち込み出土弥生土器 壺



125

123

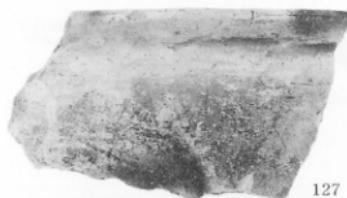


118

117

119

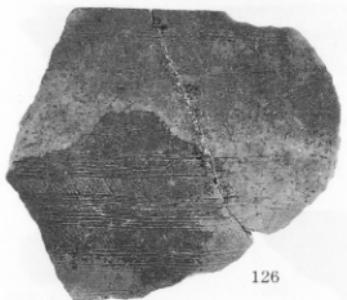
2. 落ち込み出土弥生土器 壺・壺蓋・壺環



127



128



126



137



136

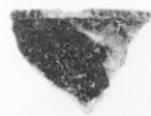
1. 落ち込み出土弥生土器 鉢・甌



140



133



134



129



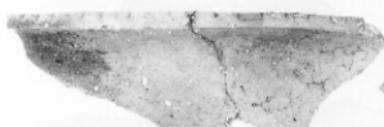
132



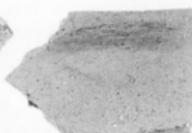
135



130

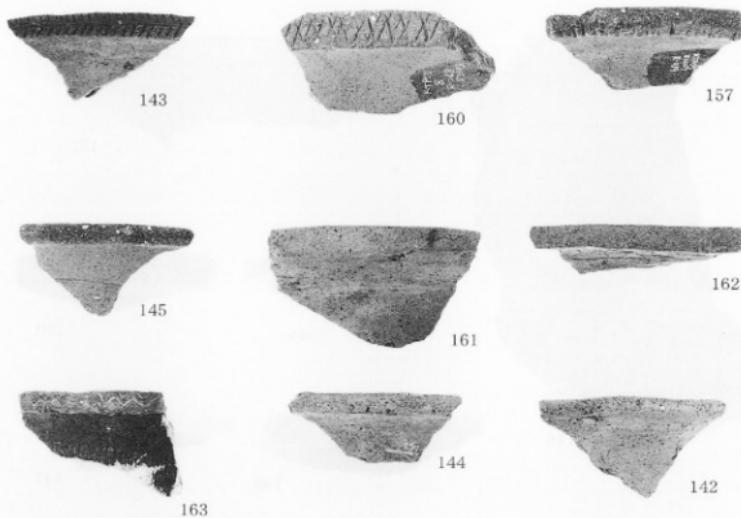


131

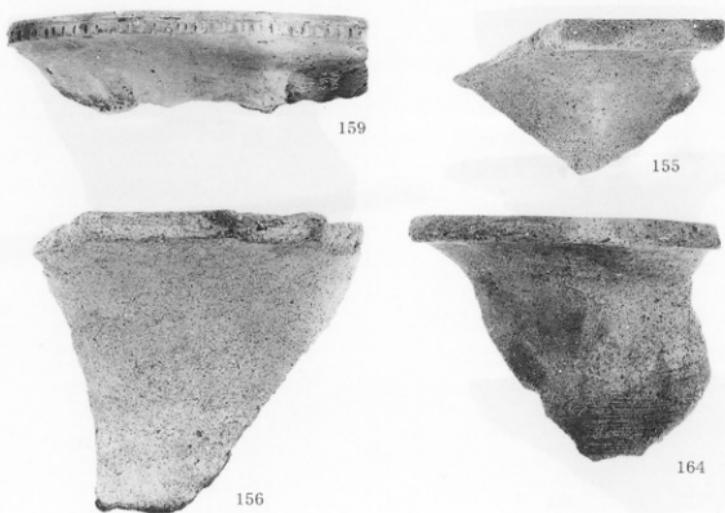


141

2. 落ち込み出土弥生土器 甌



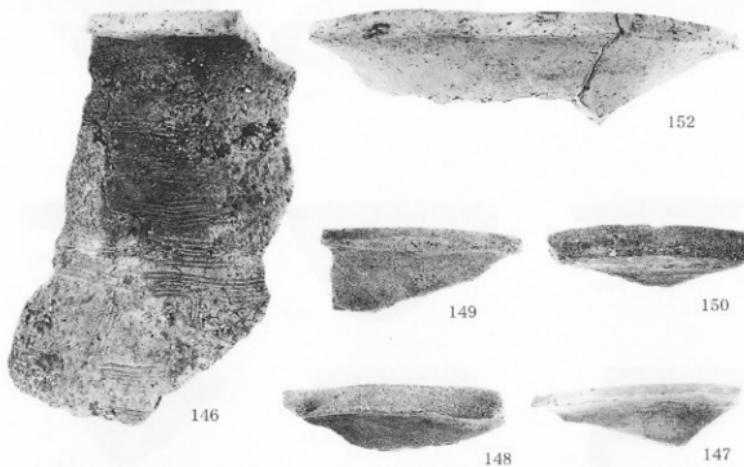
1. 第13層出土弥生土器 壺



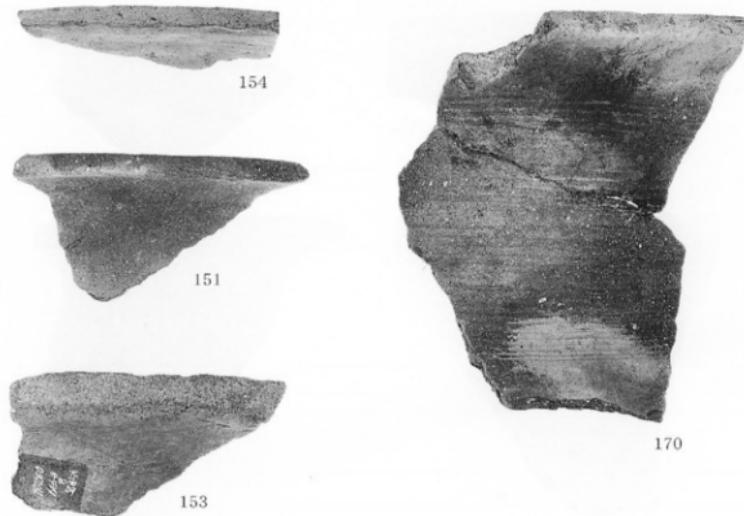
2. 第13層出土弥生土器 壺

圖版
32

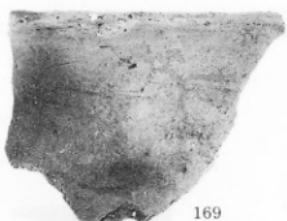
遺物



1. 第13層出土弥生土器 瓢



2. 第13層出土弥生土器 瓢



169



168



181



167



185

1. 第13層出土弥生土器 壺



184



182



180



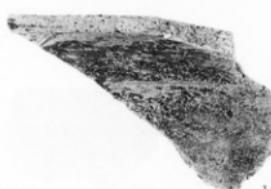
177



179



175



166



165



191

2. 第13層出土弥生土器 壺

圖版
34

遺物



172



183



187



173



188



174



186

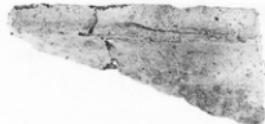


189



171

1. 第13層出土弥生土器 盆



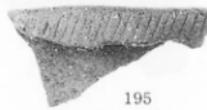
178



190



197



195



194



192



198



196

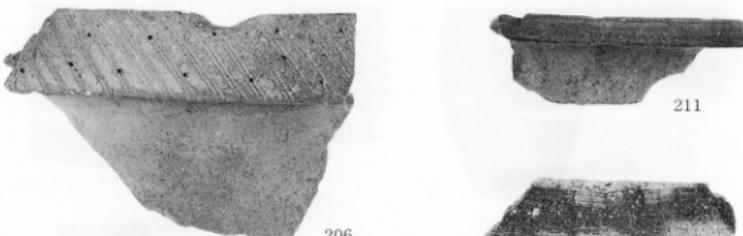


193

2. 第13層出土弥生土器 壺



1. 第13層出土弥生土器 壺



2. 第13層出土弥生土器 壺



210



209



218



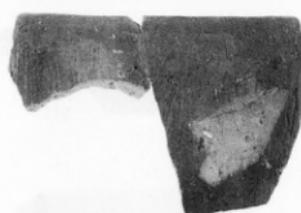
222



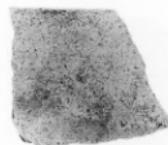
221



223



224



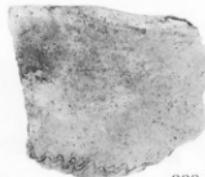
215



226



217



228



225



227

1. 第13層出土弥生土器 壺・細頸壺

2. 第13層出土弥生土器 細頸壺・水差形土器



230



229



238



232



231



245

1. 第13層出土弥生土器　甕蓋・台付無頸甕・鉢



243



240



239



234



246



242

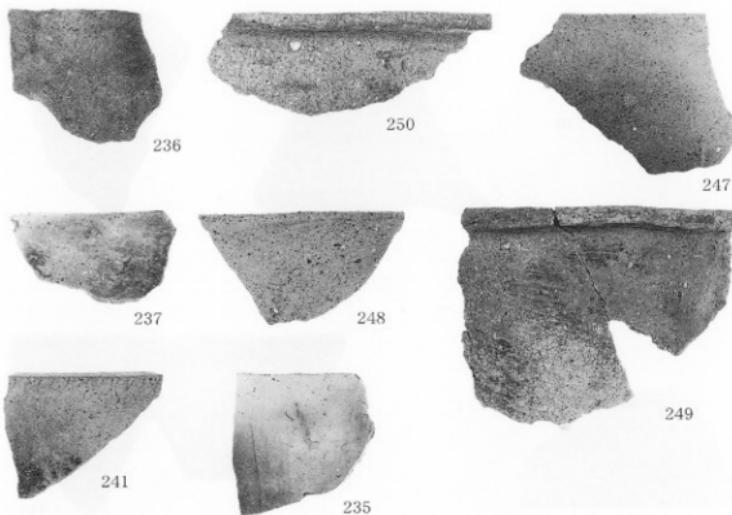


233

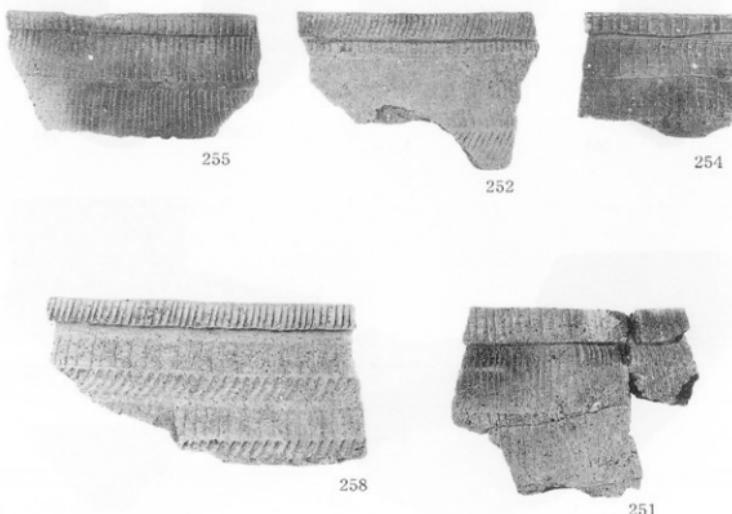
2. 第13層出土弥生土器　鉢

圖版
38

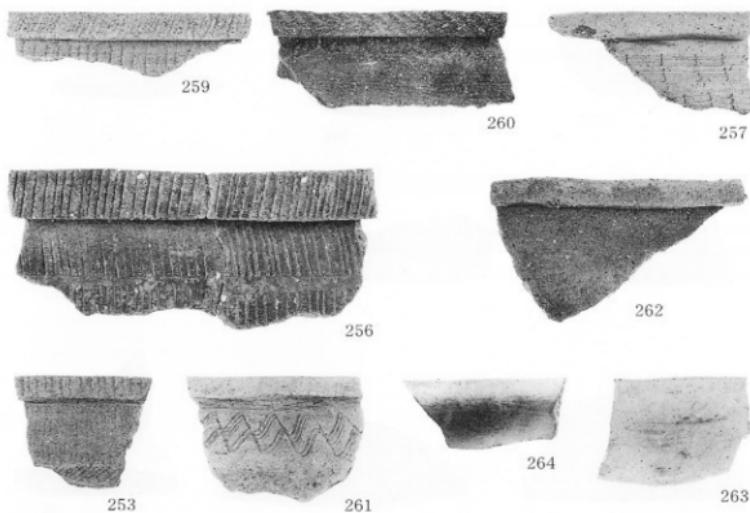
遺物



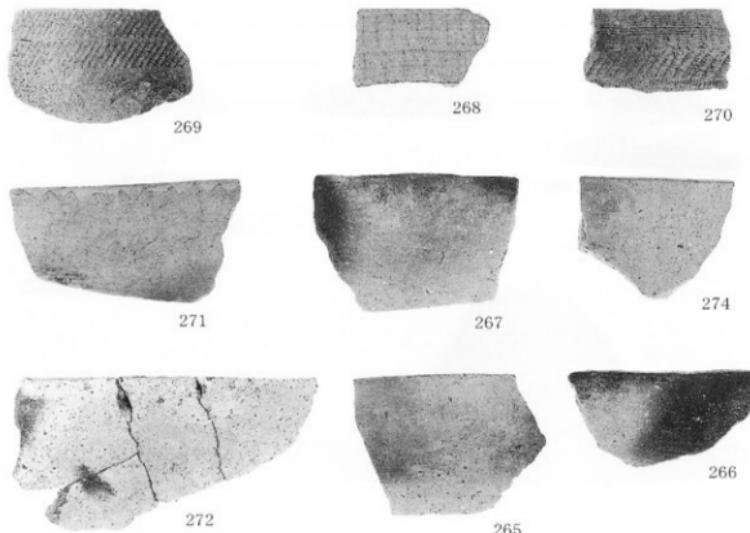
1. 第13層出土弥生土器 鉢



2. 第13層出土弥生土器 鉢



1. 第13層出土弥生土器 鉢・高坏



2. 第13層出土弥生土器 高坏

圖版
40

遺物



275



286



282



296



283



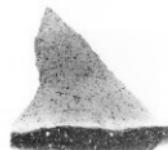
281



295

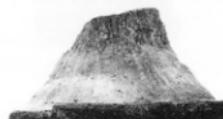


294



285

1. 第13層出土弥生土器 高坏



289



288



278



277

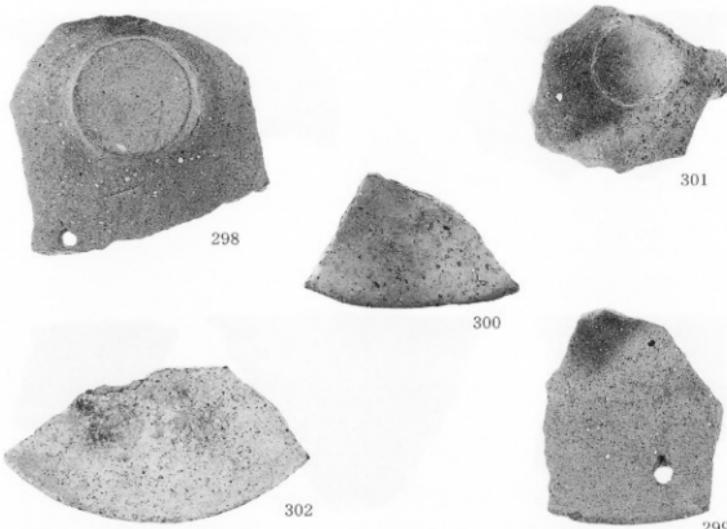


287

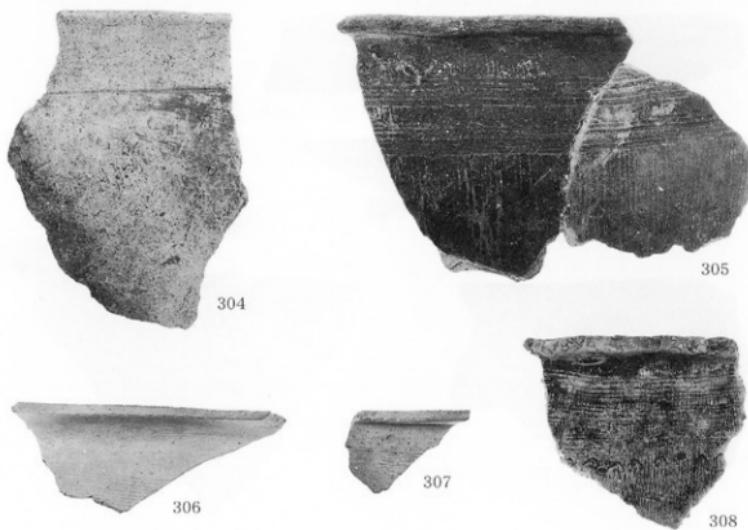


280

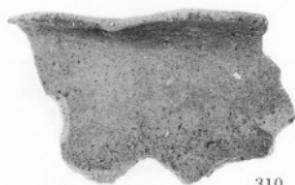
2. 第13層出土弥生土器 高坏



1. 第13層出土弥生土器 葫蘆



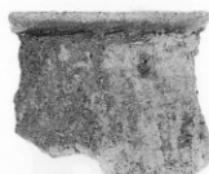
2. 第13層出土弥生土器 豹



310



311



312



313



309

1. 第13層出土弥生土器 壺



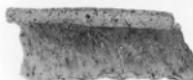
325



318



319



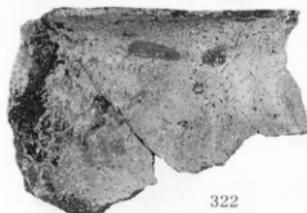
316



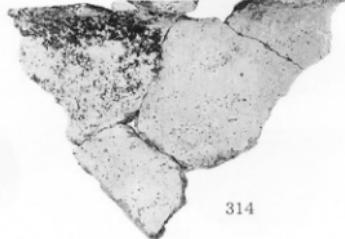
315



324

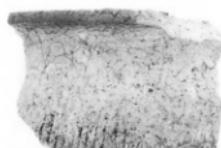


322

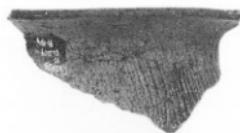


314

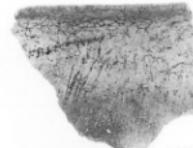
2. 第13層出土弥生土器 壺



317



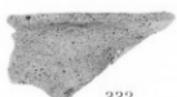
323



321



320



332



329



326



349



345

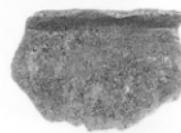
1. 第13層出土弥生土器 袋



335



344



338



340



342



341

2. 第13層出土弥生土器 袋

图版
44

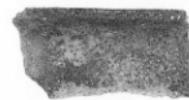
遗物



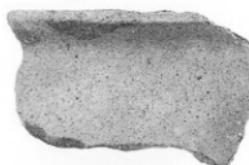
328



333



334



327

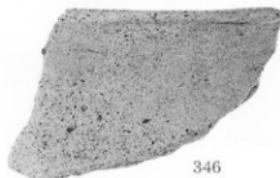


337



336

1. 第13层出土弥生土器 瓶



346



347



348



331

2. 第13层出土弥生土器 瓶



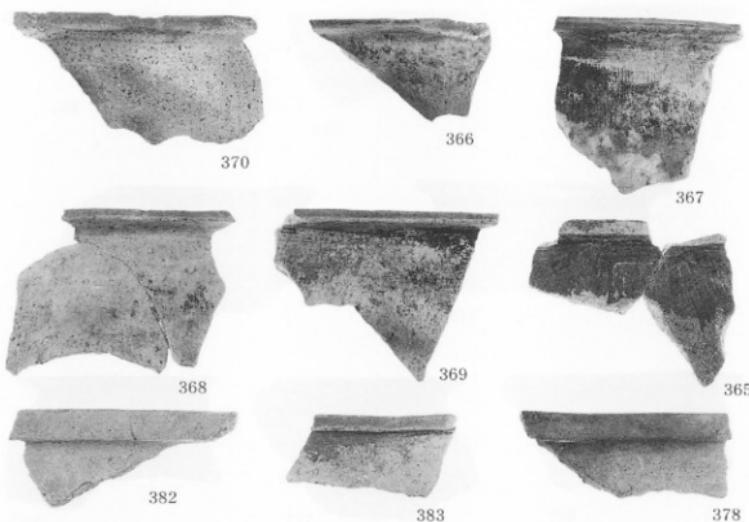
1. 第13層出土弥生土器 袋



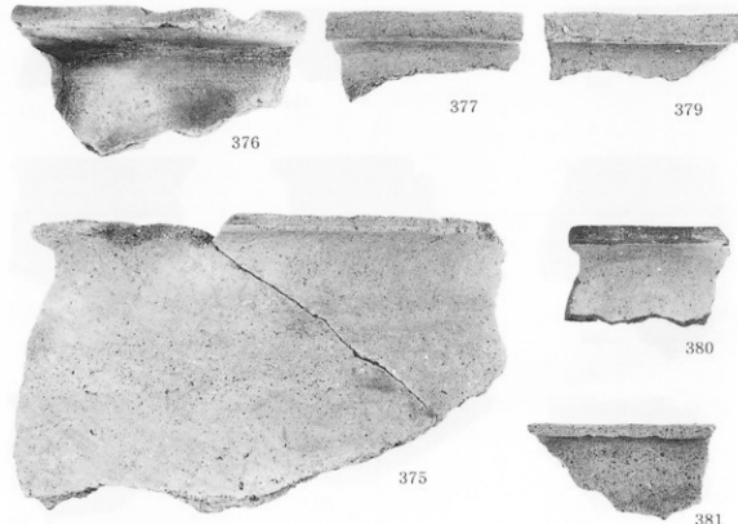
2. 第13層出土弥生土器 袋

圖版
46

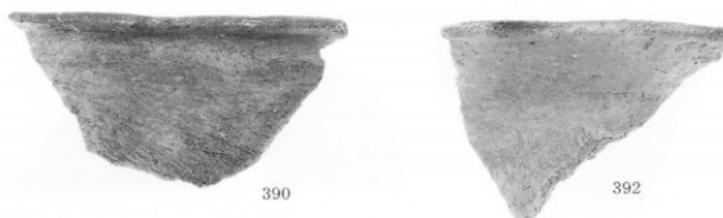
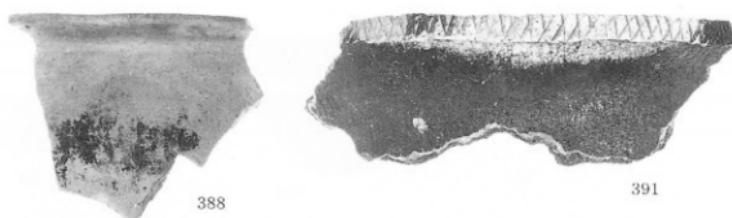
遺物



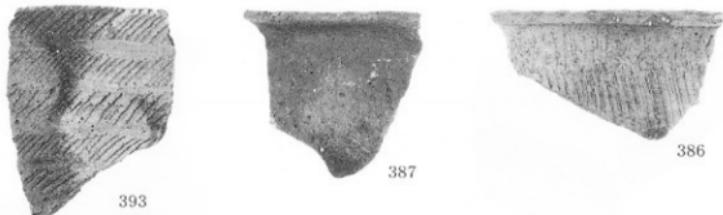
1. 第13層出土弥生土器 豐



2. 第13層出土弥生土器 豐



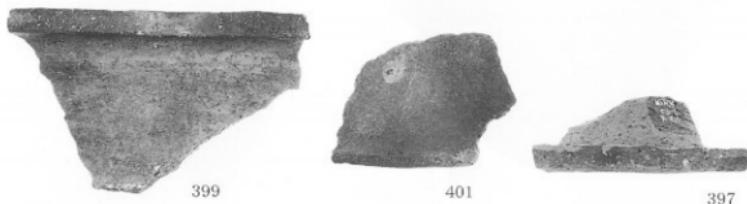
1. 第14層出土弥生土器 壺・甌



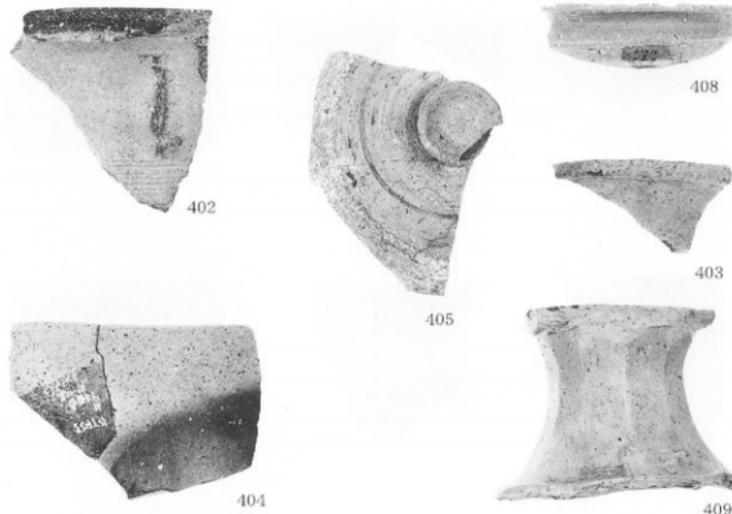
2. 第14層出土弥生土器 壺・高杯・甌

圖版
48

遺物



1. 第14層出土泥生土器 壺・甕・高坏・甕蓋



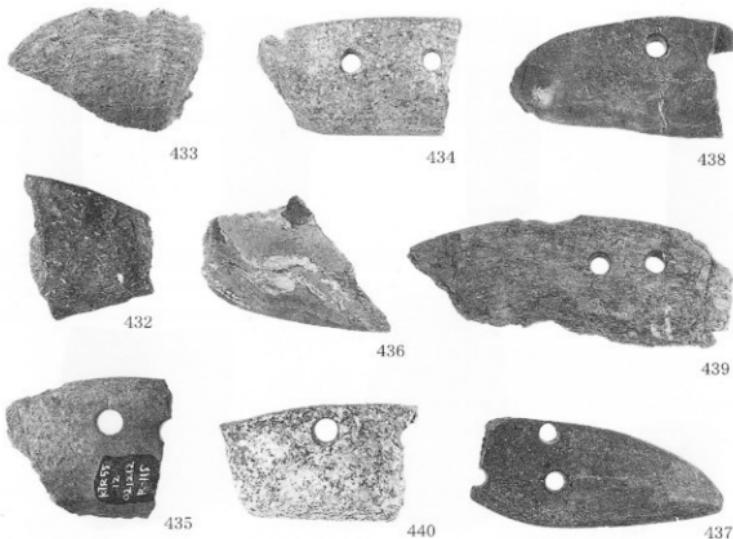
2. 第9層出土泥生土器 壺・鉢、須恵器 坯・蓋坏・土師器 高坏



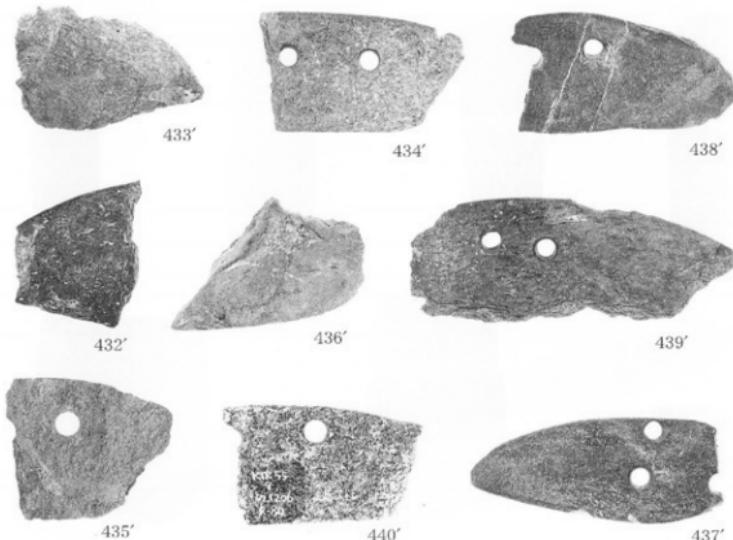
1. 石器（表）



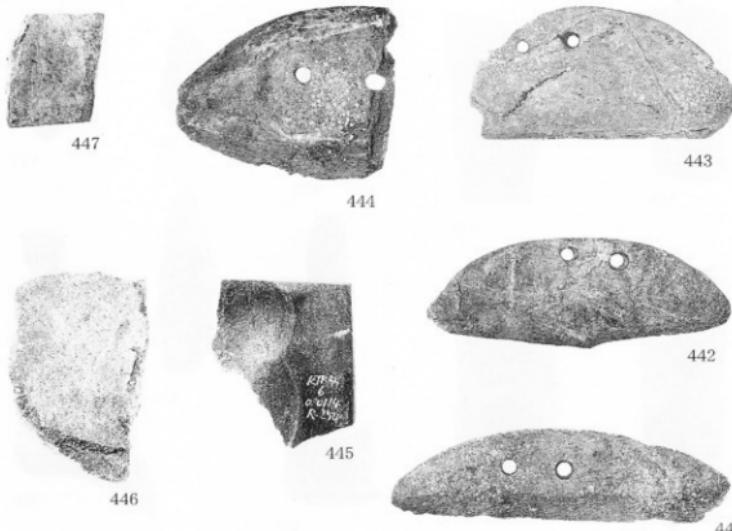
2. 同上（裏）



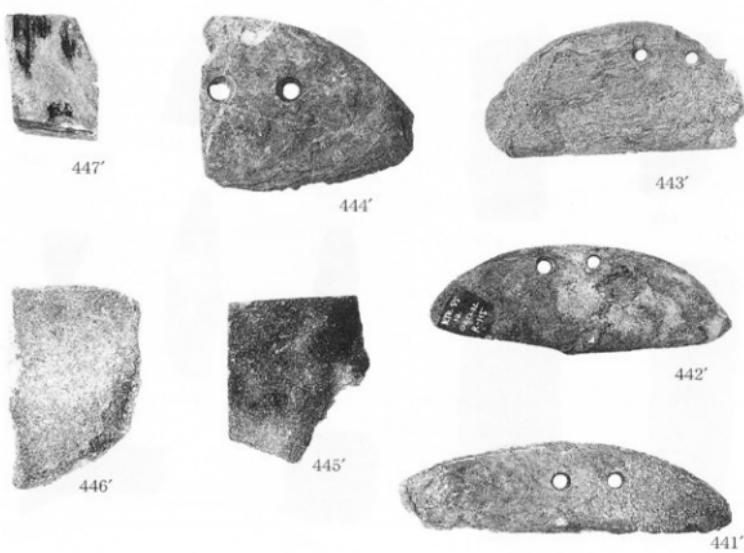
1. 石器（表）



2. 同上（裏）



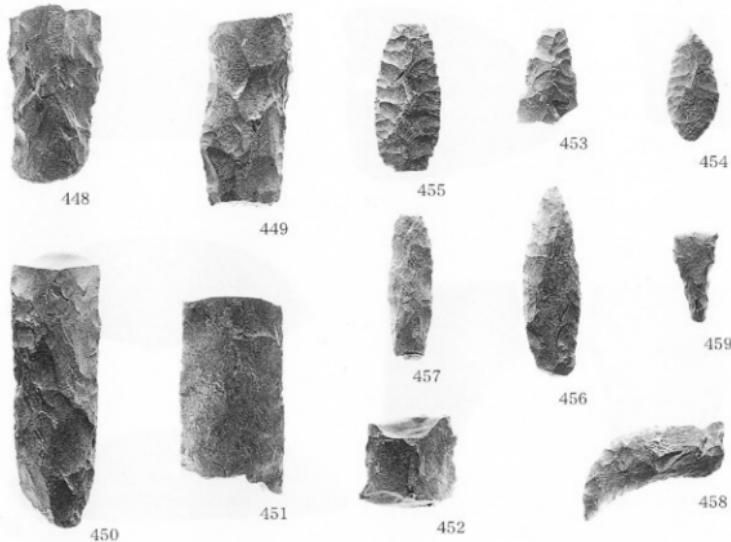
1. 石器（表）



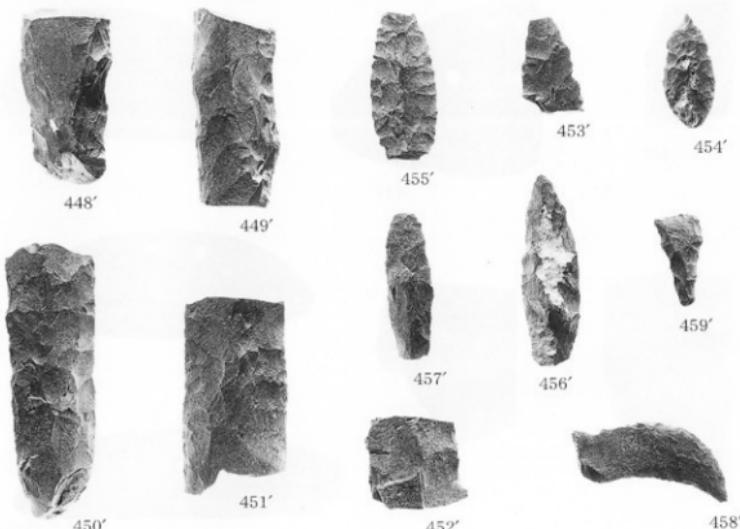
2. 同上（裏）

圖版
52

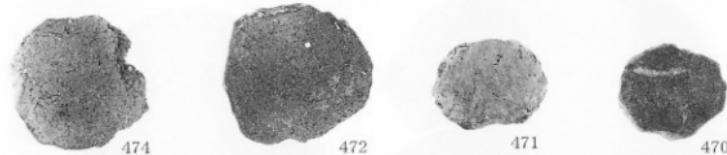
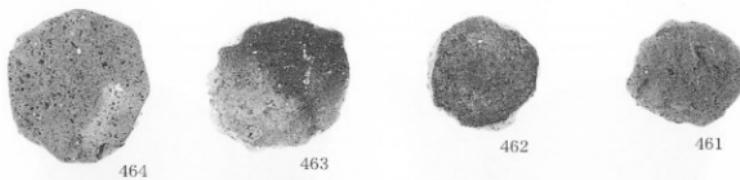
遺物



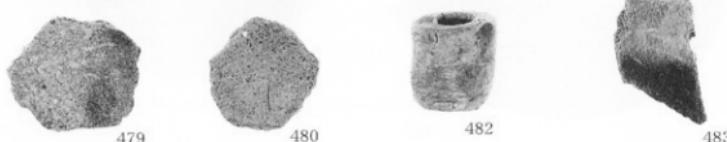
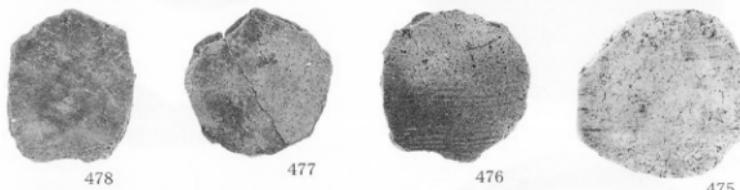
1. 石器 (表)



2. 同上 (表)



1. 土製品



2. 土製品・骨製品

圖版
54

遺物



412

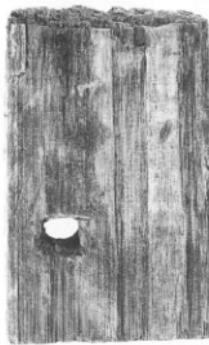


410



411

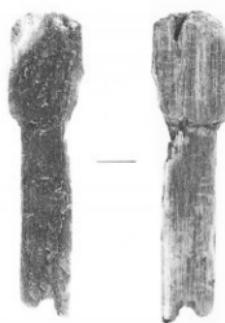
木製品



416



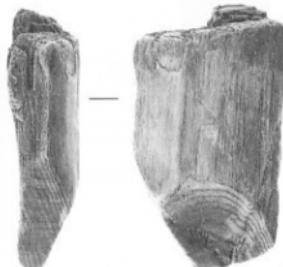
413



417



415



414

木製品

圖版
56

遺物



418



421



424



419



420



422



423

木製品



資5



資3



資2



資21



資22



資7

報告書抄録

ふりがな	きとらがわいせきだい55じはっくつちょうさほうこく					
書名	鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告					
副書名						
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	若松博恵・才原金弘・安部みき子					
編集機関	東大阪市教育委員会					
所在地	〒577-8521 大阪府東大阪市荒本北50番地の4					
発行機関	東大阪市教育委員会					
発行年月日	平成16年3月31日					
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	市町村 コード	遺跡番号	調査期間	調査面積	
きとらがわいせき 鬼虎川遺跡	おわきかふ 大阪府 ひがしのおさかし 東大阪市 やよいちょう 弥生町 17番地	27227	46	平成14年 10月9日 ～ 平成15年 2月13日	292m ²	給食セン ター建設
種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
集落跡	弥生時代 中世～近代	溝・ピット 井戸・土坑 自然流路	弥生土器 土師器 須恵器 瓦器 陶磁器 石製品 木製品 動物遺体			

東大阪市立弥生給食センター建設事業に伴う

鬼虎川遺跡第55次発掘調査報告

平成16年3月31日

発行所 東大阪市教育委員会

印刷所 グランド印刷株式会社

